

○法人營業税法施行規則

(昭和二年六月二十九日)

改正 昭和四年八月經濟部令第一三號 同一年二月四日
九六號 五年一月二日第五六號 六年二月第七八號
七年二月第七六號

茲ニ法人營業税法施行規則ヲ左ノ通制定ス
第一條 法人ノ主たる事務所又ハ本店ヲ管轄スル稅捐局ヲ以テ
法人營業稅ノ所轄稅捐局トス但シ外國法人ニ付テハ外國法人
法ニ依リ本店ト看做サルベキ支店ヲ管轄スル稅捐局ヲ以テ所
轄稅捐局トス
第二條 法人營業稅ノ課稅標準タル普通利益ハ法人ノ營業中法
人營業稅ヲ課スベキ營業ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シテ之ヲ
計算ス
法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル益金又ハ損金ハ其ノ事業年
度ノ課稅標準タル普通利益ノ計算上總益金又ハ總損金ニ之ヲ
算入セズ
第三條 附則
第四條 一 法人營業税法第六條第一項第二號ノ資本金額ハ該
常事業年度ノ各月末ニ於ケル株式金額、出資金額及積立
金ノ合計月平均額ニ依ル
法人營業稅ヲ課スベキ純益ト其ノ他ノ利益トヲ有スル法人ノ
場合ニ於ケル法人營業税法第六條第一項第二號ノ資本金額ハ
其ノ法人ニ付前項ニ準ジ計算シタル其ノ總資本金額ニ總資產
價額ニ對スル法人營業稅ヲ課スベキ純益ノ基本タル資產價額
ノ割合ヲ乘ジテ計算ス但シ資產價額ノ割合ニ依ルテ不適當
トスルトキハ收入金ノ割合其ノ他適當ノ標準ニ依リ之ヲ計算
スルヲ妨グズ

第五條 一 法人營業税法第六條第一項第二號ノ資本金額ニ對
シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ハ前條ノ規定ニ依
リ計算シタル資本金額ニ該常事業年度ノ月數ヲ乘ジ十二分シ
タル金額ニ百分ノ十ヲ乘ジテ之ヲ計算ス
外國法人ノ營業ノ純益ハ外國法人法ニ依リ本店ト看做
サルベキ支店ニ於テ左ノ各號ニ依リ一括シテ之ヲ計算ス
一 普通利益ノ計算ニ付法人營業税法施行地ニ於ケル營業ノ
純益金額ヲ區分シテ計算シ得ザルトキハ當該法人ノ總純益
金額ニ其ノ總收入金額ニ對スル法人營業税法施行地ニ於ケル
營業ノ收入金額ノ割合ヲ乘ジテ之ヲ計算ス但シ收入金額ノ
割合ニ依ルテ不適當トスルトキハ資產價額ノ割合其ノ他適
當ノ標準ニ依リ之ヲ計算スルヲ妨グズ
二 超過利益ノ計算ニ付第三條ノ二ニ規定スル資本金額ハ其
ノ法人總資本金額ニ總資產價額ニ對スル法人營業税法施行
地ニ於ケル資產價額ノ割合ヲ乘ジテ之ヲ計算ス但シ資產價額
ノ割合ニ依ルテ不適當トスルトキハ收入金ノ割合其ノ他適
當ノ標準ニ依リ之ヲ計算スルヲ妨グズ
三 清算利益ノ計算ニ付法人營業税法第六條第一項第三號ノ
規定ニ依リ殘餘財產ノ價額ヨリ控除スベキ金額ハ支店閉鎖
ノ當時ニ於テ法人營業税法施行地外ノ本店ニ對シテ有シ
タル貸借關係決定ノ合計金額ニ依ル
第六條 法人營業税法第八條ノ規定ニ依リ申告ハ法人ノ代表者
ニ於テ課稅標準及其ノ計算ノ基礎ヲ記載シタル申告書ニ財產
目録、貸借對照表、損益計算書又ハ清算書ハ合併ニ關スル書
類ヲ添ヘ稅捐局長ニ提出シテ之ヲ爲ス但シ外國法人ニ在
リテハ外國法人法ニ依リ定メタル代表者、法人營業税法第二
條第二項ノ業務執行社員ニ在リテハ當該社員ノ業務ヲ執行スル
者ニ於テ之ヲ爲スベシ
法人ノ普通利益及超過利益ニ對スル前項ノ申告ハ每事業年度
終了ノ月ノ翌月ヨリ起算シ四月内ニ於ケル決算確定ノ日又ハ

解散、合併、支店閉鎖若ハ法人營業税法第一條但書ニ該當ス
ルニ至リタル日ヨリ起算シ十四日以内ニ之ヲ爲スベシ
解散シタル法人ノ清算利益ニ對スル第一項ノ申告ハ總資產
價額決定シタルトキ其ノ分配前ニ之ヲ爲スベシ殘餘財產ヲ數同
分テ分配スル場合ニ於テハ其ノ分配スベキ殘餘財產決定ノ
程度ヲ爲スベシ
合併ニ因リテ清算シタル法人ノ清算利益ニ對スル第一項ノ申
告ハ合併ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ合併後存続スル法人又ハ
合併ニ因リテ設立シタル法人ニ於テ之ヲ爲スベシ
前二項ノ規定ハ外國法人ノ支店閉鎖シタル場合ニ於テ爲スベ
キ清算利益ノ申告ニ付テ之ヲ適用ス
前各項ノ規定ハ法人營業稅ヲ課セラルベキ法人ニ付其ノ營業
ノ純益ヲモ場合又ハ法人營業税法ノ適用ヲ受タル法人ガ開法
第一條但書ニ該當スルニ至リタル場合ニ之ヲ適用ス
第六條 稅捐局長ハ法人營業税法第九條ノ規定ニ依リ課稅標準ヲ
決定シタルトキハ書面ヲ以テ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ
第七條 法人營業税法第十條第一項ノ規定ニ依リ課稅標準ノ審
査ヲ請求セントスル者ハ前條ノ決定通知ヲ受ケタル日ヨリ起
算シ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ記載シタル書面ニ證據書類ヲ添
ヘ其ノ決定ヲ爲シタル稅捐局長ヲ經由シ稅務監督官長ニ提出
スベシ
第八條 稅務監督官長ハ法人營業税法第十一條ノ規定ニ依リ課稅
標準ヲ決定シタルトキハ書面ヲ以テ之ヲ納稅義務者ニ通知ス
ベシ
稅務監督官長ハ法人營業税法第十條第一項ノ請求ヲ受ケタル場
合ニ於テ其ノ請求ガ手續ニ違背シタルモノナルトキハ書面ヲ
以テ之ヲ却下スベシ
第九條 法人營業税法第十二條第一項ノ規定ニ依リ課稅標準ノ
審查ヲ請求セントスル者ハ前條第一項ノ決定通知又ハ同條第
二項ノ却下ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三十日以内ニ不服ノ

事由ヲ記載シタル書面ニ證據書類ヲ添ヘ其ノ決定ヲ爲シタル
稅務監督官長ヲ經由シ經濟部大臣ニ提出スベシ
第十條 經濟部大臣ハ法人營業税法第十三條ノ規定ニ依リ課稅標
準ヲ決定シタルトキハ書面ヲ以テ之ヲ納稅義務者ニ通知ス
第八條第二項ノ規定ハ經濟部大臣ニ對シテ爲シタル法人營業
税法第十二條第一項ノ請求ガ手續ニ違背シタルモノナル場合
ニ付テ之ヲ適用ス
第十一條 法人ヲ設立シタルトキハ設立ノ後十日以内ニ定款又ハ
之ニ相當スル書類ニ設立ノ當時ニ於ケル財産目録及貸借對照
表ヲ添ヘ稅捐局長ニ提出スベシ
前項ノ規定ハ第四條ニ該當スル外國法人ガ支店ヲ設置シタル
場合又ハ法人營業税法第一條但書ニ規定スル法人ガ開法ノ適
用ヲ受タルニ至リタル場合ニ之ヲ適用ス
第十二條 法人營業税法第十六條ノ規定ニ依リ申告ハ法人ノ代
表者ニ於テ當該事實アリタル日ヨリ起算シ十日以内ニ其ノ旨ヲ
記載シタル申告書ヲ稅捐局長ニ提出シテ之ヲ爲スベシ
第五條第一項但書ノ規定ハ前項ノ申告ニ付テ之ヲ適用ス
第十三條 稅務監督官長ハ法人營業税法第十七條ノ規定ニ依リ職務ヲ
執行スルトキハ其ノ職務ヲ證明スル書類ヲ携帶スベシ
第十四條 本令ハ昭和二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
附則 (昭和四年十二月經濟部令第九六號)
本令ハ昭和五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ存スル外國法人ハ第四條第一項ニ該當スル
支店ニ於テ定款又ハ之ニ相當スル書類ヲ昭和五年一月三十一
日迄ニ稅捐局長ニ提出スベシ
附則 (昭和五年十二月經濟部令第五六號)
本令ハ昭和六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和六年二月部令第七八號)
本令ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス本令施行ノ際法人營業
税法第一條但書ニ該當スル法人ノ昭和七年一月一日ト昭和六年
十二月三十一日トニ跨ル事業年度分ノ普通利益及超過利益ノ申
告ハ第五條第二項ノ規定ニ拘ラズ其ノ事業年度決算確定ノ日ヨ
リ起算シ二月二十八日經令第七六號)
附則 (昭和七年七月七日經令第七六號)
本令ハ昭和八年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和七年七月七日經令第七六號)
本令ハ昭和八年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○出產糧石税法

(大同二年十一月三十日) 敕令第九十四號

改正 康徳元年二月勅令第一八七號、二年六月第五八號、三年二月第一九六號、四年八月第二二八號、茲參議府ノ諮詢ヲ經テ出產糧石税法ヲ制定シ之ヲ公布セシム

第一條 國內ニ於テ糧石ヲ出產スル者ハ其糧石ニ付左ノ場合ニ於テ出產糧石税ヲ納付スベシ
一 糧石ノ收穫後初メテ他ニ之ヲ搬出スルトキ
二 糧石製品ノ製造原料トシテ糧石ヲ使用スルトキ
三 糧石出產者ノ自家用ニ供スル糧石ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セズ
第二條 他人ノ出產シタル出產糧石税未納ノ糧石ヲ運送スル者ハ出產糧石税ノ納付ニ付テハ之ヲ前條第一項第一號ノ行爲ト爲ス出產者ト爲ス
第三條 出產糧石税ハ之ヲ正税及附加税ニ分テ正税ノ税率ハ左ノ區分ニ依リ附加税ノ税率ハ正税ノ百分ノ五トス

種類	目	税率
糧	包米(玉米)、包米糠、紅米(高粱)、秈米、穀子、小米、糜子、元米(黃米)、糜子、黍米、粟及之ニ類似スルモノ	從價百分ノ〇・五
	之ニ類似スルモノ、稻米(大米)、江米、(糯米)、小麦、大麦、油麥及之ニ類似スルモノ	從價百分ノ一
油	芝麻(小麻子)(胡麻子)、大麻子(大麻子)種子、落花生、棉實及之ニ類似スルモノ	從價百分ノ二・五
	豆	從價百分ノ二・五
類	黃豆(元豆)、青豆、黃豆、豌豆、小豆、吉豆(綠豆)及之ニ類似スルモノ	從價百分ノ二・五
		從價百分ノ二・五

第六條 糧石ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外納税價額ニ依ル
第七條 出產糧石税ノ納付義務者ハ糧石ノ種類、數量、價額其ノ他ノ事項ヲ稅捐局ニ申告スベシ
第八條 出產糧石税ノ課税標準及稅額ハ稅捐局長之ヲ決定ス前項ノ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定アリタル日ヨリ三週間以内ニ稅務監督局長ニ裁決ヲ申請スルコトヲ得
前項ノ申請アリタルトキト雖モ稅捐局長ハ稅金ノ徵收ヲ繼續セズ
第九條 糧石ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外納税價額ニ依ル

第十條 運送執照又ハ寄託執照ヲ有スル者ニ非ザレバ之ヲ運送シ又ハ寄託スルコトヲ得ズ
第十一條 糧石ノ運送人ハ納税價額ヲ糧石運送沿途ノ稅捐局ニ呈示シ檢査ヲ受クベシ
第十二條 納税價額ハ其ノ必要ナキニ至リタルトキハ之ヲ所納稅捐局ニ提出スベシ
第十三條 左ニ掲グル者ニハ第五條乃至第八條、第十條及第十二條ノ規定ヲ適用セズ
一 滿洲特種會社
二 滿洲鐵道會社
三 滿洲製粉株式會社
四 滿洲棉花株式會社
五 稅捐局長ノ指定シタル者
第十四條 前條ニ規定スル者ハ糧石ノ受拂ニ關スル帳簿ヲ備ヘ未納稅額石又ハ納稅價額石ノ種目毎ニ左ノ事項ヲ毎日ニ記載スベシ
一 受入レタル糧石ノ數量
二 搬出又ハ消費シタル糧石ノ數量
三 殘存スル糧石ノ數量
第十五條 其ノ他稅捐局長ノ記載ヲ命ジタル事項
第十六條 稅捐局長又ハ稅捐局員出產糧石税ノ取納上必要アリト認ムルトキハ糧石及其ノ關係書類ヲ檢査シ又ハ必要ナル成分ヲ爲スコトヲ得
第十七條 鐵道運輸
第十八條 糧石ヲ鐵道ニ依リ運送セムトスル者ハ糧石發送場所稅捐局ニ納稅價額ヲ提出シテ糧石運送執照ヲ下付テ受ケテ之ヲ發送スベシ
第十九條 稅捐局長ハ鐵道運輸糧石ノ取納上必要アリト認ムルトキハ鐵道運輸稅捐局員ヲ駐在セシムルコトヲ得
第二十條 混合保管又ハ分置保管ノ爲寄託スル糧石ニ付テハ

第九條 第四條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲サザル者又ハ第六條若ハ第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ料料ニ處ス
第九條ノ二 特別市、市、町、縣又ハ旗ハ糧石ニ對シ一切ノ課税ヲ爲スコトヲ得ズ(康三第一九六號本條追加)
第十條 本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ(財政部)大臣之ヲ定ム
附 則
第十一條 本令ハ大同二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス
第十二條 奉天稅務監督管内ニ於テ出產シタル豆類ノ内從前從價百分ノ一ノ税率ヲ適用シタル豌豆、綠豆、及小豆ノ期ニ付テハ大同三年九月三十日迄從前ノ税率ヲ適用ス
第十三條 奉天各稅局徵收統捐章程中出產稅ニ關スル規定(土貨ニ對スル出產稅ニ關スルモノヲ除ク)及黑龍江徵收統稅章程中糧石税ニ關スル規定ハ之ヲ削除シ吉林省徵收糧稅章程ハ之ヲ廢止ス
第十四條 附 則(康元第一八七號)
第十五條 本法ハ康徳元年二月二〇日勅令第一八七號)修正熱河徵收貨物稅現行章程中糧石ニ對スル出產稅及斗用ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス
附 則(康徳二年六月二十九日勅令第五八號)
第十六條 本法ハ康徳二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
第十七條 改正規定中落花生及棉實ニ對スル税率ハ康徳三年六月三十日迄從價百分ノ一・五トス

○出產糧石税法施行規則

(大同二年十一月三十日) 財政部令第三三號

改正 康徳二年一月部令第五二號七年二月第七七號
第一章 納稅手續
第一條 出產糧石税法第四條ノ規定ニ依リ申告ハ税法第一條第一項第一號該當ノ場合ニ於テハ糧石ノ運送ニ際シ最初ニ通過スル地ノ所納稅捐局ニ第二號該當ノ場合ニ於テハ原料糧石所在地ノ所納稅捐局ニ交付シテ之ヲ納稅價額一件毎ニ其ノ糧石ノ名稱、數量、價額、出產地名及納付義務者ノ氏名ヲ書面ニ記載シ又ハ口頭ヲ以テ之ヲ報告スベシ
第二條 稅捐局長出產糧石税ノ課税標準ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ稅捐局長ノ調査ニ依リ之ヲ決定スベシ
第三條 稅捐局長課税標準ヲ決定シタルトキハ納付スベキ出產糧石税ノ稅額ヲ直ニ納付義務者ニ告知シ其ノ稅金ヲ徵收スベシ
第四條 稅捐局長出產糧石税ヲ徵收シタルトキハ納稅價額ヲ納付人ニ交付スベシ
第二章 取 則
第一條 出產糧石税ヲ納付シタル糧石ヲ分割運送セムトスル者ハ其ノ糧石所在地ノ所納稅捐局ニ納稅價額ヲ提出シ分割納稅價額(以下單ニ納稅價額ト稱ス)ノ下付ヲ受クベシ(康二第一五二號本條改正)
第六條 出產糧石税ヲ納付シタル糧石ヲ他人ニ運送シタル者

前二條ノ規程ヲ準用ス
第十四條 糧石製品ノ原料トシテ使用セムトスル者ハ納稅價額ヲ所納稅捐局ニ提出シ原料糧石ノ檢査ヲ受クベシ
第十五條 稅捐局長ハ糧石ヲ糧石製品ノ原料トシテ使用スル者ノ取納上必要アリト認ムルトキハ當該製送場ニ稅捐局員ヲ駐在セシムルコトヲ得
第十六條 前條ノ稅捐局員ハ原料糧石、糧石製品及製送出入ニ關スル一切ノ帳簿書類ヲ檢査シ又ハ必要ナル成分ヲ爲スコトヲ得
第三章 鐵道運輸
第十七條 出產糧石税法第五條第二項ノ裁決ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ不服ノ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ所納稅務監督局長ニ申出ツベシ
附 則
第十八條 本令ハ康徳八年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
第十九條 本令施行ノ際第八條ノ二ニ規定スル者ハ其ノ現ニ所持スル糧石ニ付納稅價額石ノ種目及數量並ニ未納稅額石ノ種目及數量ヲ記載シタル申告書ニ當該糧石ニ對スル納稅價額、分割納稅價額、糧石運送執照、糧石船舶運輸執照又ハ寄託執照ヲ添ヘ本令施行ノ日ヨリ起算シ十五日以内ニ糧石所在地ノ管轄スル稅捐局長ニ提出シ其ノ檢査ヲ受クベシ

酒税法

改正 昭和三年一月九日勅令第一四九號、同四年六月同第一四一號、同年八月同第二二二號、同年十一月同第四五五號、六年三月同第五五號、七年二月同第三八二號、

賦組法(第四十一條)ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ酒税法ニ改可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 酒類ニハ本法ニ依リ酒税ヲ課ス
第二條 本法ニ於テ酒類ト稱スルハエチールアルコール含有スル酒精以外ノ飲料ヲ謂フ
本法ニ於テ酒精ト稱スルハ蒸餾酒ニシテ酒精分九十以上ノモノヲ謂フ
本法ニ於テ酒精分ト稱スルハエチールアルコール含有量ノ百分率ヲ謂フ
第三條 酒類ハ酒類ヲ製造スル者ヨリ之ヲ徵收ス
第四條 酒類ヲ製造セントスル者ハ其ノ酒類ヲ定メ製造場一箇所毎ニ稅務監督署長ノ許可ヲ受テ之ヲ製造スルコトヲ得
酒類製造者酒類ノ製造ヲ停止シタルトキハ其ノ旨ヲ稅務監督署長ニ申告スベシ
第五條 酒類製造者ニ付相續ノ開始アリタルトキハ其ノ日ヨリ二月内ニ限リ相續人ハ當該酒類ノ製造ヲ繼續スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法ノ適用上其ノ相續人ヲ酒類製造ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス
相續人前項ノ期間滿了後引續キ酒類ヲ製造セントスルコトハ

經濟部令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ期間内ニ其ノ旨ヲ稅務監督署長ニ申請シ承認ヲ受テ之ヲ製造スル場合ニ於テハ其ノ相續人ハ認否ノ決定アル迄當該酒類製造ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス
前項ノ承認ヲ受ケタル者ハ承認ノ日ニ於テ相續人ノ製造ノ許可ヲ受ケタル酒類ニ付製造ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス
第五條 酒類ハ酒類ノ製成石數ニ應ジテ之ヲ課税ス前項ノ製成石數ハ經濟部令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ査定ス
第六條 酒税ノ税率ハ左ノ區分ニ依リ
一 燒酎
甲 酒精分七十以上ノモノ 二十四圓
乙 酒精分五十以上ノモノ 十四圓
丙 酒精分五十未満ノモノ 十圓五角
二 黃酒 一石ニ付 十五圓五角
三 紹興酒 一石ニ付 二十一圓
四 日本清酒 一石ニ付 十八圓五角
五 朝鮮清酒 一石ニ付 十五圓
六 朝鮮麥酒 一石ニ付 十五圓
七 啤酒 一石ニ付 八圓五角
八 前各款以外ノ酒類
甲 酒精分十五以上ノモノ 酒精分一毎ニ一石ニ付 一圓六角五分
乙 酒精分十五未満ノモノ 一石ニ付 一圓五角
第七條 酒税ハ毎月中ニ於テ製成シタル酒類ニ對スル分ヲ翌月末日限徵收ス但シ紹興酒及日本清酒ニ付テハ毎月中ニ於テ製

成シタルモノニ對スル稅額ヲ十二分シ其ノ翌月ヨリ十二月間ニ各月ノ末日限徵收ス
酒類製造者第四條第二項ニ依リ製造停止ノ申告ヲ爲シタル場合又ハ第十三條ニ依リ許可ノ取消ヲ受ケタル場合ニ於テ未納ニ屬スル酒税アルトキハ其ノ全部又ハ一部ニ付第一項ノ納期限ヲ繰上テ之ヲ徵收スルコトヲ得
第二十三條乃至第二十五條ニ依リ徵收スベキ酒税ハ第一項ノ規定ニ拘ラズ直ニ之ヲ徵收ス
第八條 許可ヲ受ケタル酒類製造場ニ於テ酒類ヲ製造スル爲メ原料トシテ使用スル其ノ製造場ニ於テ製造シタル酒類ニ付テハ酒税ヲ課セズ
前項ノ酒類ニ付テハ製成ノ際其ノ石數ノ確定ヲ受タルコトヲ要ス
前項ノ酒類ハ經濟部令ニ定ムル場合ヲ除ク外之ヲ酒類製造用以外ノ用途ニ供スルコトヲ得ズ
第九條 前條第一項ノ酒類ヲ他ノ用途ニ供スルトキハ之ニ酒税ヲ課ス
前項ニ依リ酒税ヲ課スベキ酒類ノ製成石數ハ其ノ確定當時ニ於ケル石數ニ依リ之ヲ査定ス
第一項ノ酒税ニ付テハ第七條第一項ノ適用上當該酒類ノ確定ノ日ヲ以テ其ノ製成ノ日ト看做ス
第十條 許可ヲ受ケタル酒類製造場ニ於テ酒精原料トシテ製造スル酒類ニ對スル酒税額ハ第六條所定ノ税率ニ依リ算定シタル稅額中其ノ使用原料酒精一石ニ付二十二圓ノ割合ヲ以テ算定シタル金額ヲ控除シテ得タル金額トス
第十一條 左ノ場合酒類ニ付テハ酒税未納ノモノナルトキハ其ノ酒類ノ納付ヲ免除シ、酒税既納ノモノナルトキハ其ノ納付シタル酒税ニ相當スル金額ヲ交付スルコトヲ得但シ既ニ製造場外ニ搬出シタル酒類ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
一 不可抗力ニ因リ亡失シタルモノ

二 廢敗其ノ他ノ事由ニ因リ酒類トシテ飲用スルコト能ハザルニ至リタルモノ
第十一條 外國ニ輸出スル酒類ニ付テハ經濟部令ノ定ムル所ニ依リ其ノ酒類ニ課セラルタル酒税ノ全部又ハ一部ニ相當スル金額ヲ交付スルコトヲ得
第十二條 酒類製造者左ノ各款ノ一ニ該當スルトキハ稅務監督署長ニ對シテ擔保ノ提供ヲ命ズルコトヲ得
一 本法ニ違反シテ酒類ヲ受ケタルトキ
二 酒税ヲ納付シタルトキ
三 其ノ他酒税ノ徵收保全上必要アリト認マラルトキ
前項ノ擔保ニ關スル事項ハ經濟部令ヲ以テ之ヲ定ム
第十三條 酒類製造者左ノ各款ノ一ニ該當スルトキハ稅務監督署長ハ其ノ製造許可ヲ取消スコトヲ得
一 酒税ヲ納付シタルトキ
二 製造ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ一年以内ニ酒類ノ製造ヲ開始セザリシトキ
三 一年以上引續キ酒類ノ製造ヲ停止シタルトキ
四 本法若ハ本法ニ基キテ發シタル命令ノ規定又ハ之ニ基キテ發シタル命令ニ違反シタルトキ
前項ノ規定ニ依リ許可ヲ取消シタル場合ト雖モ其ノ製造場内ニ半製品又ハ製品現存スルトキハ許可ヲ取消ヲ受ケタル者ノ申請ニ依リ一定ノ期間内其ノ製成、販賣其ノ他必要ナル行爲ヲ繼續セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ仍本法ノ規定ヲ適用ス
第十四條 左ノ各款ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ酒税ヲ完納スルニ至ル迄仍本法ノ規定ヲ適用ス
一 第四條第二項ノ規定ニ依リ酒類製造停止ノ申告ヲ爲シタル者又ハ前條第一項ノ規定ニ依リ酒類製造ノ許可ヲ取消ヲ受ケタル者
二 酒類製造者ノ相續人ニシテ第四條第二項ノ規定ニ依リ酒類

ノ製造ヲ繼續セズ又ハ其ノ繼續ヲ承認セラレザリシ者
三 酒類製造者タル法人合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於ケル合併後存続シタル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併前酒類製造者タル法人ノ製造シタル酒類ニ付酒税納付ノ義務ヲ負フ
第十五條 酒類ノ販賣(販賣ノ仲介業ヲ含ム以下同シ)ヲ爲サントスル者ハ酒類ノ種類ヲ定メ稅務監督署長ノ許可ヲ受テ之ヲ製造スル製造者其ノ製造場ニ於テ爲ス販賣業ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ許可ハ販賣場ヲ有スル者ニ在リテハ販賣場一箇所毎ニ之ヲ受テ之ヲ得
第十六條 酒類販賣業ノ許可ヲ受ケタル者其ノ販賣業ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨ヲ稅務監督署長ニ申告スベシ
第十七條 第四條第二項及第十三條ノ規定ハ酒類ノ販賣業者ニ付テ之ヲ適用ス
第十八條 經濟部大臣又ハ稅務監督署長ハ酒税保全上必要アリト認ムル所ニ依リ製造數量又ハ販賣ノ數量、價格若ハ方法ニ付必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得
第十九條 酒類ノ製造者又ハ販賣業者ハ帳簿ヲ備ヘ財政部令ノ定ムル所ニ依リ其ノ受領ニ關スル事項ヲ之ニ記載スベシ
第二十條 酒類ノ製造者又ハ販賣業者ハ財政部令ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル事項ヲ稅務監督署長ニ申告スベシ
第二十一條 酒類ノ製造者又ハ販賣業者ハ財政部令ノ定ムル事項ニ付稅務監督署長ノ檢査又ハ承認ヲ受テ之ヲ得
第二十二條 酒類ノ製造者又ハ販賣業者ハ財政部令ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ使用スル器機、器具又ハ機械ニ付稅務監督署長ノ檢定ヲ受テ之ヲ得

第二十條 稅務官吏酒類ニ付テハ酒税額ノ必要アリト認ムルトキハ酒類製造場、貯藏場、販賣場其ノ前ノ場所ニ臨檢シ酒類又ハ其ノ原料品若ハ半製品、製造又ハ販賣ニ必要ナル器機、器具、機械其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得
第二十一條 稅務官吏酒類ニ對スル課税取銷上必要アリト認ムルトキハ酒類ノ製造者、販賣業者、運送者其ノ他ノ關係者ヲ訪問シ、酒類ノ運送ノ停止ヲ命ジ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得
第二十二條 稅務官吏前二條ノ規定ニ依リ職務ヲ執行スルニ當リ本法違反ノ罪證トナルベキ物件ヲ發見シタルトキハ之ヲ押收スルコトヲ得
第二十三條 第四條ノ許可ヲ受ケズシテ酒類ヲ製造シタル者ハ當該酒類ニ對スル酒税ヲ徵收スルノ外其ノ酒税ノ一倍以上十倍以下ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ科料額八十圓ヲ下ルコトヲ得ズ
第二十四條 其ノ容器及製造ノ用ニ供シタル物品ニシテ犯人ノ占有スルモノハ之ヲ沒收ス
第二十五條 酒類製造者若シテ他不正ノ行爲ヲ以テ酒類ノ製成石數ノ査定ヲ免レ若ハ免レシタルトキハ當該酒類ニ對スル酒税ヲ徵收スルノ外其ノ酒税ノ一倍以上十倍以下ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ科料額八十圓ヲ下ルコトヲ得ズ
第二十六條 左ノ各款ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ科料額八十圓ヲ下ルコトヲ得ズ
一 第十五條ノ規定ニ違反シタル者
二 第十四條ノ四ノ規定ニ基キテ申告ニ違反シタル者
第二十七條 前二條ノ場合ニ於テ犯罪ノ用ニ供シタル酒類ニシテ犯人ノ占有スルモノハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハズ之ヲ沒收スルコトヲ得

○禁烟特稅法

改正 康德四年六月勅令第一四一號、八月第二三〇號、康德五年三月勅令第四一號

禁烟特稅法(第四十一條)ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ禁烟特稅法ヲ改訂シテ公布セシム
第一條 阿片法ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケタル禁烟栽培人ニハ本法ニ依リ禁烟特稅ヲ課ス

○菸稅法

(康德三年七月一日勅令第一〇八號)

改正 康德四年六月勅令第一四一號、八月第二三〇號、康德五年三月勅令第四一號
禁烟特稅法(第四十一條)ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ菸稅法ヲ改訂シテ公布セシム

第十條 租稅犯罰法第五十一條中「地稅又ハ契稅」ヲ「地稅、契稅又ハ禁烟特稅」ニ改ム

第七條 阿片法ニ依リ許可ヲ受ケズシテ禁烟ヲ栽培シタル者ハ第二條ノ規定ニ準ジ禁烟特稅ヲ徵收スルノ外其ノ一倍以上十倍以下ニ相當スル罰金ニ處ス但シ罰金額ハ十圓ヲ下ルコトヲ得ズ
第八條 詐偽其ノ他不正ノ行為ニ依リ第五條ノ規定ニ依ル禁烟特稅ノ免除ヲ得又ハ得ントシタル者ハ其ノ稅額ノ一倍以上十倍以下ニ相當スル罰金ニ處ス但シ罰金額ハ十圓ヲ下ルコトヲ得ズ

第三條ノ二 稅務監督局長該稅保全上必要アリト認ムルトキハ禁烟栽培者ニ對シ禁烟特稅徵收ノ最高限度ヲ指定スルコトヲ得
第三條ノ三 禁烟栽培者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務監督局長ハ其ノ製造許可ヲ取消スコトヲ得

菸稅既納ノモノナルトキハ其ノ納付シタル菸稅ニ相當スル金額ヲ交付ス

一 捲菸其ノ他ノ製造菸ノ製造原料ニ使用スル捲菸

二 外國ニ輸出スル菸

三 腐敗其ノ他ノ事由ニ因リ喫用ニ適セザルニ至リタル菸

第五條 第二項ノ規定ニ依リ菸稅ノ徵收ヲ豫備シタル製造菸ハ前項ノ適用ニ付テハ之ヲ菸稅ヲ納付シタルモノト看做ス

第九條 稅務局長製造菸ニ付テハ菸稅ヲ徵收シ又ハ其ノ徵收ヲ豫備シタルトキハ納稅人ニ徵收證ヲ交付ス

製造菸ノ製造者ハ(財政部令)ノ定ムル所ニ依リ前項ノ徵收證ヲ貼付シタル後ニ非ザレバ其ノ製造菸ヲ運送シ又ハ他人ニ引渡スコトヲ得ズ

製造菸ノ販賣者ハ徵收證ノ貼付ナキ製造菸ノ引渡ヲ受ケ又ハ之ヲ他人ニ引渡スコトヲ得ズ

前二項ノ規定ハ前條ニ依リ菸稅ノ免除ヲ受ケ外國ニ輸出スル製造菸及廉價元年勅令第五百五十六號第二條ニ依リ徵收證ヲ貼付シタル製造菸ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十條 製造菸ノ製造者又ハ菸ノ販賣者ハ帳簿ヲ備ヘ(財政部令)ノ定ムル所ニ依リ其ノ受納ニ關スル事項ヲ之ニ記載スベシ

第十一條 製造菸ノ製造者ハ(財政部令)ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造ニ關スル事項ヲ稅務局長ニ申告スベシ

第十二條 稅務局長菸ニ對スル徵收取銷上必要アリト認ムルトキハ菸ノ製造場、貯藏場、販賣場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ製造菸又ハ其ノ原料品若ハ半製品、製造又ハ販賣ニ必要ナル機噐、容噐、器具、機噐其ノ他ノ物件ヲ検査シ又ハ監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條 稅務局長菸ニ對スル徵收取銷上必要アリト認ムルトキハ菸ノ耕作者、製造者、販賣者、運送者其ノ他ノ關係者ヲ訪問シ、菸ノ運送ノ停止ヲ命ジ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十四條 第三條ノ許可ヲ受ケズシテ製造菸ヲ製造シタル者ハ其ノ製造菸ニ對スル菸稅ヲ徵收スルノ外其ノ菸稅ノ一倍以上十倍以下ニ相當スル罰金ニ處ス但シ罰金額八十圓以下ルコトヲ得ズ

前項ノ製造菸ノ製造ノ用ニ供シタル物品ニシテ犯人ノ占有スルモノハ之ヲ沒收ス

第十五條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ菸稅ヲ漏脱シ又ハ逃脫セントシタル者ハ其ノ菸稅ヲ徵收スルノ外其ノ菸稅ノ一倍以上十倍以下ニ相當スル罰金ニ處ス但シ罰金額八十圓以下ルコトヲ得ズ

第十六條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ第八條ノ規定ニ依ル菸稅ノ納付ノ免除又ハ交付金ノ交付ヲ得又ハ得ントシタル者ハ當該稅額ノ一倍以上十倍以下ニ相當スル罰金ニ處ス但シ罰金額八十圓以下ルコトヲ得ズ

第十七條 前項ノ場合ニ於テハ納付ヲ免除シタル菸稅ハ之ヲ徵收シ交付シタル金額ハ之ヲ追徵ス

第十八條 第九條第二項又ハ第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 前四條ノ場合ニ於テ犯罪ノ目的タル菸ニシテ犯人ノ占有スルモノハ之ヲ沒收ス

第二十條 第十條ニ依リ帳簿ノ記載又ハ第十一條ニ依リ申告ヲ怠リ又ハ偽リタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十一條 第十二條又ハ第十三條ニ基テ稅務局長職務ノ執行ヲ阻害シ又ハ其ノ命令ニ服從セザリシ者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十二條 徵收證ノ貼付ナキ製造菸ハ第十八條ノ規定ニ依リ沒收スルモノヲ除クノ外何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハズ財政部

令ノ定ムル所ニ依リ稅務局長之ヲ徵收スルコトヲ得

第二十二條 經濟部大臣菸稅ノ徵收取銷上必要アリト認ムルトキハ菸ノ耕作ニ關スル制限ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 市、縣、府其ノ他ノ地方團體ハ菸ニ對シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ

附則

本法ハ廉價元年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

推廣以外ノ菸ノ課稅ニ關スル從前ノ法令ハ之ヲ廢止ス但シ舊ノ課稅ニ關スル事項ニシテ本法施行前ニ關スルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本法施行前ヨリ引續キ製造菸ヲ製造スル者廉價三年七月三十一日迄ニ(財政部令)ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ稅務局長ニ申告スルトキハ第三條ニ依リ其ノ製造ニ付テハ製造許可ヲ受ケタルモノト看做ス

廉價元年勅令第五百五十六號第一條中「二捲菸」ニ收ム

○菸税法施行規則

(財政部令第二五號)

改正 廉價四年八月勅令第五號

五 菸税法施行規則ヲ左ノ通制定ス

第一條 本令ニ於テ製造菸製造者ト稱スルハ菸税法第三條ニ依リ製造菸ノ製造許可ヲ受ケタル者ヲ謂フ

第二條 製造菸製造ノ許可ヲ受ケタル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ニ其ノ身元證明書ヲ添附シテ之ヲ製造場所稅務局長署長ニ提出スベシ但シ申請者法人ナルトキハ身元證明書ニ代ヘ其ノ登記簿原本又ハ其ノ設立證書ニ書テ提出スベシ

一 製造場ノ位置

二 申請者ノ住所及氏名又ハ名稱

三 資本金額

四 製造場ノ敷地及建物ノ圖面

五 一年間製造見込數量

六 製造方法

七 製造用器具及機噐ノ種類及數量

八 原料仕入先及製品販路

九 收支豫算

前項ノ書類ハ其ノ原本二通ヲ添附スベシ

第二條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務局長署長ハ製造菸製造ノ許可ヲ與ヘザルコトヲ得

一 製造場取銷上不適當ナル地ニ製造場ヲ設ケントスルトキ

二 菸税法第三條ノ三ニ依リ許可ヲ取消ヲ受ケタル者ガ許可ヲ申請シタルトキ

三 菸税法ニ違反シテ處罰ヲ受ケタル者ガ許可ヲ申請シタルトキ

四 菸稅納付ノ實力ナシト認メラルル者ガ許可ヲ申請シタルトキ

五 前各號ニ該當スル場合ヲ除クノ外課稅取銷上許可ヲ與フルヲ不適當ト認ムルトキ

第二條ノ三 稅務局長製造菸ノ製造許可ヲ付シタルトキハ申請者ニ對シ製造菸製造許可書ヲ付シスベシ

第二條ノ四 製造菸製造者製造菸ノ製造許可書ヲ失シタルトキハ書面ヲ以テ稅務局長署長ニ再下付ヲ申請スベシ

第二條ノ五 製造菸製造者製造場ノ區域ヲ擴張又ハ縮小セントスルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル申請書ニ其ノ擴張又ハ縮小セントスル區域ノ圖面及製造菸製造許可書ヲ添附シテ稅務局長署長ニ提出スベシ

製造菸製造者其ノ住所又ハ氏名若ハ名稱ニ變更アリタルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル申請書ニ製造菸製造許可書ヲ添附シテ其ノ都府廳縣稅務局長署長ニ提出スベシ

稅務局長署長前二項ノ申請ヲ受ケタルトキハ製造菸製造許可書ニ其ノ申告ニ係ル事項ヲ記入シテ製造菸製造者ニ返付スベシ

第二條ノ六 製造菸製造者ハ資本金額、製造方法又ハ製造用器具若ハ機噐ノ種類若ハ數量ニ異動アリタルトキハ其ノ都府廳縣稅務局長署長ニ申告スベシ

第二條ノ七 製造菸製造者死亡シタルトキハ其ノ相續人ハ速ニ其ノ事實ヲ稅務局長署長ニ申告スベシ

第二條ノ八 菸税法第三條第四項又ハ第六項ニ依リ製造場續續ノ申告ハ相續又ハ法人合併ノ事實ヲ證明スル書類及製造菸製造許可書ヲ添附シタル申請書ヲ稅務局長署長ニ提出シテ之ヲ爲スベシ

相續人數人ナルトキハ其ノ内ノ一人ニ於テ前項ノ申告ヲ爲シタル場合ニ限リ其ノ製造菸製造許可書ヲ得此ノ場合ニ

於テハ他ノ相續人ノ同意書ヲ添附スルコトヲ要ス

第二條ノ五 第三項ノ規定ハ第一項ノ申告アリタル場合ニ付テハ準用ス

第二條ノ九 製造菸製造者製造菸ノ製造ヲ廢止シタルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル申請書ニ製造菸製造許可書ヲ添附シテ稅務局長署長ニ提出スベシ

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ製造菸製造許可書ヲ稅務局長署長ニ提出シ稅務局長署長ニ返納スベシ

一 菸税法第三條第三項又ハ第四項ニ依リ製造菸ノ製造ヲ繼續セザル相續人

二 菸税法第三條第六項ノ規定ニ依リ製造菸ノ製造ヲ繼續セザル合併後存續シ又ハ合併ニ因リ設立シタル法人

三 菸税法第三條ノ三ニ依リ製造菸製造許可ヲ取消ヲ受ケタル者

第二條ノ十 菸税法第三條ノ三第二項ニ依リ製造場ニ現存スル製造菸ノ半製品ニ付製造其ノ他必要ナル行爲ヲ繼續セントスル者ハ其ノ旨ヲ記載シタル申請書ヲ稅務局長署長ニ提出シテ其ノ承認ヲ受タベシ

第二條ノ十一 第二條乃至第二條ノ九ニ依リ稅務局長署長ニ提出スベキ書類ハ其ノ原本ヲ添ヘ製造場所稅務局長署長ニ由テ之ヲ提出スベシ

第三條 菸稅ニ對シタル菸稅ノ納稅義務者業菸ヲ耕作地ヨリ運送スルトキハ耕作地所稅務局長署長ニ其ノ種類數量及價格ヲ申告スベシ

第四條 業菸ヲ運送スル者ハ其ノ運送中當該業菸ノ納稅濟證ヲ所持スベシ

第五條 納稅濟證ニ表示セラレタル業菸ヲ分割シテ運送セントスル者ハ當該業菸ノ現在地所稅務局長署長ニ其ノ納稅濟證ヲ提出シ分割納稅濟證(以下單ニ納稅濟證ト稱ス)ノ下付ヲ受タベシ

納稅證明書ヲ提出シテ既ニ關係人於テ所持スルノ必要ナキニ至
ルモ其ノ納稅官吏之ヲ同收シ又ハ之ニ失致ノ表示ヲ爲
スコトヲ得

第五條 製造菸葉者製造菸葉製造場ヨリ搬出セントスルト
キハ書面ヲ以テ其ノ種類、牌名、數量及價格ヲ製造場所轄
稅捐局長ニ申告スベシ

第六條 菸稅法第五條第二項ノ規定ニ依リ菸稅ノ徵收額ヲ受ケン
トスル者ハ前項ノ申告書ニ其ノ旨ヲ附記シテ之ヲ申請スベ
シ

第七條 菸稅法第五條第三項ノ規定ニ依リ菸稅ノ徵收額ノ限度ヲ定メ
シテ之ヲ徵收額ヲ受クベキ菸稅額ノ限度ヲ定メシテ
稅捐局長ニ申請シテ其ノ承認ヲ受ケタル者ハ第一項ニ依ル
申告ノ都度前項ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス

第八條 稅捐局長製造菸葉ニ付菸稅ノ徵收額ヲ受ケタルトキ又ハ菸稅
法第五條第二項ノ規定ニ依リ其ノ徵收額ヲ徵收シタルトキハ
徵收額ヲ納稅人ニ交付スベシ

第九條 徵收額ノ額式ニ依リ(財政部)之ヲ發行ス

第十條 製造菸葉ニ付菸稅ノ納付シ又ハ其ノ徵收額ヲ受ケタ
ル者ハ其ノ最小ノ貯蓄又ハ包藏ノ一箇毎ニ前條ノ徵收額ヲ
貼附シテ納稅ノ證明書ニ捺印スベシ

第十一條 菸稅法第五條第三項ノ規定ニ依リ左ニ掲グル物件ニ
於テ徵收額額額ヲ下ラザル價格アルモノ又ハ稅捐局長ニ
於テ徵收額額額ヲ下ラザル賣力アリト認メ承認シタル納
稅保證人トス

一 金銀

二 國貨證券

三 不動産

第七條ノ三 擔保物タル不動産ノ價格ハ稅捐局長ノ認ムル所
ニ依ル

第七條ノ四 納稅義務者金銀又ハ國貨證券ヲ擔保物トシテ提
供スルトキハ之ヲ提存シ其ノ受入ノ證明アル提存書ヲ稅捐

局長ニ提出スベシ納稅義務者不動産ヲ擔保物トシテ提供ス
ルトキハ其ノ不動産ニ付託當權設定ノ手續ヲ爲スベシ

第七條ノ五 納稅義務者菸稅ノ擔保トシテ納稅保證人ヲ提供
スルトキハ當該保證人ノ保證書ヲ稅捐局長ニ提出スベシ
納稅人菸稅ヲ納付シタルトキハ納稅保證人ハ納稅人トシテ菸
稅納付ノ義務ヲ負擔ス

第七條ノ六 稅捐局長擔保物ノ價格減少シ又ハ納稅保證人ノ
實力納稅保證ニ堪ヘザルニ至リタルトキハ納稅義務
者ニ對シ金額ヲ指定シテ増擔保ノ提供ヲ命ズルコトヲ得
第七條ノ七 擔保物ヲ提供シタル納稅人菸稅ヲ納付シ其ノ旨
促進定期限迄ニ督促手續料及税金ヲ納付セザルトキハ先
擔保物ニ付納納處分ヲ執行ス但シ擔保物ノ價格ガ徵收スベ
キ納稅處分費、督促手續料、延滞金及税金ニ對シ不足アリ
ト認ムルトキハ同時ニ他ノ財產ニ就テ納稅處分ノ執行ヲ爲
スコトヲ妨グズ

第七條ノ八 納稅保證人ヲ提供シタル納稅人菸稅ヲ納付シタル
トキハ稅捐局長納稅保證人ニ對シ書面ヲ以テ期限ヲ指定
シ其ノ納付ヲ命ズベシ

納稅保證人前項ノ指定期限内ニ税金ヲ納付セザル場合ニ於
テハ納稅人ニ對シ其ノ納付ヲ督促ス

納稅人督促指定期限内ニ督促手續料及税金ヲ納付セザルト
キハ納稅人ニ對シ納稅處分ヲ執行ス此ノ場合ニ於テ擔保物
ノ代價ニ依リ納稅處分ノ結果仍徵收スベキ納稅處分費、督促
手續料、延滞金及税金ニ對シ不足アリト認ムルトキハ同時
ニ他ノ財產ニ就テ納稅處分ノ執行ヲ爲スコトヲ妨グズ

納稅處分費、督促手續料、延滞金及税金ニ對シ不足アリト認
ムルトキハ納稅人ニ對シ納稅處分ノ納付ヲ命ズルコトヲ得
納稅人ノ財產ニ對シ納稅處分ノ納付ヲ命ズルコトヲ得

第八條 菸稅法第八條第一號ノ規定ニ依リ原料用菸葉ニ付菸

稅納付ノ免除ヲ得ントスル者ハ第三條ノ申告ヲ爲ス限其ノ
種類、數量、價格及擔保其ノ他ノ製造菸葉製造場ヨリ搬出シ
タル申告書ヲ稅捐局長ニ提出シテ其ノ承認ヲ受ケタルト
第九條 菸稅法第八條第二號ノ規定ニ依リ輸出菸葉ニ付菸稅ノ
免除ヲ得ントスル者ハ第三條又ハ第五條ノ申告ヲ爲ス限其
ノ種類、牌名(製造菸葉ニ限ル)數量、價格、輸出先及輸出
年月日ヲ記載シタル申告書ヲ稅捐局長ニ提出シテ其ノ承認
ヲ受ケタルトス

第十條 前二條ノ場合ニ於テ稅捐局長ガ製造又ハ輸出ノ證明
書ニ其ノ事項ニ付條件ヲ指定シタルトキハ其ノ條件ニ從フ
ニ非ザレバ菸稅ノ免除ヲ受ケタルコトヲ得ズ

稅捐局長原料用菸葉又ハ輸出菸葉ニ付菸稅ノ免除ヲ承認シタ
ルトキハ其ノ申告書ニ免稅菸葉運送ノ承認ヲ受ケタル者ハ
原料用菸葉又ハ輸出菸葉ニ付菸稅免稅ノ承認ヲ受ケタル者ハ
運送人ヲシテ其ノ運送中前項ノ免稅菸葉運送ヲ所持セシムベ
シ

第四條第三項ノ規定ハ前項ノ免稅菸葉運送ノ同收又ハ其ノ失
致ノ表示ニ付テ之ヲ準用ス

第十一條 擔保其ノ他ノ製造菸葉ノ製造者第八條ニ依リ菸稅免
除ノ承認ヲ受ケタル原料用菸葉ヲ擔保其ノ他ノ製造菸葉ノ製
造ニ使用セントスルトキハ其ノ使用前前條ノ免稅菸葉運送
製造場所轄稅捐局長ニ提出シテ檢査ヲ受ケタルトス

第十二條 稅捐局長前條ノ場合ニ於テ原料用菸葉ヲ使用濟
確認シタルトキハ前條ノ製造者ニ原料用菸葉使用濟證明書
ヲ交付スベシ

第十三條 原料用菸葉又ハ輸出菸葉ノ一口ノ菸稅額ガ十圓未満
ナルモノニ付テハ菸稅法第八條ノ規定ヲ適用ス

第十四條 菸稅ノ納付シタル菸葉ヲ擔保其ノ他ノ製造菸葉ノ製
造用原料ニ使用シ又ハ外國ニ輸出シ菸稅法第八條第一號又
ハ第二號ノ規定ニ依リ其ノ菸稅額ニ相當スル金額ノ交付ヲ

受ケントスル者ハ菸ヲ使用シ又ハ輸出スル前條第八條又
ハ第九條ノ規定ニ依リ申請書ニ準ジテ申請書ニ其ノ納稅濟
證ヲ添附シテ所在地所轄稅捐局長ニ提出シテ檢査ヲ受ケ
タルトキハ其ノ納稅額ノ起算シテ一年ヲ超過シタル菸ニ付
テハ檢査ノ申請書ニスコトヲ得ズ

稅捐局長前項ノ檢査ヲ受ケタルトキハ其ノ申請書ニ檢査書
ヲ交付スベシ

第十條第一項、第三項及第四項、第十一條第十二條並ニ前
條ノ規定ハ第一項ノ菸ニ付テ之ヲ準用ス

第十五條 菸稅法第八條第三號ノ規定ニ依リ前條其ノ他ノ事
由ニ因リ喫用ニ適セザルニ至リタル菸ニ付テハ納付シタル
菸稅額ニ相當スル金額ノ交付ヲ受ケントスル者ハ其ノ種類、
牌名(製造菸葉ニ限ル)數量及價格ヲ記載シタル申告書
ニ其ノ納稅濟證ヲ添附シテ所在地所轄稅捐局長ニ提出シ
檢査ヲ受ケタルトキハ其ノ納稅額ノ起算シテ一年ヲ超過
シタル菸ニ付テハ其ノ申請書ニスコトヲ得ズ

前項ノ場合ニ於テ稅捐局長菸ノ製造ヲ確認シタルトキハ申
請書ニ納稅濟證添附書ヲ交付スベシ

菸稅法第八條第二項ノ規定ニ依リ製造菸葉ニ付テハ第五
條ノ申告ヲ爲シタル日ヲ以テ菸稅納付ノ日ト看做シ前二項
ノ規定ヲ準用ス

第十六條 菸稅法第八條ノ規定ニ依リ交付金ノ請求ハ前二條
ノ檢査ヲ受ケタル稅捐局長ヲ經由シ稅務監督署長ニ左ノ書
類ヲ提出シテ之ヲ申請スベシ

一 交付金ノ交付ヲ受ケベキ菸ノ種類、牌名(製造菸葉ニ限
ル)數量及菸稅額ヲ記載シタル申告書

二 原料用菸葉ニ付テハ第十五條ノ檢査書及原料用菸葉使
用濟證明書、輸出菸葉ニ付テハ第十五條ノ檢査書及輸出ノ
事實ヲ證明スル書類、製造菸葉ニ付テハ前條ノ納稅濟證
添附書

前項ニ依リ交付金ノ請求權ハ原料用菸葉ニ付テハ原料用菸
葉使用濟證明書、輸出菸葉ニ付テハ第十五條ノ檢査書、製造
菸葉ニ付テハ納稅濟證添附證明書ノ日附ヨリ起算シ六月ヲ
超過スルニ因リテ消滅ス

第十七條 製造菸葉者毎日製造菸葉ノ牌名毎ニ區別シテ左
ニ掲グル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一 製造數量

二 販入數量及他ヨリ移入シタル數量

三 販賣シタル數量、價格及買受人ノ住所、氏名又ハ名稱

第十八條 菸ノ販賣者毎日菸ノ種類及牌名(製造菸葉ニ限ル)
毎ニ區別シテ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ但シ小賣ニ係ル
菸ニ付テハ第二號ノ事項中買受人ノ住所及氏名又ハ名稱ノ
記載ヲ要セス

一 買受タル數量、價格及買受人ノ住所及氏名又ハ名稱

二 販賣シタル數量、價格及買受人ノ住所及氏名又ハ名稱

第十八條ノ二 製造菸葉者毎年十二月中ニ於テ翌年中ニ
於ケル製造菸ノ製造見込數量ヲ記載シタル申告書ヲ稅捐局
長ニ提出スベシ但シ翌年中製造菸ノ製造ヲ停止セントスル
トキハ其ノ旨ヲ記載シタル申告書ヲ提出スベシ

前項ニ依リ申告シタル事項ニ付異動ヲ生ジタルトキハ其ノ
都度書面ヲ以テ稅捐局長ニ申告スベシ

第十九條 製造菸ノ製造者ハ稅捐局長ガ菸ニ對シ課稅取締
上必要アリト認メ事項ヲ指定シテ申告ヲ命ジタルトキハ之
ヲ稅捐局長ニ申告スベシ

第二十條 稅務官吏菸稅法第二十一條ニ依リ製造菸ヲ復取ス
ルトキハ其ノ所持者ニ對シ復取證明書ヲ交付スベシ

第二十一條 稅務官吏ハ菸ノ製造者、運送者又ハ販賣者ノ職
務ニ關シ知リ得タル事項ヲ他ノ關係人ニ洩スルコトヲ得ズ

附 則

本令ハ廣德三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

菸稅法附則第三項ノ規定ニ依リ申告ハ稅務監督署長ニ(消費
稅課物件製造取締法施行規則第三條)ニ規定スル許可申告書
ニ準ジテ申告書ニ同條ニ規定スル添附書類ヲ添附シ製造場
所轄稅捐局長ヲ經由シテ提出シテ之ヲ爲スベシ

廣德元年財政部令第三十六號第二條中「擔保」ヲ「擔保其ノ
他ノ製造菸」ニ改メ同別表廢除ノ格式中「擔保菸」ノ次ニ左ノ
一欄ヲ加フ

紙捲菸及雪茄菸	二四三七	建築物及菸葉ヲ以テ	壹色
以外ノ製造菸	二四三七	表示ス	

附 則 (廣德四年八月二日經濟部令第五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別表省略)

○樽酒稅法

改正 康徳六年二月勅令第三四八號 七年二月第三八號

第三十六條 依り參議府ノ諮詢ヲ經テ樽酒稅法ヲ改訂シ茲ニ之ヲ公布セシム

樽酒稅法ニ關シテハ本法ニ依リ樽酒稅ヲ課ス 第一條 樽酒稅ノ稅率ハ左ノ區分ニ依ル

賣價格ヲ書面ヲ以テ之ニ通知スベシ樽酒ノ賣價格ヲ他ノ樽酒賣價者ニ異スルトキ亦同シ 第十條 樽酒ノ製造者、輸入業者及即賣業者ハ樽酒稅ヲ

○樽酒稅法

改正 康徳六年二月勅令第三四八號 七年二月第三八號

第三十六條 依り參議府ノ諮詢ヲ經テ樽酒稅法ヲ改訂シ茲ニ之ヲ公布セシム

樽酒稅法ニ關シテハ本法ニ依リ樽酒稅ヲ課ス 第一條 樽酒稅ノ稅率ハ左ノ區分ニ依ル

賣價格ヲ書面ヲ以テ之ニ通知スベシ樽酒ノ賣價格ヲ他ノ樽酒賣價者ニ異スルトキ亦同シ 第十條 樽酒ノ製造者、輸入業者及即賣業者ハ樽酒稅ヲ

ル金額ノ交付ヲ受ケントスル者ハ當該擔稅ノ種類、姓名、小賣定價及數量ヲ記載シタル申請書ヲ其ノ擔稅ノ所在地所轄稅務局長ニ提出シテ其ノ承認ヲ受ケテ之ヲ運搬スベシ

前項ノ場合ニ於テ稅務局長擔稅ヲ檢査シ其ノ數量ヲ確認シタルトキハ申請者ニ納稅擔稅證明書ヲ交付スベシ

第二十一條 擔稅法第十三條ノ規定ニ依リ交付金ノ請求ハ擔稅證明書ヲ提出シテ之ヲ爲スベシ

前項ニ依リ交付金ノ請求額ハ擔稅證明書ノ提出シタル日ヨリ起算シテ六月ヲ経過スルニ因リテ消滅ス

第二十二條 擔稅法第十四條ノ規定ニ依リ命令ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スベシ

第二十三條 擔稅法第十五條ノ規定ニ依リ擔稅製造ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ其ノ所在地所轄稅務局長ニ提出シテ其ノ承認ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スベシ

一 製造場ノ位置

二 申請者ノ住所及氏名又ハ名稱

三 資本金額

四 製造場ノ敷地及建物ノ圖面

五 製造用器具、機械ノ種類及數量

六 製造方法

七 一年間ノ製造能力

八 原料仕入先及製品販賣

九 收支計算

十 前項ノ書類ハ原本二通ヲ添附スベシ

第二十四條 左ノ各款ノ一ニ該當スルトキハ稅務局長ハ擔稅製造ノ許可ヲ與ヘザルコトヲ得

一 稅務局長上不適當ナル地ニ製造場ヲ設ケントスルトキ

二 擔稅法第十八條又ハ同法第二十二條ノ規定ニ依リ許可ノ取消ヲ受ケタル者ガ許可ヲ申請シタルトキ

三 擔稅法ニ違反シテ處罰ヲ受ケタル者ガ許可ヲ申請シタルトキ

四 擔稅納付ノ實力ナシト認メラルル者ガ許可ヲ申請シタルトキ

五 前各款ニ該當スル場合ヲ除クノ外課稅取上許可ヲ與フルヲ不適當ト認ムルトキ

第二十五條 稅務局長擔稅ノ製造ヲ許可シタルトキハ申請者ニ對シテ擔稅製造許可書ヲ付シタスベシ

第二十六條 擔稅製造者擔稅製造許可書ヲ亡失シタルトキハ申請書ヲ以テ稅務局長ニ其ノ再下付ヲ申請スベシ

第二十七條 擔稅製造者製造設備ヲ變更又ハ變更シテ製造力ヲ擴充セントスルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル申請書ヲ其ノ所在地所轄稅務局長ニ提出シテ其ノ承認ヲ受ケタスベシ

第二十七條ノ二 法人タル擔稅製造者左ノ各款ニ該當スル事項ニ付定額ノ變更セントスルトキハ稅務局長承認ヲ受ケタスベシ

一 資本又ハ出資ノ額額ノ變更

二 代表者ノ變更

第二十八條 擔稅製造者ハ前二條ニ該當スル場合ヲ除クノ外製造場ノ區域ヲ擴張又ハ減少セントスルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル申請書ヲ其ノ所在地所轄稅務局長ニ提出シテ其ノ承認ヲ受ケタスベシ

擔稅製造者其ノ住所又ハ氏名若ハ名稱ニ變更アリタルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル申請書ヲ擔稅製造許可書ヲ添附シテ稅務局長前二項ノ申請ヲ受ケタルトキハ擔稅製造許可書ニ其ノ申告ノ係ル事項ヲ記入シテ之ヲ擔稅製造者ニ返付スベシ

第二十九條 擔稅製造者ハ資本金額、製造方法又ハ製造用器具、機械ノ種類若ハ數量ニ變更アリタルトキハ前二條ニ該當スル場合ヲ除クノ外其ノ都度書面ヲ以テ稅務局長ニ申告スベシ

第三十條 擔稅製造者死亡シタルトキハ其ノ相続人ハ前二條ノ事實ヲ稅務局長ニ申告スベシ

第三十一條 擔稅法第十七條ノ二ニ依リ製造場ノ申請ハ前項ノ事實ヲ證明スル書類及擔稅製造許可書ヲ添附シタル申請書ヲ稅務局長ニ提出シテ之ヲ爲スベシ

前項ノ申請ハ相續人數人ナルトキハ其ノ中ノ一人ニ於テ之ヲ擔稅製造許可書ニ此ノ場合ニ於テハ申請書ニ他ノ相續人ノ同意書ヲ添附スベシ

第二十四條ノ規定ハ第一項ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十二條 擔稅製造者擔稅ノ製造ヲ停止シタルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル申請書ヲ擔稅製造許可書ヲ添附シテ之ヲ稅務局長ニ提出スベシ

左ノ各款ノ一ニ該當スル者ハ擔稅製造許可書ヲ稅務局長ヲ由リテ稅務局長ニ返納スベシ

一 擔稅法第十七條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ擔稅製造場ノ區域ヲ擴張又ハ減少セントスルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル申請書ヲ稅務局長ニ提出シテ其ノ承認ヲ受ケタル者

二 擔稅法第十八條ノ規定ニ依リ擔稅製造許可ノ取消ヲ受ケタル者

第三十三條 擔稅法第十九條ノ規定ニ依リ製造場ノ他必要ナル行為ヲ圖シセントスル者ハ其ノ旨ヲ記載シタル申請書ヲ稅務局長ニ提出シテ其ノ承認ヲ受ケタスベシ

第三十四條 擔稅法第二十一條ノ規定ニ依リ擔稅製造ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ其ノ所在地所轄稅務局長ニ提出シテ其ノ承認ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スベシ

一 製造場ノ位置

二 申請者ノ住所及氏名又ハ名稱

三 資本金額

四 製造場ノ敷地及建物ノ圖面

五 一年間ノ製造能力

六 製造方法

七 收支計算

八 前項ノ書類ハ原本二通ヲ添附スベシ

第三十五條 第二十四條乃至第二十六條及第二十七條ノ二乃至第三十二條ノ規定ハ擔稅製造ノ許可ニ之ヲ準用ス

第三十六條 擔稅法第二十四條ノ規定ニ依リ擔稅製造ノ申請ハ左記事項ヲ記載シタル申請書ヲ稅務局長ニ提出シテ之ヲ爲スベシ

一 販賣場ノ位置

二 申請者ノ住所及氏名又ハ名稱

三 卸賣業又ハ小賣業ノ区分

四 資本金額

五 前項ニ於テ卸賣業ト稱スルハ擔稅ヲ擔稅製造者ニ販賣スルヲ謂フ

第三十七條 擔稅製造者擔稅ノ販賣ヲ禁止シタルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル申請書ヲ稅務局長ニ提出スベシ

第三十八條 擔稅ノ販賣業ヲ承認シタル者ハ前條ニ規定スル手續ニ代ヘ其ノ旨ヲ記載シタル申請書ヲ稅務局長ニ提出スベシ

第三十九條 擔稅製造者ハ左ノ擔稅事項ヲ毎日帳簿ニ記載スベシ

一 受入レタル原料品又ハ材料品ノ種類、數量、價額及受入先

二 搬出シタル原料品又ハ材料品ノ種類、數量及用途

三 貯名別ノ製造數量

四 貯名別ノ製造場移入(戻入)金ノ數量、價額及受入先

五 貯名別ノ納稅數量及稅額

六 貯名別ノ販賣數量(納稅品及免稅品ニ區分)價額及販賣先

第四十條 擔稅製造者ハ擔稅ノ貯名別ニ區分シテ左ノ事項ヲ毎日帳簿ニ記載スベシ

一 搬入數量、價額及搬入先

二 納稅數量及稅額

三 販賣數量、價額及販賣先

第四十一條 擔稅製造者ハ左ノ區分ニ從ヒ擔稅ノ受納ニ關シテ帳簿ヲ毎日帳簿ニ記載スベシ

一 貯名別ノ買入數量、價額及買入先

二 貯名別ノ販賣數量、價額及買入先

三 貯名別ノ買入數量、價額及買入先

四 貯名別ノ販賣數量、價額及買入先

五 店舖ヲ轉ヘテ擔稅ノ販賣スル擔稅小賣業者ハ左ノ區分ニ從ヒ擔稅ノ受納ニ關シテ帳簿ヲ毎日帳簿ニ記載スベシ

一 貯名別ノ買入數量、價額及買入先

二 貯名別ノ販賣數量、價額及買入先

第四十二條 擔稅製造者ハ毎年十月中ニ於テ翌年中ニ於ケル擔稅ノ製造見込數量ヲ貯名別ニ記載シタル申請書ヲ稅務局長ニ提出スベシ但シ翌年中擔稅ノ製造ヲ停止セントスルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル申請書ヲ提出スベシ

第四十三條 擔稅製造者ハ毎月五日迄ニ前月中ニ於ケル擔稅ノ製造數量、製造數量、納稅數量、戻入數量、移入數量、搬入數量及現存數量ヲ貯名別ニ且擔稅納付ノ付シタルモノトシテ區分レ書面ヲ以テ稅務局長ニ提出スベシ

第四十四條 擔稅製造者ハ毎月五日迄ニ前月中ニ於ケル擔稅ノ製造數量、製造數量、納稅數量、戻入數量、移入數量、搬入數量及現存數量ヲ貯名別ニ且擔稅納付ノ付シタルモノトシテ區分レ書面ヲ以テ稅務局長ニ提出スベシ

第四十五條 擔稅製造者ハ毎月五日迄ニ前月中ニ於ケル擔稅ノ製造數量、製造數量、納稅數量、戻入數量、移入數量、搬入數量及現存數量ヲ貯名別ニ且擔稅納付ノ付シタルモノトシテ區分レ書面ヲ以テ稅務局長ニ提出スベシ

第四十六條 擔稅製造者ハ毎月五日迄ニ前月中ニ於ケル擔稅ノ製造數量、製造數量、納稅數量、戻入數量、移入數量、搬入數量及現存數量ヲ貯名別ニ且擔稅納付ノ付シタルモノトシテ區分レ書面ヲ以テ稅務局長ニ提出スベシ

第四十七條 擔稅製造者ハ毎月五日迄ニ前月中ニ於ケル擔稅ノ製造數量、製造數量、納稅數量、戻入數量、移入數量、搬入數量及現存數量ヲ貯名別ニ且擔稅納付ノ付シタルモノトシテ區分レ書面ヲ以テ稅務局長ニ提出スベシ

第四十八條 稅務局長擔稅法第三十八條ノ規定ニ依リ擔稅ノ製造場ノ區域ヲ擴張又ハ減少セントスルトキハ其ノ旨ヲ記載シタル申請書ヲ稅務局長ニ提出スベシ

第四十九條 本令ハ昭和六年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十條 昭和元年財政部令第十九號擔稅法施行規則(以下書規則ト稱ス)ハ之ヲ廢止ス

第五十一條 書類第十條第三項ノ規定ニ依ル糖漿糖蜜糖... 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○砂糖税法

(昭和七年二月二十八日)

第一條 砂糖、糖蜜及糖水ニハ本法ニ依リ砂糖税ヲ課ス... 第二條 砂糖税ノ税率ハ左ノ區分ニ依ル

トキ其ノ製造者ヨリ、輸入税物ノ付テハ其ノ輸入者ガ... 第一條 砂糖税ノ納税義務者ノ申請ニ依リ砂糖税物ノ提出ノ日ノ...

前項ノ擔保ニ關スル事項ハ經濟部令ヲ以テ之ヲ定ム... 第八條 經濟部大臣又ハ稅務局長砂糖稅保全上必要アリト認ム...

ハ輸入ノ許可ヲ受ケタル砂糖稅物ノ付テハ輸入者ノ許... 第九條 砂糖稅ノ納税シタルトキ...

進スルモノト看做ス... 第一條 砂糖ニ加工シテ其ノ種類別ニ昇スルトキ...

一 遊興飲食税法第一條ノ規定ニ依リ申告ヲ受ケザルシテ第一條ニ規定スル遊興飲食ノ場所ノ經營者ハ其ノ場所ニ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スルモノトシテ之ヲ徵收ス

二 遊興飲食税法第一條ノ規定ニ依リ申告ヲ受ケザルシテ第一條ニ規定スル遊興飲食ノ場所ノ經營者ハ其ノ場所ニ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スルモノトシテ之ヲ徵收ス

三 遊興飲食税法第一條ノ規定ニ依リ申告ヲ受ケザルシテ第一條ニ規定スル遊興飲食ノ場所ノ經營者ハ其ノ場所ニ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スルモノトシテ之ヲ徵收ス

四 遊興飲食税法第一條ノ規定ニ依リ申告ヲ受ケザルシテ第一條ニ規定スル遊興飲食ノ場所ノ經營者ハ其ノ場所ニ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スルモノトシテ之ヲ徵收ス

五 遊興飲食税法第一條ノ規定ニ依リ申告ヲ受ケザルシテ第一條ニ規定スル遊興飲食ノ場所ノ經營者ハ其ノ場所ニ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スルモノトシテ之ヲ徵收ス

○遊興飲食税法施行規則

(昭和六年十二月二十三日)

遊興飲食税法施行規則ヲ左ノ通制定ス

第一條 遊興飲食税法第一條ニ規定スル遊興飲食ノ場所及同法第十五條ニ規定スル遊興飲食ノ場所ト經營上取引關係アル場所ノ所在地ヲ管轄スル税務局長ヲ以テ遊興飲食税法ノ所轄税務局長トス

第二條 遊興飲食税法第一條ニ於テ料理屋ト稱スルハ自家調理ノ飲食物タルト又ハ藝妓若ハ酌婦ヲ寄寓セシムルト否トヲ問ハズ客ニ飲食物ヲ提供シ藝妓又ハ酌婦ヲシテ客席ニ侍セシメ歌舞曲其ノ他客ヲ接待スルシムルヲ業トスルモノヲ謂フ

第三條 遊興飲食税法第一條ニ於テ舞踏場ト稱スルハ舞踏ニ必要ナル設備ヲ有シ客ヲシテ舞踏ヲ爲サシムルヲ業トスルモノヲ謂フ

第四條 遊興飲食税法第一條ニ於テ特等飲食店ト稱スルハ名稱ノ如何ヲ問ハズ洋風ノ設備ヲ有シ客ニ飲食物ヲ提供シ女給ヲシテ客席ニ侍セシメ接待スルシムルヲ業トスルモノヲ謂フ

第五條 遊興飲食税法第一條ニ於テ飲食店ト稱スルハ飲食物ヲ提供スル場所ノ經營者ハ其ノ場所ニ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スルモノトシテ之ヲ徵收ス

第六條 遊興飲食税法第二條ノ所轄税務局長ハ花代、舞踏料、飲食料、酌料、藝妓料、其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ同法第五條ノ所轄税務局長ノ職務ヲ行フモノトシテ之ヲ徵收ス

第七條 遊興飲食税法第二條ノ所轄税務局長ハ其ノ職務ヲ行フモノトシテ之ヲ徵收ス

第八條 遊興飲食税法第二條ノ所轄税務局長ハ其ノ職務ヲ行フモノトシテ之ヲ徵收ス

第九條 遊興飲食税法第二條ノ所轄税務局長ハ其ノ職務ヲ行フモノトシテ之ヲ徵收ス

第十條 遊興飲食税法第二條ノ所轄税務局長ハ其ノ職務ヲ行フモノトシテ之ヲ徵收ス

一 遊興飲食税法第一條ノ規定ニ依リ申告ヲ受ケザルシテ第一條ニ規定スル遊興飲食ノ場所ノ經營者ハ其ノ場所ニ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スルモノトシテ之ヲ徵收ス

二 遊興飲食税法第一條ノ規定ニ依リ申告ヲ受ケザルシテ第一條ニ規定スル遊興飲食ノ場所ノ經營者ハ其ノ場所ニ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スルモノトシテ之ヲ徵收ス

三 遊興飲食税法第一條ノ規定ニ依リ申告ヲ受ケザルシテ第一條ニ規定スル遊興飲食ノ場所ノ經營者ハ其ノ場所ニ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スルモノトシテ之ヲ徵收ス

四 遊興飲食税法第一條ノ規定ニ依リ申告ヲ受ケザルシテ第一條ニ規定スル遊興飲食ノ場所ノ經營者ハ其ノ場所ニ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スルモノトシテ之ヲ徵收ス

五 遊興飲食税法第一條ノ規定ニ依リ申告ヲ受ケザルシテ第一條ニ規定スル遊興飲食ノ場所ノ經營者ハ其ノ場所ニ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スルモノトシテ之ヲ徵收ス

一 遊興飲食税法第一條ノ規定ニ依リ申告ヲ受ケザルシテ第一條ニ規定スル遊興飲食ノ場所ノ經營者ハ其ノ場所ニ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スルモノトシテ之ヲ徵收ス

二 遊興飲食税法第一條ノ規定ニ依リ申告ヲ受ケザルシテ第一條ニ規定スル遊興飲食ノ場所ノ經營者ハ其ノ場所ニ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スルモノトシテ之ヲ徵收ス

三 遊興飲食税法第一條ノ規定ニ依リ申告ヲ受ケザルシテ第一條ニ規定スル遊興飲食ノ場所ノ經營者ハ其ノ場所ニ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スルモノトシテ之ヲ徵收ス

四 遊興飲食税法第一條ノ規定ニ依リ申告ヲ受ケザルシテ第一條ニ規定スル遊興飲食ノ場所ノ經營者ハ其ノ場所ニ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スルモノトシテ之ヲ徵收ス

五 遊興飲食税法第一條ノ規定ニ依リ申告ヲ受ケザルシテ第一條ニ規定スル遊興飲食ノ場所ノ經營者ハ其ノ場所ニ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スルモノトシテ之ヲ徵收ス

一 遊興飲食税法第一條ノ規定ニ依リ申告ヲ受ケザルシテ第一條ニ規定スル遊興飲食ノ場所ノ經營者ハ其ノ場所ニ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スルモノトシテ之ヲ徵收ス

二 遊興飲食税法第一條ノ規定ニ依リ申告ヲ受ケザルシテ第一條ニ規定スル遊興飲食ノ場所ノ經營者ハ其ノ場所ニ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スルモノトシテ之ヲ徵收ス

三 遊興飲食税法第一條ノ規定ニ依リ申告ヲ受ケザルシテ第一條ニ規定スル遊興飲食ノ場所ノ經營者ハ其ノ場所ニ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スルモノトシテ之ヲ徵收ス

四 遊興飲食税法第一條ノ規定ニ依リ申告ヲ受ケザルシテ第一條ニ規定スル遊興飲食ノ場所ノ經營者ハ其ノ場所ニ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スルモノトシテ之ヲ徵收ス

五 遊興飲食税法第一條ノ規定ニ依リ申告ヲ受ケザルシテ第一條ニ規定スル遊興飲食ノ場所ノ經營者ハ其ノ場所ニ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スルモノトシテ之ヲ徵收ス

○棉紗水泥統稅法施行規則

(庚申年十一月二十七日) 財政部令第六一號

改正 庚申年十一月勅令第四三號 四年八月經濟勅令第六號 六年二月第六五號

第一條 本令ニ於テ稅法ト稱スルハ棉紗水泥統稅法ヲ謂ヒ、統稅及關稅物件ト稱スルハ棉紗水泥統稅法第三條ノ例ニ依リ、稅物件製造ノ申告ヲ爲シタル者ヲ謂ヒ、移入者ト稱スルハ稅法第三條第二項ノ移入者ヲ謂フ

第八條 製造者稅物件ヲ製造場ヨリ搬出セントスルトキハ其ノ牌名及數量ヲ記載シタル申告書ヲ稅捐局長ニ提出スベシ

第九條 製造者稅物件ノ同一製造場内ニ於テ他ノ製法ヲ製シタル原料トシテ使用セントスルトキハ其ノ數量及用途ヲ記載シタル申告書ヲ稅捐局長ニ提出スベシ

第九條 稅務官吏ハ課稅物件ノ製造者、移入者又ハ販賣者ノ業務ニ關シ職務上知り得タル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ズ

第十條 稅務官吏ハ課稅物件ノ製造者、移入者又ハ販賣者ノ業務ニ關シ職務上知り得タル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ズ

納稅保證人前項ノ指定期限内ニ稅金ヲ納付セザル場合ニ於テハ納稅人ニ對シ其ノ納付ヲ督促ス

第十六條 製造者ハ左ニ掲グル事項ヲ毎日帳簿ニ記載スベシ 一 原料品ノ受入數量及受入先並ニ搬出數量及其ノ用途

Table with columns for tax types (e.g., 代用スベキ統稅印花票) and their respective rates (e.g., 圓貳角五分). Includes sub-sections for cotton and cement taxes.

○營業税法

(昭和二年八月一日)

改正 昭和三年四月勅令第三一號、二月第一九八號、四月八月第二二九號、第二四三號、二月第四九號

第四十一條(依り參照府ノ諮詢ヲ經テ營業税法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム)

第一章 總則

第一條 營業者ニハ本法ニ依リ營業税ヲ課ス

第二條 共同營業者又ハ共同租賃者ハ連帶シテ營業税納付ノ義務ヲ負フ

第三條 營業税ハ納税開始ノ時ニ於テ納税義務者タル者ヨリ之ヲ徵收ス但シ納期中ニ於テ營業者又ハ租賃者ニ異動アリタルトキハ新ナル權利者ハ納税義務者ト連帶シテ營業税納付ノ義務ヲ負フ

第二章 課税

第五條 納税ノ正税及附加税トス

正税ノ税率ハ營業法第三十六條第二項ニ規定スル納税ノ單位區域ノ一ニ付毎年三百圓トス但シ營業法第三十七條ノ規定ニ該當スル區域ニ付テハ一兩ニ付毎年一圓二角トス前項ノ税率ハ營業法第三十八條ヨリ起算シ三年間ニ限リ之ヲ半減ス但シ合併、分割又ハ分合ニ因リ生ジタル區域ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ附加税ノ税率ハ正税ノ百分ノ二十五トス

第六條 課税ノ區域ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ徵收ス

第七條 營業法第三十九條ヨリ起算シ月別ニ以テ直ニ之ヲ徵收ス前項ノ規定ハ合併、分割又ハ分合ニ因リ生ジタル區域ニ對シテ増徴スベキ課税區域及營業者ノ變更ニ因リ増加シタル區域ニ對スル課税區域ノ徵收ニ付テハ準用ス

第八條 營業法第三十條ニ依リ營業者ノ取消アリタル場合ニ於テハ納税人ノ請求ニ依リ既ニ徵收シタル課税額ニ相當スル金額ヲ交付ス

第九條 納税ノ金額ノ交付ヲ受ケントスル者ハ其ノ請求書ニ課税額ノ納税済及營業者ノ取消アリタルコトヲ證明スル書面ヲ添附シテ其ノ課税額ヲ納付シタル稅捐局ヲ管轄スル稅務監督署長ニ提出スベシ

第十條 請求ハ營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第三章 課税

第九條 營業税ハ課税物ニ付テハ賦課ス

第十條 營業税ハ之ヲ正税及附加税トス

正税ノ税率ハ營業者ノ價格ノ千分ノ八トス

前項ノ價格ハ價格ハ其ノ主要市場ニ於ケル前年中ノ取引價格ヲ標準トシテ毎年經濟部大臣產業部大臣ト協議決定ノ上之ヲ公告ス

附加税ノ税率ハ正税ノ百分ノ六十五トス

第十一條 金、銀、銅、鐵、亞鉛、錫、石油及油母頁岩ニ付テハ營業者ノ前月中ニ於テ採掘シタル課税物ノ數量ヲ其ノ種類、名稱及平均品位ノ異ル毎ニ區分シテ記載シタル申告書ヲ毎月十五日迄ニ當該課税區域所屬稅捐局ニ提出スベシ但シ營業者ノ消滅シ又ハ營業者ノ消滅ニ因リ租額消滅シタル場合ニ於テハ直ニ之ヲ提出スベシ

第十二條 納税義務者ハ前月中ニ於テ採掘シタル課税物ノ數量ヲ其ノ種類、名稱及平均品位ノ異ル毎ニ區分シテ記載シタル申告書ヲ毎月十五日迄ニ當該課税區域所屬稅捐局ニ提出スベシ但シ營業者ノ消滅シ又ハ營業者ノ消滅ニ因リ租額消滅シタル場合ニ於テハ直ニ之ヲ提出スベシ

第十三條 營業税ノ課税標準ハ毎年二月ニ於テ前年分ヲ前項ノ申告ニ依リ申告ナキト又ハ申告ヲ不相符ト認ムルトキハ調査シテ稅捐局長之ヲ決定ス

第十四條 營業者ノ消滅ニ因リ租額消滅シタル場合及第二十二條ニ該當スル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラズ直ニ之ヲ決定ス前項ノ場合ニ於ケル課税物ノ價格ハ第十條第三項ノ規定ニ拘ラズ稅捐局長之ヲ決定ス

第十五條 稅捐局長前項ノ規定ニ依リ課税標準ヲ決定シタルトキハ書面ヲ以テ之ヲ納税義務者ニ通知ス

第十六條 營業税ハ前年中ニ於テ採掘シタル課税物ニ對スル分ヲ毎年三月中ニ徵收ス但シ第十三條第二項ノ規定ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ徵收ニ之ヲ徵收ス

第十七條 納税義務者稅捐局長ノ決定シタル課税標準ノ範圍タル課税物ノ數量又ハ價格ニ付異議アルトキハ稅務監督署長ニ對シテ請求ヲ爲スコトヲ得

第十八條 請求アリタル場合ト雖モ徵收ハ之ヲ繼續セズ

第十九條 請求アリタル場合ト雖モ徵收ハ之ヲ繼續セズ

第二十條 請求アリタル場合ト雖モ徵收ハ之ヲ繼續セズ

第二十一條 請求アリタル場合ト雖モ徵收ハ之ヲ繼續セズ

第二十二條 請求アリタル場合ト雖モ徵收ハ之ヲ繼續セズ

第二十三條 請求アリタル場合ト雖モ徵收ハ之ヲ繼續セズ

第二十四條 請求アリタル場合ト雖モ徵收ハ之ヲ繼續セズ

第二十五條 請求アリタル場合ト雖モ徵收ハ之ヲ繼續セズ

第二十六條 請求アリタル場合ト雖モ徵收ハ之ヲ繼續セズ

第二十七條 請求アリタル場合ト雖モ徵收ハ之ヲ繼續セズ

第二十八條 請求アリタル場合ト雖モ徵收ハ之ヲ繼續セズ

第二十九條 請求アリタル場合ト雖モ徵收ハ之ヲ繼續セズ

第三十條 請求アリタル場合ト雖モ徵收ハ之ヲ繼續セズ

第三十一條 請求アリタル場合ト雖モ徵收ハ之ヲ繼續セズ

第三十二條 請求アリタル場合ト雖モ徵收ハ之ヲ繼續セズ

第三十三條 請求アリタル場合ト雖モ徵收ハ之ヲ繼續セズ

第三十四條 請求アリタル場合ト雖モ徵收ハ之ヲ繼續セズ

第三十五條 請求アリタル場合ト雖モ徵收ハ之ヲ繼續セズ

第三十六條 請求アリタル場合ト雖モ徵收ハ之ヲ繼續セズ

第三十七條 請求アリタル場合ト雖モ徵收ハ之ヲ繼續セズ

第三十八條 請求アリタル場合ト雖モ徵收ハ之ヲ繼續セズ

○營業税法施行規則

(昭和三年四月勅令第三一號)

本法ハ營業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ營業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ營業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ營業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ營業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ營業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○營業税法施行規則

(昭和四年十二月二十八日)

茲ニ營業税法施行規則ヲ左ノ如ク制定ス

第一條 營業税ノ所屬稅捐局ハ營業者所在地ヲ管轄スル稅捐局トス

第二條 營業税ノ徵收ハ營業者ノ前年中ニ於テ採掘シタル課税物ノ數量ヲ其ノ種類、名稱及平均品位ノ異ル毎ニ區分シテ記載シタル申告書ヲ毎月十五日迄ニ當該課税區域所屬稅捐局ニ提出スベシ但シ營業者ノ消滅シ又ハ營業者ノ消滅ニ因リ租額消滅シタル場合ニ於テハ直ニ之ヲ提出スベシ

第三條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第四條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第五條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第六條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第七條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第八條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第九條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第十條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第十一條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第十二條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第十三條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第十四條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第十五條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第十六條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第十七條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第十八條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第十九條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十一條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十二條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十三條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十四條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十五條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十六條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十七條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十八條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十九條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十一條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十二條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十三條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十四條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十五條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十六條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十七條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十八條 營業者ノ取消アリタル後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ズ

○取引税法

(明治四十二年十二月二十八日)

取引税法(第三十六條)ニ依り多額取引の納税者たる取引税納税者... 第一條 取引税ノ納税者ハ...

又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ調査シテ税務局長之ヲ決定ス... 第七條 取引税ノ納税者知書ハ之ヲ取引所ニ交付シ取引所...

拘ラズ直ニ之ヲ徴收ス... 第十二條 取引所ハ取引人ガ取引税ヲ納付シタルトキハ之ト...

○印花税法

(明治三十三年十二月三日)

改正 明治四十年三月勅令第二八號、同年六月第一四一號、... 除租税法(第四十一條)ニ依り參議府ノ諮詢ヲ經テ印花税法ヲ...

Table with 3 columns: 種類 (Type), 分 (Division), 率 (Rate). Lists various financial transactions and their corresponding stamp duty rates.

Table with 3 columns: 種類 (Type), 分 (Division), 率 (Rate). Lists various financial transactions and their corresponding stamp duty rates.

所得稅

○勤勞所得税法

(廣徳四年十二月六日) (勅令第四〇號)

改正 廣徳五年一月二日勅令第二二九號
稅務法第三十六條ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ勤勞所得税法ヲ
裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

勤勞所得税法
第一條 帝國內ニ住所又ハ居所ヲ有スル者ノ受タル俸給、給
料、手當、恩給、年金、賞與、退職給與及此等ノ性質ヲ有ス
ル給與ニハ本法ニ依リ勤勞所得稅ヲ課ス
第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル給與ニハ勤勞所得稅ヲ課セズ
一 旅費其ノ他實費辨償ノ性質ヲ有スル給與
二 軍人其ノ他軍ニ勤務スル者ノ從軍中ニ受タル軍ノ給與
三 疾病又ハ傷害ニ因リテ受タル特別ノ給與
第三條 勤勞所得稅ハ所得金額ヲ課稅標準トシ支給者及支給地
ノ與ル毎ニ左ノ如ク區分シテ之ヲ課ス
第一類所得 俸給、給料、手當、恩給、年金、賞與及此等ノ
性質ヲ有スル給與
第二類所得 退職給與及其ノ性質ヲ有スル給與
第四條 第一類所得ニ對シテ勤勞所得稅ハ毎月ノ課ス但シ毎
月ニ於テ支給ヲ受ケザル實與(賞與ノ性質ヲ有スル給與ヲ含
ム以下同ジ)以外ノ給與ニ對シテ勤勞所得稅ハ其ノ支給ヲ受
ケタル月ノ課ス
第五條 第二類所得ニ對シテ勤勞所得稅ハ其ノ支給ヲ受ケタル月ノ
課ス

月分ノ所得金額トス
一 前年ヨリ引續キ同一支給者ヨリ給與ノ支給ヲ受ケタル者ニ
付テハ前年中ニ於テ支給ヲ受ケタル實與金額ノ十二分ノ一
ニ毎年一月ニ於テ支給ヲ受ケベキ實與以外ノ給與金額ヲ加
算シタル金額中其ノ十分ノ二ヲ控除シテ得タル金額但シ二
月以降ニ於テ支給ヲ受ケベキ實與以外ノ給與金額ガ一月ノ
給與金額ニ比シ減額セラレタル場合ニ於ケル當該月以降ノ
所得金額ハ其ノ減額セラレタル給與金額ニ基キ計算ス
二 其ノ年ノ一月一日以後ニ於テ支給ヲ受ケタルニ至リ
タル者ニ付テハ毎月ニ於テ支給ヲ受ケベキ實與以外ノ給與
金額中其ノ十分ノ二ヲ控除シテ得タル金額
三 無償住宅ノ支給ヲ受ケタル者ニ付テハ前二號ニ規定スル十
分ノ二ノ金額ノ控除ヲ爲サザル金額
四 有償住宅ノ支給ヲ受ケタル者ニ付テハ第一號及第二號ニ規
定スル十分ノ二ノ金額ノ控除ニ代ヘ其ノ毎月分ノ住宅料金
ヲ控除シテ得タル金額
毎月ノ給與金額ガ一定セザル者ノ第一類所得ノ所得金額ハ
經濟部令ノ定ムル所ニ依リ平均シタル毎月ノ給與金額ニ基
キ計算ス
第一類所得中毎月ニ於テ支給ヲ受ケザル實與以外ノ給與ニ
對シテ第一類ノ適用ニ付テハ當該給與ノ年額ヲ月額ニ換算
シタル金額ヲ以テ各月分ノ給與ト看做ス
第五條ノ二 第二類所得ハ給與金額中其ノ十分ノ二ノ金額ヲ控
除シタル金額ヲ以テ所得金額トス
第六條 給與ノ金額ガ金銀以外ノモノナルトキハ其ノ支給時ニ於
ケル市價額ヲ以テ前二號ノ給與金額トス
第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ勤勞所得稅ノ課稅ヲ免
除ス
一 第一類所得ニ在リテハ毎月分ノ所得金額七十圓ニ滿タザ
ルトキ

二 第二類所得ニ在リテハ所得金額ヲ其ノ支給ノ基礎タル勤
勞月數ヲ以テ除シテ得タル金額ガ七十圓ニ滿タザルトキ
第七條 勤勞所得稅ハ之ヲ正稅及附加稅ニ分テ正稅ノ稅率ハ其
ノ所得金額ニ應ジ左ノ區分ニ依リ附加稅ノ稅率ハ正稅ノ百分
ノ五十トス
百圓未満 百分ノ〇・五
二百圓未満 百分ノ一
四百圓未満 百分ノ一・五
七百圓未満 百分ノ二
千圓未満 百分ノ三
千圓以上 百分ノ四
第二類所得ニ對シテ正稅額ハ所得金額ヲ其ノ支給ノ基礎タル
勤勞月數ヲ以テ除シテ得タル金額ニ付前項ノ稅率ヲ適用シテ
算出シタル金額ニ勤勞月數ヲ乘ジテ之ヲ計算ス
第八條 給與ノ支給者ハ經濟部令ノ定ムル所ニ依リ毎月ノ給與
金額中ヨリ勤勞所得稅ヲ徵收シ計算書ヲ添ヘ翌月十日迄ニ稅
捐局長ニ納付スベシ
前項ニ依リ計算書ヲ提出シタル者ニハ經濟部令ノ定ムル所ニ
依リ一定ノ金額ヲ交付ス
第九條 外國ニ在ル支給者ヨリ給與ノ支給ヲ受ケタル者ハ支給ヲ
受ケタル翌月十日迄ニ經濟部令ノ定ムル所ニ依リ申告書ヲ添
ヘ勤勞所得稅ヲ稅捐局長ニ納付スベシ
第十條 給與ノ支給者又ハ前條ノ納稅義務者勤勞所得稅ヲ納付
セザルトキ又ハ其ノ納付シタル稅額ニ不足アルトキハ稅捐局
長ハ其ノ納付セシムベキ稅額ヲ調査決定シ其ノ者ニ對シ之ガ
納付ヲ命ズベシ
前項ノ場合ニ於ケル國稅徵收法ノ適用ニ付テハ給與ノ支給者
ヲ以テ納稅義務者ト看做ス
第十一條 前條第一項ノ規定ニ依リ勤勞所得稅ノ納付ヲ命ゼフ
レタル者之ニ異議アルトキハ經濟部令ノ定ムル所ニ依リ稅務

○勤勞所得税法施行規則

(廣徳四年十二月二十八日) (經濟部令第九二號)

前項ノ規定ニ該當スル者ノ遺脫シ又ハ遺脫セシメタル勤勞所
得稅ハ第八條又ハ第九條ノ規定ニ拘ラズ直ニ之ヲ徵收ス
第十八條 第八條ノ計算書若ハ第九條ノ申告書ヲ提出セザル者
ハ二十圓以下ノ科料ニ處ス
第十九條 第十六條ノ規定ニ依リ稅務官吏ノ職務ノ執行ヲ阻害
シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
第二十條 新設特別市、市、縣又ハ旗ハ本法ニ依リ課稅ヲ受ケ
タル給與ニ對シ一切ノ課稅ヲ爲スコトヲ得ズ
附則
本法ハ廣徳五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
附則 (廣徳五年勅令第二二九號)
本法ハ廣徳六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行前ニ賦課スベカリシ勤勞所得稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ
依ル

前項ノ規定ニ對シ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得
第十二條 稅務監督局長前條第一項ノ請求ヲ受ケタルトキハ之
ヲ審査シ其ノ稅額ヲ決定ス
第十三條 前條ノ決定ニ付異議アル者ハ經濟部令ノ定ムル所ニ
依リ更ニ經濟部大臣ニ對シ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得稅務監
督局長ガ第十一條第一項ノ請求ヲ却下シタル場合亦同ジ
第十四條 第十一條ノ規定ハ前項ノ請求アリタル場合ニ付之ヲ準
用ス
第十五條 經濟部大臣前條第一項ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ
審査シ其ノ稅額ヲ決定ス
第十六條 第十一條乃至前條ノ規定ハ第八條ニ依リ勤勞所得稅
ヲ徵收セラレタル納稅義務者其ノ徵收ニ付異議アル場合ニ付
テ準用ス
第十七條 前項ニ依ル審査ノ請求ニ關スル事項ハ經濟部令ヲ以テ之ヲ定
ム
第十八條 稅務官吏勤勞所得稅ニ關スル調査又ハ取締上必要ア
リト認ムルトキハ給與ノ支給者又ハ納稅義務者ニ對シ質問シ
又ハ關係帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得
第十九條 勤勞所得稅ヲ遺脫シ又ハ遺脫セシムル目的ヲ以テ左
ノ各號ノ一ニ該當スル行為アリタル者ハ其ノ遺脫シ若ハ遺脫
セシムル以上十倍以上ノ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ科
料額八十圓ヲ下ルコトヲ得ズ
一 第八條ノ計算書又ハ第九條ノ申告書ヲ提出セザリシトキ
二 前條ノ計算書又ハ申告書ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタルトキ
三 第十一條、第十三條及第十五條ノ規定ニ依リ審査ノ請求
ニ關シ虚偽ノ立證ヲ爲シタルトキ
四 稅務官吏ノ勤勞所得稅ニ關スル調査ヲ欺騙スル爲メ虚偽ノ
帳簿書類ヲ提出シ又ハ虚偽ノ答辯ヲ爲シタルトキ

第一條 給與ノ支給者又ハ第二條ノ規定ニ依リ所屬機關ノ所在
地又ハ住所ヲ管轄スル稅捐局ヲ以テ勤勞所得稅ノ所得稅捐
局トス但シ勤勞所得稅法第九條ニ該當スル者ニ付テハ其ノ者
ノ住所ヲ管轄スル稅捐局ヲ以テ所得稅捐局トス
第二條 給與ノ支給者其ノ所屬機關(官公署ノ下級機關、支店、
出張所等)ヲシテ勤勞所得稅法第八條第一項ニ規定スル勤勞
所得稅ノ徵收ヲ爲サシムル便宜トスルトキハ當該機關ヲシ
テ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ其ノ所在地ヲ管轄スル稅捐局
長ニ提出シテ許可ヲ受ケシムベシ
一 支給者ノ名稱又ハ氏名及所在地又ハ住所
二 所屬機關ノ名稱所在地及其ノ責任者名
前項ニ依リ許可ヲ受ケタル所屬機關ハ給與ノ支給者ガ納稅義
務者ニ對シ支給ヲ爲スベキ一切ノ給與ニ付勤勞所得稅法第八
條第一項ノ規定ニ依リ責任ヲ任ズベシ
第三條 月ノ中途ニ於テ納稅義務ノ發生又ハ消滅アリタルトキ
勤勞所得稅法第五條第六條第一號及第七條第一項ノ規定ノ
適用ハ左ノ區分ノ給與金額ニ日額計算ノ方法ニ依リ算定シタ
ル實與金額ヲ加算シタルモノニ付之ヲ爲スベシ
一 新ニ就職シタル者ニ付テハ就職ノ發令アリタル日以後ニ
於テ現實ニ支給ヲ受ケタル給與金額
二 退職シタル者ニ付テハ退職ノ發令アリタル日ノ屬スル月
ニ於テ現實ニ支給ヲ受ケタル給與金額
三 帝國內ノ勤勞地ヨリ外國ノ勤勞地ニ異動シタル者ニ付テ

一、勸業ノ所得アリタル日ノ前日迄ニ受テベキ給與金額
二、外國ノ勸業地ヨリ帝國内ノ勸業地ニ與シタル者ニ付テハ
勸業ノ所得アリタル日以後ニ受テベキ給與金額
三、納稅義務者月ノ中途ニ於テ勸業地又ハ勸業所ヲ與シ
スルニ至リタル場合ニ於ケル給與ノ支給者又ハ其ノ所屬機關
ノ爲スベキ勸業所得稅法第八條第一項ノ規定ニ依リ税金ノ徵
收ハ左ノ各號ニ依ルベシ
一、帝國内ノ勸業地ニ付テハ新ナル勸業地又ハ勸業所ノ給與
ノ支給者又ハ其ノ所屬機關ニ於テ徵收ス但シ勸業ノ給與
アリタル日ガ定例給與支給日以後ニシテ既ニ前任地又ハ前任
所ノ給與ノ支給者又ハ其ノ所屬機關ニ於テ其ノ月分給與
ノ全額ニ付徵收ナルトキハ此ノ限ニ在ラズ
二、帝國内ノ勸業地ヨリ外國ノ勸業地ニ與シタル者ニ付テ
ハ勸業ノ給與アリタル日ノ前日迄ニ相當スル税金ヲ帝國内ノ支
給者又ハ其ノ所屬機關ニ於テ徵收ス
三、外國ノ勸業地ヨリ帝國内ノ勸業地ニ與シタル者ニ付テ
ハ勸業ノ給與アリタル日以後ニ相當スル税金ヲ帝國内ノ支
給者又ハ其ノ所屬機關ニ於テ徵收ス
四、勸業所得稅法第五條第二項ノ所得ニ付テハ左ノ計
算ニ依リ算出シタル金額ヲ以テ毎月分ノ所得金額トス
一、前年中ニ於テ支給ヲ受ケタル實與金額ノ十二分ノ一ニ平
均シタル毎月分ノ實與以外ノ給與金額ヲ加算シタル金額中
其ノ十分ノ二ヲ控除シテ得タル金額但シ新ニ給與ノ支給ヲ
受ケタルニ至リタル者ノ第一月分ノ所得金額ハ其ノ月ニ於テ
支給ヲ受ケタル給與金額ニ基キ計算ス
二、無償住宅ノ支給ヲ受ケタル者ニ付テハ前號ニ規定スル十分
ノ二ノ金額ノ控除ヲ爲サザル金額
三、有償住宅ノ支給ヲ受ケタル者ニ付テハ第一號ニ規定スル十
分ノ二ノ金額ノ控除ニ代ヘ其ノ毎月分ノ住宅料金ヲ控除シ
テ得タル金額

給與ノ支給者若ハ其ノ所屬機關又ハ納稅義務者前項ニ依ル
所得金額ノ計算ヲ爲サントスルトキハ其ノ提呈ヲ記載シタル
書面ヲ納稅局長ニ提出シテ許可ヲ受テベシ
第九條 勸業所得稅法第八條第一項ノ規定ニ依リ税金ノ納付ハ
第一號様式ノ勸業所得稅送納書ヲ以テ納稅局長又ハ最寄ノ關
中央銀行ニ之ヲ爲スベシ
勸業所得稅法第八條第一項ノ規定ニ依リ計算書ハ第二號様式
ニ依リ提出シ前項ノ勸業所得稅送納書ト共ニ之ヲ提出スベシ
第十條 計算書ニ添付スベキ支拂調書ハ毎年一月ニ於テ提出シ
タルモノニ付納稅局長ナキトキハ之ガ記載ヲ省略スルコトヲ
得與動ノ報告ヲ爲シタルモノニ付其ノ翌月以降ニ於テ勸業
キ場合ニ付亦同シ
第十一條 前條ノ計算書ヲ提出シタル者ニ對シテハ其ノ請求ニ依
リ納稅義務者一人毎ニ一分ノ金額ヲ交付ス但シ國ノ提出シタ
ル計算書ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
第十二條 前項ノ金額ノ交付ヲ受ケントスル者ハ其ノ年中ニ於テ提出シ
タル計算書ニ對シテ十二月十日迄ニ請求書ヲ納稅局長
ニ提出スベシ
第十三條 勸業所得稅法第九條ノ規定ニ依リ申告ハ所得金額及其
ノ計算ノ基礎ヲ記載シタル申告書ヲ納稅局長ニ提出シテ之ヲ
爲スベシ
第十四條 第二項ノ規定ハ前項ノ申告書中其ノ計算基礎ノ記載ニ
付テ之ヲ準用ス
第十五條 納稅局長勸業所得稅法第十條第一項ノ規定ニ依リ納付
セシムベキ税金ヲ決定シタルトキハ書面ヲ以テ之ヲ納稅義務
者又ハ給與ノ支給者ニ通知スベシ
第十六條 勸業所得稅法第十一條第一項ノ規定ニ依リ審査ノ請求
ヲ爲サントスル者ハ前條ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ起算シ二十
日內ニ不服ノ事由ヲ記載シタル書面ニ證據書類ヲ添ヘ其ノ決
定ヲ爲シタル稅務局長ヲ經由シ稅務監督署長ニ提出スベシ

定ヲ爲シタル稅務局長ヲ經由シ稅務監督署長ニ提出スベシ
第十七條 稅務監督署長勸業所得稅法第十二條ノ規定ニ依リ納付
セシムベキ税金ヲ決定シタルトキハ書面ヲ以テ之ヲ納稅義務
者又ハ給與ノ支給者ニ通知スベシ
第十八條 勸業所得稅法第十一條第一項ノ請求ヲ受ケタル
場合ニ於テ其ノ請求ガ手續ニ違背シタルモノナルトキハ書面
ヲ以テ之ヲ却下スベシ
第十九條 勸業所得稅法第十三條第一項ノ規定ニ依リ審査ノ請
求ヲ爲サントスル者ハ前條第一項ノ決定通知又ハ同條第二項
ノ却下ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三十日內ニ不服ノ事由
ヲ記載シタル書面ニ證據書類ヲ添ヘ其ノ決定ヲ爲シタル稅務
監督署長ヲ經由シ經濟部大臣ニ提出スベシ
第二十條 經濟部大臣勸業所得稅法第十四條ノ規定ニ依リ納付
セシムベキ税金ヲ決定シタルトキハ書面ヲ以テ之ヲ納稅義務
者又ハ給與ノ支給者ニ通知ス
第二十一條 第二項ノ規定ハ經濟部大臣ニ對シテ爲シタル勸業所得
稅法第十三條第一項ノ請求ガ手續ニ違背シタルモノナル場合
ニ付テ之ヲ準用ス
第二十二條 勸業所得稅法第十五條ノ規定ニ依リ審査ノ請求ヲ爲
サントスル者ハ同法第八條ニ依リ勸業所得稅ヲ徵收セラレタ
ル月ノ翌月末日迄ニ不服ノ事由ヲ記載シタル書面ニ證據書類
ヲ添ヘ勸業所得稅ヲ納付シタル稅務局長ヲ經由シ稅務監督署
長ニ提出スベシ
第二十三條 第十條乃至前條ノ規定ハ前項ニ依リ審査ノ請求ニ付テ之ヲ準用
ス

(様式省略)

附 (廣徳五年十二月二十三日勸令第五七號)
本令ハ廣徳六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○事業所得稅法

(廣徳七年二月二十八日)
勸令第三七三號

附組織法第三十八條ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ事業所得稅法ヲ
制定シ茲ニ之ヲ公布セシム
事業所得稅法
第一條 帝國内ニ住所ヲ有シ若ハ一年以上居所ヲ有スル個人又
ハ資本若ハ出資ノ總額五萬圓未満ノ内國法人ハ本法ニ依リ事
業所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス
帝國内ニ主タル事業所ヲ有スル法人ニ非ザル營利社團ハ本法
ノ適用上之ヲ前項ノ内國法人ト看做ス
第二條 前條第一項ニ規定スル個人以外ノ個人又ハ帝國内ニ營
業場ヲ有スル外國法人ニシテ外國法人法ニ依リ登記ヲ爲シタ
ル支店ヲ有セザルモノ帝國内ニ於テ事業ヲ營ムトキハ其ノ所
得ニ付事業所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス
前條第二項ノ規定ニ該當セザル法人ニ非ザル營利社團ハ本法
ノ適用上之ヲ前項ノ外國法人ト看做ス
第三條 事業所得稅ハ左ノ所得ニ付テ之ヲ課ス
甲 左ニ掲グル營業ノ所得
一 物販賣業(動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セザルモノ
ノ販賣ヲ含ム)
二 製造業(瓦斯又ハ電氣ノ供給及物品ノ加工修理ヲ含ム)
三 礦業
四 金銀貸付業
五 物品貸付業(動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セザルモノ
ノ貸付ヲ含ム)
乙 左ニ掲グル營業ノ所得
一 宗教ニ關スル業
二 教育又ハ教授ニ關スル業
三 醫業ニ關スル業
四 法律ニ關スル業
五 看護、翻譯、鑑定、技術又ハ諸業ニ關スル業
第四條 事業所得稅ヲ課スベキ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ
必要經費ヲ控除シタル金額トス但シ前年中途ニ於テ開始シタ
ル事業ニ付テハ開始以後ノ總收入金額ヨリ必要經費ヲ控除シタ

ル金額トス

法人營業稅法ノ適用ヲ受タル法人ガ本法ノ適用ヲ受タルニ至リタルトキハ其ノ時ニ於テ事業ヲ開始シタルモノト看做ス
事業ノ用ニ供スル自己ノ土地又ハ家屋ニ付テハ評定買價價格ヲ以テ買價スルモノト看做シ之ヲ第一項ノ必要經費ニ算入ス
法人ガ其ノ代表者又ハ其ノ家族等ニ支給スル報酬、手當、賞與、退職給與及之等ノ性質ヲ有スル給與ハ之ヲ第一項ノ必要經費ニ算入セズ
第一項ノ必要經費及第三項ノ評定買價價格ハ經濟部令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 前條第一項ノ所得金額ヲ計算スル場合ニ於テ甲種ノ所得ノ計算上損失アルトキハ之ヲ乙種ノ所得ヨリ控除シ乙種ノ第六條 一年ノ所得金額三百圓ニ滿タザルトキハ事業所得稅ノ課稅ヲ免除ス
第七條 事業所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ課ス
甲種ノ所得 百分ノ七
乙種ノ所得 百分ノ六
一年ノ所得金額千圓ニ滿タザルトキハ前項ノ稅率ハ各之ヲ百分ノ五トス

第八條 納稅義務者ハ經濟部令ノ定ムル所ニ依リ毎年二月末日迄ニ所得金額ヲ稅務局長ニ申告スベシ但シ事業ノ全部ヲ廢止シタル者ハ其ノ廢業ノ日ヨリ起算シ二十日以内ニ左ノ所得金額ニ付之ヲ爲スベシ
一 其ノ年二月末日以前ニ廢業シタル者ニ在リテハ其ノ年及翌年ニ課稅セラルベキ所得金額
二 其ノ年三月一日以後ニ廢業シタル者ニ在リテハ翌年ニ課稅セラルベキ所得金額

六七ノ一

本法ノ適用ヲ受タル法人ガ營業稅法ノ適用ヲ受タルニ至リタルトキハ其ノ時ニ於テ事業ヲ廢止シタルモノト看做ス
第九條 所得金額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ稅務局長調査ノ上之ヲ決定ス
第十條 稅務局長所得金額ノ決定上必要アリト認ムルトキハ事業ニ關スル事情ヲ精査スル者ヨリ其ノ意見ヲ徵スルコトヲ得
第十一條 納稅義務者稅務局長ノ決定シタル所得金額ニ付與關アルトキハ經濟部令ノ定ムル所ニ依リ稅務監督官長ニ對シテ
五ノ請求ヲ爲スコトヲ得
前項ノ請求アリタル場合ト雖モ稅金ノ徵收ハ之ヲ猶豫セズ
第十二條 稅務監督官長前條第一項ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ審查シ其ノ所得金額ヲ決定ス
第十三條 納稅義務者前條ノ決定ニ付異議アルトキハ經濟部令ノ定ムル所ニ依リ更ニ經濟部大臣ニ對シテ審查ノ請求ヲ爲スコトヲ得稅務監督官長前條第一項ノ請求ヲ却下シタル場合亦同シ
第十一條第二項ノ規定ハ前項ノ請求アリタル場合ニ付之ヲ準用ス

第十條 經濟部大臣前條第一項ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ審查シ其ノ所得金額ヲ決定ス
第十五條 納稅義務者災害、失業其ノ他ノ事由ニ因リ著シテ資力ヲ喪失シ納稅困難ト認ムルトキハ稅務局長ハ經濟部令ノ定ムル所ニ依リ事業所得稅ノ課稅若ハ免除シ又ハ所得金額ノ決定ニ際シ其ノ計算ノ特別ノ取テタルコトヲ得
第十六條 稅務局長ハ前條ノ規定ニ依リ課稅又ハ免除セラルル事業所得稅ニ付テハ課稅又ハ免除ニ關スル處分ヲ爲スニ至ル迄稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得
第十七條 事業所得稅ハ其ノ年分ノ稅額ノ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス

第一期 其ノ年七月一日ヨリ三十一日限
第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十一日限
第十八條 稅務局長ハ納稅義務者ガ稅金ノ納付ヲ全クシ得ザルモノト認ムルトキハ前條ノ規定ニ拘ラズ直ニ稅金ヲ徵收スルコトヲ得但シ納稅義務者ガ納稅保證人ヲ立テタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
第十九條 納稅保證人ニ關スル事項ハ經濟部令ヲ以テ之ヲ定ム
第二十條 事業所得稅ハ納稅義務者ノ住所ヲ以テ納稅地トス但シ住所以外ニ在ル者ハ稅務局長ノ承認ヲ受ケ居所地ヲ以テ納稅地ト爲スコトヲ得
第二十條 住所ナキ者ニ付テハ居所地ヲ以テ納稅地トス
第二十條 住所及居所ナキ者ハ納稅地ヲ定メ稅務局長ニ申告スベシ
前項ノ申告ナキ者ニ付テハ稅務局長其ノ納稅地ヲ指定ス
第二十一條 納稅義務者ニシテ納稅地ニ住所又ハ居所ヲ有セザル者ハ事業所得稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲メ經濟部令ノ定ムル所ニ依リ其ノ地ニ納稅經理人ヲ定メ稅務局長ニ申告スベシ

第二十一條 納稅義務者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當該事業ノ所長ニ申告スベシ
一 住所又ハ居所ヲ變更シタルトキ
二 氏名又ハ名稱ヲ變更シタルトキ
三 事業所ヲ増設、廢止又ハ移轉シタルトキ
四 一種ノ事業ヲ廢止シ引續キ他種ノ事業ヲ開始シタルトキ
相續ノ開始又ハ法人ノ合併アリタルトキハ相續人又ハ合併後存續スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ相續開始又ハ合併ノ日ヨリ起算シ二十日以内ニ書面ヲ以テ其ノ旨ヲ稅務局長ニ報告ス

局長ニ申告スベシ
第二十二條 相續ノ開始又ハ法人ノ合併アリタル場合ニ於ケル被相續人又ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ營業ニ關スル事業ハ之ヲ相續人又ハ合併後存續スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ營業ト看做ス
前項ノ場合ニ於テ相續人アルコト分明ナラザルトキハ遺產管理人ヲ以テ相續人ト看做ス
前項ノ場合ニ於テ遺產管理人ナク且親族皆ガ遺產管理人ヲ選定セザルトキハ稅務局長ハ其ノ相續開始地ヲ管轄スル法院ニ對シ遺產管理人ノ選定ヲ請求スルコトヲ得
第二十三條 法人解散シタル場合ニ於テ解散前ノ事業ノ所得ニ對スル事業所得稅ヲ納付セズシテ殘餘財産ヲ分配シタルトキハ清算人ハ遺產シテ之ヲ納付スル義務ヲ負フ
第二十四條 稅務官吏事業所得稅ニ關スル調査又ハ取銷上必要アルトキハ納稅義務者若ハ從業者若ハ納稅義務アリト認ムル者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ事業ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得
第二十五條 稅務官吏事業所得稅ニ關スル調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ト取引關係ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ取引内容ニ付質問ヲ爲スコトヲ得
第二十六條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ事業所得稅ヲ逃脫シ又ハ逃脫セントシタル者ハ其ノ逃脫シ又ハ逃脫セントシタル事業所得稅ノ一倍以上十倍以下ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ科料額八十圓ヲ下ルコトヲ得ズ
前項ニ規定スル者ノ逃脫シタル事業所得稅ハ第十七條ノ規定ニ拘ラズ直ニ之ヲ徵收ス
第二十七條 第八條、第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依ル申告ノ怠リタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
第二十八條 第二十四條又ハ第二十五條ノ規定ニ依ル稅務官吏

ノ職務ノ執行ヲ阻害シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辭ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ答辭ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
第二十九條 第十條ノ規定ニ依リ意見ヲ徵セラレタル者事業所得稅ニ關シ知り得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ洩洩シタルトキハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
第三十條 事業所得稅ニ關スル調査又ハ審査ノ事務ニ從事スル公務員又ハ公務員タリシ者ハ事業所得稅ニ關シ知り得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ洩洩スルコトヲ得ズ
第三十一條 東京特別市、市、縣又ハ旗ハ本法ニ依リ課稅ヲ受ケル事業ノ所得ニ付テハ事業所得稅加捐ヲ課スルノ外一切ノ課稅ヲ爲スコトヲ得ズ
附 則
第三十二條 本法ハ昭和八年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
第三十三條 營業稅法、自由職業稅法及昭和六年勅令第三百四十七號法人營業稅法第一條但書ニ規定スル法人ニ對スル營業稅法又ハ自由職業稅法ノ適用ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前課徵收スベカリシ營業稅及自由職業稅ノ課徵收收並ニ本法施行前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ仍其ノ效力ヲ有ス
第三十四條 昭和七年中ニ事業ヲ廢止シタル者及本法施行前ヨリ引續キ事業ヲ營ム者ニシテ本法施行ノ日ヨリ昭和九年十二月三十一日迄ニ廢業スル者ニ對シテハ廢業ノ年ノ翌年分ノ事業所得稅ノ課稅ヲ免除ス

○事業所得稅法施行規則

(昭和七年二月二十八日 經濟部令第七五號)

- 茲ニ事業所得稅法施行規則ヲ左ノ通制定ス
第一條 事業所得稅法第三條ニ掲グル職業ノ種類ハ左記ニ依ル
一 宗教ニ關スル業
二 宗敎ニ關スル業
三 宗敎ニ關スル業
四 宗敎ニ關スル業
五 宗敎ニ關スル業
六 宗敎ニ關スル業
七 宗敎ニ關スル業
八 宗敎ニ關スル業
九 宗敎ニ關スル業
十 宗敎ニ關スル業
十一 宗敎ニ關スル業
十二 宗敎ニ關スル業
十三 宗敎ニ關スル業
十四 宗敎ニ關スル業
十五 宗敎ニ關スル業
十六 宗敎ニ關スル業
十七 宗敎ニ關スル業
十八 宗敎ニ關スル業
十九 宗敎ニ關スル業
二十 宗敎ニ關スル業
二十一 宗敎ニ關スル業
二十二 宗敎ニ關スル業
二十三 宗敎ニ關スル業
二十四 宗敎ニ關スル業
二十五 宗敎ニ關スル業
二十六 宗敎ニ關スル業
二十七 宗敎ニ關スル業
二十八 宗敎ニ關スル業
二十九 宗敎ニ關スル業
三十 宗敎ニ關スル業
三十一 宗敎ニ關スル業
三十二 宗敎ニ關スル業
三十三 宗敎ニ關スル業
三十四 宗敎ニ關スル業
三十五 宗敎ニ關スル業
三十六 宗敎ニ關スル業
三十七 宗敎ニ關スル業
三十八 宗敎ニ關スル業
三十九 宗敎ニ關スル業
四十 宗敎ニ關スル業
四十一 宗敎ニ關スル業
四十二 宗敎ニ關スル業
四十三 宗敎ニ關スル業
四十四 宗敎ニ關スル業
四十五 宗敎ニ關スル業
四十六 宗敎ニ關スル業
四十七 宗敎ニ關スル業
四十八 宗敎ニ關スル業
四十九 宗敎ニ關スル業
五十 宗敎ニ關スル業
五十一 宗敎ニ關スル業
五十二 宗敎ニ關スル業
五十三 宗敎ニ關スル業
五十四 宗敎ニ關スル業
五十五 宗敎ニ關スル業
五十六 宗敎ニ關スル業
五十七 宗敎ニ關スル業
五十八 宗敎ニ關スル業
五十九 宗敎ニ關スル業
六十 宗敎ニ關スル業
六十一 宗敎ニ關スル業
六十二 宗敎ニ關スル業
六十三 宗敎ニ關スル業
六十四 宗敎ニ關スル業
六十五 宗敎ニ關スル業
六十六 宗敎ニ關スル業
六十七 宗敎ニ關スル業
六十八 宗敎ニ關スル業
六十九 宗敎ニ關スル業
七十 宗敎ニ關スル業
七十一 宗敎ニ關スル業
七十二 宗敎ニ關スル業
七十三 宗敎ニ關スル業
七十四 宗敎ニ關スル業
七十五 宗敎ニ關スル業
七十六 宗敎ニ關スル業
七十七 宗敎ニ關スル業
七十八 宗敎ニ關スル業
七十九 宗敎ニ關スル業
八十 宗敎ニ關スル業
八十一 宗敎ニ關スル業
八十二 宗敎ニ關スル業
八十三 宗敎ニ關スル業
八十四 宗敎ニ關スル業
八十五 宗敎ニ關スル業
八十六 宗敎ニ關スル業
八十七 宗敎ニ關スル業
八十八 宗敎ニ關スル業
八十九 宗敎ニ關スル業
九十 宗敎ニ關スル業
九十一 宗敎ニ關スル業
九十二 宗敎ニ關スル業
九十三 宗敎ニ關スル業
九十四 宗敎ニ關スル業
九十五 宗敎ニ關スル業
九十六 宗敎ニ關スル業
九十七 宗敎ニ關スル業
九十八 宗敎ニ關スル業
九十九 宗敎ニ關スル業
一百 宗敎ニ關スル業

關稅法

(廣德四年十二月二十日)

改正 廣德六年六月勅令第一二五號 六月第一六一號 關稅法第三十六條ニ依リ參照府ノ海關ヲ經テ關稅法ヲ適用シ

第一章 總則

第一節 課稅及徵收

第一條 輸入外國物品ニ付テハ別表輸入稅率表ニ依リ輸入稅ヲ課ス 第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ以テ關稅ノ納稅義務者ト

第五十四條第二項ニ該當スル物品ニ付テハ各其ノ申告人 第六條 納稅ノ納付ヲ免レ又ハ免レントシタル物品ニ付テ

第七條 其ノ他ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サント

前項第一號ニ掲グル申告人ト第二號乃至第四號又ハ第六號ニ

掲グル者トノ納稅義務額ハ第一號ノ規定ハ之ヲ適

用セズ 第二項第三號又ハ第四號ノ場合ニ於テ該申告人トノ納

稅義務額ハ前條第一項第一號ノ場合ハ申告ノ時、第二號ノ

場合ハ消費セントスル時、第三號又ハ第四號ノ場合ハ該物品

ハ紛失ノ時各其ノ時ニ於ケル物品ノ性質及數量ニ該當到著

平常價格ニ依リ之ヲ課ス 前條第一項第五號ノ場合ハ指定期間満了ノ時該物品

ノ納稅ノ時ニ於ケル性質及數量ニ該當到著平常價格ニ依リ

之ヲ課ス 第二項ニ該當セザル場合ハ第十三條第二項ノ場合ヲ除

クノ外輸出又ハ輸入セントスル時其ノ時ニ於ケル物品ノ性質

及數量ニ該當到著平常價格ニ依リ之ヲ課ス 第四條 第二百二十條但書ノ規定ニ依リ輸入ノ際該物品ヲ受ケタル

保險倉庫或ハ該物品ノ納稅ノ前條ノ規定ニ拘ラズ輸入檢査ノ時

ノ性質及數量ニ依リ之ヲ課ス 前項ノ輸入檢査ヲ受ケタル物品ガ滅失若ハ變質シ又ハ滅却セ

ラレタルトキハ其ノ現存スルモノニ付前條ノ規定ヲ適用ス 第五條 經濟部大臣必要アリト認ムルトキハ期間ヲ定メ第三條

ニ規定スル關境到著平常價格ニ該當スル價格ヲ以テ其ノ期間

ノ課稅價格ト爲スコトヲ得 第六條 從價稅課セラルル物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅法

(廣德四年十二月二十日)

改正 廣德六年六月勅令第一二五號 六月第一六一號 關稅法第三十六條ニ依リ參照府ノ海關ヲ經テ關稅法ヲ適用シ

第一章 總則

第一節 課稅及徵收

第一條 輸入外國物品ニ付テハ別表輸入稅率表ニ依リ輸入稅ヲ課ス 第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ以テ關稅ノ納稅義務者ト

第五十四條第二項ニ該當スル物品ニ付テハ各其ノ申告人 第六條 納稅ノ納付ヲ免レ又ハ免レントシタル物品ニ付テ

第七條 其ノ他ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サント

前項第一號ニ掲グル申告人ト第二號乃至第四號又ハ第六號ニ

掲グル者トノ納稅義務額ハ第一號ノ規定ハ之ヲ適

用セズ 第二項第三號又ハ第四號ノ場合ニ於テ該申告人トノ納

稅義務額ハ前條第一項第一號ノ場合ハ申告ノ時、第二號ノ

場合ハ消費セントスル時、第三號又ハ第四號ノ場合ハ該物品

ハ紛失ノ時各其ノ時ニ於ケル物品ノ性質及數量ニ該當到著

平常價格ニ依リ之ヲ課ス 前條第一項第五號ノ場合ハ指定期間満了ノ時該物品

ノ納稅ノ時ニ於ケル性質及數量ニ該當到著平常價格ニ依リ

之ヲ課ス 第二項ニ該當セザル場合ハ第十三條第二項ノ場合ヲ除

クノ外輸出又ハ輸入セントスル時其ノ時ニ於ケル物品ノ性質

及數量ニ該當到著平常價格ニ依リ之ヲ課ス 第四條 第二百二十條但書ノ規定ニ依リ輸入ノ際該物品ヲ受ケタル

保險倉庫或ハ該物品ノ納稅ノ前條ノ規定ニ拘ラズ輸入檢査ノ時

ノ性質及數量ニ依リ之ヲ課ス 前項ノ輸入檢査ヲ受ケタル物品ガ滅失若ハ變質シ又ハ滅却セ

ラレタルトキハ其ノ現存スルモノニ付前條ノ規定ヲ適用ス 第五條 經濟部大臣必要アリト認ムルトキハ期間ヲ定メ第三條

ニ規定スル關境到著平常價格ニ該當スル價格ヲ以テ其ノ期間

ノ課稅價格ト爲スコトヲ得 第六條 從價稅課セラルル物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

關稅ノ額ニ該當スル額ノ半額ノ物品ニ付テハ輸出又ハ輸入

セラレザルモノト看做ス但シ本法ノ規定ニ依ル作業ノ爲ニ非
ズシテ之ヲ消費シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第五十條第四號ニ該當スル内國物品及外國ノ地域ヲ經由シテ
運送中ノ第三百三十七條但書ニ該當スル物品ハ未ダ輸出セラレ
ザルモノト看做ス但シ之ヲ消費シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第五十條第五號各號ノ一ニ該當スル外國物品若シテ
又ハ紛失シタルモノトキハ輸入セラレタルモノト推定ス
轉運内國物品又ハ外國經由運送物品ガ指定区域内ニ仕向先
到着セザルモノトキハ輸出セラレタルモノト推定ス
第五十三條第一項、第五十四條第一項、第五十九
條第二項、第六十八條、第七十三條第二項、第八十七條第一
項、第九十二條第二項、第九十三條第二項、第九十六
條第三項第四項、第九十七條第二項第三項及第九十三條
規定ハ輸出認許ヲ受ケ未ダ輸出セラレザル外國物品ニ付テハ
之ヲ適用セズ
第五十六條 第四十八條、第五十條、第五十二條、第三百三十一
條、第三百三十二條及第三百三十六條ノ規定ハ災害其ノ他ノ抗拒
スベカラザル事由ニ因リ行爲ニ付テハ之ヲ適用セズ但シ當該
行爲者ハ事由ノ止ミタル後運送中其ノ運送ノ責任ヲ負擔スル者
ニ付テハ之ヲ適用セズ
第五十七條 第五十條各號ノ一ニ該當スル物品ノ輸送、積載其
ノ他ノ取扱ヲ爲ス者ハ總テ物品ノ取替ニ關スル稅關長ノ命令
ニ服シ稅關長ノ指揮ニ従フベシ
前項ノ規定ニ該當スル者及外國物品、轉運物品又ハ外國經由
運送物品ヲ輸送スル者ハ稅關長ノ職務ノ執行ニ付便宜ヲ供
與スベシ
第二節 通關及作業
第五十八條 外國物品及輸出、轉運又ハ外國經由運送ノ認許ヲ
受ケントスル内國物品ハ之ヲ稅關長ニ非ザル場所ニ積置ス

ルコトヲ得ズ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在
ラズ
一 巨大貨物其ノ他ノ事由ニ因リ稅關長ニ積置スルコト固
難ナル物品
二 第三百三十三條第一項ノ規定ニ依リ積置又ハ積置セントス
ル物品ニシテ同項第一號又ハ第二號ニ該當スルモノ
三 災害其ノ他ノ抗拒スベカラザル事由ニ因リ積置セント
スル物品
四 積置物品
五 押收物品
第五十九條 前條第一號ニ該當スル物品ヲ稅關長ニ非ザル場
所ニ積置セントスルコトキハ稅關長ノ許可ヲ受テベシ
稅關長ハ外國物品ニ付テハ稅關長ノ許可ヲ受テベシ
物品ノ積置ノ擔保物ヲ提供セシムルコトヲ得
第六十條 第五十條第一號ニ該當スル稅關長積置物品ニ付テ
ハ其ノ現狀ヲ維持スル爲ニ必要ナル場合ニ限り稅關長ノ承認ヲ
受ケテ手入作業ヲ爲スコトヲ得
第六十一條 稅關長ハ出入貨物ノ積置ニ關シテ必要ナル承認ヲ
稅關長ノ命令ニ服シ稅關長ノ指揮ニ従フベシ
第六十二條 指定稅關區域ノ種類ハ左ノ通トス
一 稅關行場
二 稅關行場
三 通關場
四 通關場
五 稅關行場
第六十三條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲メ
稅關長ハ國外ト連絡シテ一般輸送ノ用ニ供セラルル運送ノ國

境ニ近接スル埠ニ付テハ經濟部大臣ノ指定ス
第六十四條 稅關行場ハ空路ニ由ル物品ニ付テハ經濟部大臣
爲メ稅關長トス
稅關行場ハ公共ノ用ニ供セラルル行場ニ付テハ經濟部大臣之
ノ指定ス
第六十五條 通關場ハ郵便物ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲メ稅關長
トス
通關場ハ郵政局ニ付テハ經濟部大臣ノ指定ス
第六十六條 通關場ハ第四十九條第一項第二號ノ關稅道路ニ由
ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲メ稅關長トス
通關場ハ國外ト連絡シテ一般輸送ノ用ニ供セラルル陸路若ハ
水路又ハ之ニ接續スル區域ノ國境ニ近接スル場所ニ付テハ稅關長
ノ指定ス
第六十七條 稅關行場ハ通關手續ヲ爲サントスル物品ヲ積置ス
ル爲メ稅關長トス
稅關行場ハ稅關ノ構内ニ付テハ稅關長ノ指定ス
第六十八條 外國物品ヲ稅關長ノ許可ヲ受テ輸入
シタル者ハ物品輸入後直ニ其ノ通關手續ヲ開始シ又ハ之ヲ他
ノ稅關區域ニ輸出スベシ但シ鐵道車輛又ハ航空機ニ依リ稅關
長ハ稅關行場ニ輸入シタル物品ヲ當該運送機關ニ積載シ
タル積載スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第六十九條 稅關長ハ稅關行場又ハ通關場ニ於テ通關手續ヲ
了シタル物品ハ運送中其ノ保險區域ヨリ輸出スベシ但
シ鐵道車輛又ハ航空機ニ積載シタル物品及輸入手續ヲ了シタ
ル物品ハ此ノ限ニ在ラズ
第七十條 稅關長ハ取替ニ必要アリト認ムルモノキハ稅關長、稅
關行場又ハ通關場ニ於テ通關手續ヲ爲シ得ベキ物品又ハ其
ノ通關手續ノ種類ヲ制限スルコトヲ得
第七十一條 第八十條ノ規定ハ稅關長及稅關行場ニ付テハ準

第七十二條 第八十一條第二項、第九十一條、第九十三條及第
九十四條ノ規定ハ稅關長ニ付テハ準用ス
第七十三條 稅關長ハ稅關長ニ積置セラレタル物品積置期間ヲ經過シ
タルトキハ貨主ハ運送中ノ之ヲ輸出スベシ
貨主前項ノ規定ニ該當スル外國物品ノ輸出ヲ爲サントキハ稅關長
ハ之ヲ賣却スルコトヲ得
稅關長ハ前項ノ賣却代金中ヨリ賣却ノ費用及其ノ物品ノ積置
ニ相當スル金額ヲ收納シ仍舊金アルトキハ之ヲ供託スベシ
第七十四條 通關場又ハ稅關長ニ輸入シタル物品ニ付テハ貨
主其ノ保管ノ責任ヲ負フベシ
第三節 特許稅關區域
第七十五條 特許稅關區域ノ種類ハ左ノ通トス
一 稅關行場
二 稅關行場
三 稅關行場
第七十六條 經濟部大臣又ハ稅關長ハ其ノ特許シタル稅關區域
ノ設置ニ關シ稅關長ヲ監督ス
第七十七條 稅關長ハ特許稅關區域ノ設置人ニ對シ其ノ設置ニ
關スル報告ヲ命ジ又ハ稅關長ニ對シテ特許稅關區域ノ設置ノ
状況ヲ検査セシムルコトヲ得
第七十八條 特許稅關區域ノ設置人ハ物產保管規則及物品保管
規則ヲ定メ稅關長ノ監督ヲ受ケタル特許稅關區域ノ設置人ハ稅關
長ニ之ヲ提出スベシ但シ設置人ノ物品ヲ積置スル爲メ特許稅
關區域ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ
特許稅關區域ノ設置人前項ノ物產保管規則又ハ物品保管規則
ヲ制定シタルモノトキハ同項ノ規定ニ準用ス
經濟部大臣又ハ稅關長ハ其ノ特許シタル稅關區域ノ設置ノ狀
況ニ依リ必要アリト認ムルモノキハ特許稅關區域又ハ物品保管
規則ノ制定ヲ命ジタルコトヲ得

第七十九條 設置人ノ物品ヲ積置スル爲メ特許稅關區域ノ場合
ニ於テハ稅關長ハ其ノ設置人ヲシテ稅關區域積置物品ノ積
稅ノ擔保物ヲ供託セシムルコトヲ得
第八十條 稅關長ハ特許稅關區域ノ設置人ニ對シ通關上必要ナ
ル設備ノ實施ヲ命ズルコトヲ得
第八十一條 稅關長ハ通關手續ヲ爲サントスル物品ヲ積置ス
ル爲メ稅關長トス
稅關長ハ前項ノ規定ニ該當スル物品ノ積置ヲ妨ゲザル範圍内ニ
於テ前項ノ規定ニ該當セザル内國物品ヲ積置スルコトヲ得
第八十二條 稅關長ノ種類ハ左ノ通トス
一 第一種稅關長
二 第二種稅關長
第八十三條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第八十四條 第二種稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲
ス爲メ稅關長トス
第八十五條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第八十六條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第八十七條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第八十八條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第八十九條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第九十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ稅關長ハ稅關
長ノ職務ヲ執行スルコトヲ得
一 貨主前項ノ規定ニ該當スル物品ノ積置ニ關シテ積置期間
滿了ノ日ヨリ三年ヲ超スルコトヲ得ズ
二 貨主前項ノ規定ニ該當スル物品ノ積置ニ關シテ積置期間
滿了ノ日ヨリ三年ヲ超スルコトヲ得ズ
三 貨主前項ノ規定ニ該當スル物品ノ積置ニ關シテ積置期間
滿了ノ日ヨリ三年ヲ超スルコトヲ得ズ
第九十一條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第九十二條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第九十三條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第九十四條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第九十五條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第九十六條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第九十七條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第九十八條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第九十九條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス

第九十一條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第九十二條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第九十三條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第九十四條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第九十五條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第九十六條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第九十七條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第九十八條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第九十九條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百零一條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百零二條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百零三條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百零四條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百零五條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百零六條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百零七條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百零八條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百零九條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百一十條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百一十一條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百一十二條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百一十三條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百一十四條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百一十五條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百一十六條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百一十七條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百一十八條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百一十九條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百二十條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百二十一條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百二十二條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百二十三條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百二十四條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百二十五條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百二十六條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百二十七條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百二十八條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百二十九條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百三十條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百三十一條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百三十二條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百三十三條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百三十四條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百三十五條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百三十六條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百三十七條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百三十八條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百三十九條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百四十條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百四十一條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百四十二條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百四十三條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百四十四條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百四十五條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百四十六條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百四十七條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百四十八條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百四十九條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百五十條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百五十一條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百五十二條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百五十三條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百五十四條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百五十五條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百五十六條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百五十七條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百五十八條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百五十九條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百六十條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百六十一條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百六十二條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百六十三條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百六十四條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百六十五條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百六十六條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百六十七條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百六十八條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百六十九條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百七十條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百七十一條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百七十二條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百七十三條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百七十四條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百七十五條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百七十六條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百七十七條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百七十八條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百七十九條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百八十條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百八十一條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百八十二條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百八十三條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百八十四條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百八十五條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百八十六條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百八十七條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百八十八條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百八十九條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百九十條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百九十一條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百九十二條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百九十三條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百九十四條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百九十五條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百九十六條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百九十七條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百九十八條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第一百九十九條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス
第二百條 稅關長ハ總テ由ル物品ニ付テハ通關手續ヲ爲ス爲
メ稅關長トス

第九十二條 關稅法ヲ經テ運送シタル物品ハ賣主ノ責任ニ於テ
運送中ノ損出スルコトヲ得
賣主ノ責任ニ規定スル外國物品ノ輸出ヲ爲サザルトキハ賣主
長ハ之ヲ賣却スルコトヲ得
賣主ハ賣却ノ費用及關稅ニ相當スル
金額ヲ收納シ仍舊金アルトキハ之ヲ賣主ニ交付スベシ
第九十三條 賣主ノ責任ニ付テ運送手続ヲ了シタル者ハ特ニ賣主
ノ責任ヲ受ケタル場合ノ外運送中ノ損出物品ヲ其ノ保險費
ヨリ輸出スベシ
第九十四條 保險費ニ物品ヲ賣入セントスルトキハ其ノ旨ヲ
賣主ニ通知スベシ
第九十五條 保險費ニ第八十一條第二項ニ規定スル物品ヲ賣入セントス
ルトキハ賣主長ノ許可ヲ受テベシ
第九十六條 賣主長ノ許可ヲ受テベシ
第九十七條 賣主長ノ許可ヲ受テベシ
第九十八條 賣主長ノ許可ヲ受テベシ
第九十九條 賣主長ノ許可ヲ受テベシ
第一百條 賣主長ノ許可ヲ受テベシ

關稅ノ許可ヲ受テベシ
第九十七條 保險費ノ負擔ハ左ノ通トス
一 第一種保險費
二 第二種保險費
第九十八條 保險費ノ負擔ハ左ノ通トス
第九十九條 保險費ノ負擔ハ左ノ通トス
第一百條 保險費ノ負擔ハ左ノ通トス
第一百零一條 保險費ノ負擔ハ左ノ通トス
第一百零二條 保險費ノ負擔ハ左ノ通トス
第一百零三條 保險費ノ負擔ハ左ノ通トス
第一百零四條 保險費ノ負擔ハ左ノ通トス
第一百零五條 保險費ノ負擔ハ左ノ通トス
第一百零六條 保險費ノ負擔ハ左ノ通トス
第一百零七條 保險費ノ負擔ハ左ノ通トス
第一百零八條 保險費ノ負擔ハ左ノ通トス
第一百零九條 保險費ノ負擔ハ左ノ通トス
第一百一十條 保險費ノ負擔ハ左ノ通トス

等ニテ賣主ニ對シテ其ノ輸出ヲ命ズルコトヲ得
第九十二條 關稅法ヲ經テ運送シタル物品ハ賣主ノ責任ニ於テ
運送中ノ損出スルコトヲ得
賣主ノ責任ニ規定スル外國物品ノ輸出ヲ爲サザルトキハ賣主
長ハ之ヲ賣却スルコトヲ得
賣主ハ賣却ノ費用及關稅ニ相當スル
金額ヲ收納シ仍舊金アルトキハ之ヲ賣主ニ交付スベシ
第九十三條 賣主ノ責任ニ付テ運送手続ヲ了シタル者ハ特ニ賣主
ノ責任ヲ受ケタル場合ノ外運送中ノ損出物品ヲ其ノ保險費
ヨリ輸出スベシ
第九十四條 保險費ニ物品ヲ賣入セントスルトキハ其ノ旨ヲ
賣主ニ通知スベシ
第九十五條 保險費ニ第八十一條第二項ニ規定スル物品ヲ賣入セントス
ルトキハ賣主長ノ許可ヲ受テベシ
第九十六條 賣主長ノ許可ヲ受テベシ
第九十七條 賣主長ノ許可ヲ受テベシ
第九十八條 賣主長ノ許可ヲ受テベシ
第九十九條 賣主長ノ許可ヲ受テベシ
第一百條 賣主長ノ許可ヲ受テベシ

第九十二條 關稅法ヲ經テ運送シタル物品ハ賣主ノ責任ニ於テ
運送中ノ損出スルコトヲ得
賣主ノ責任ニ規定スル外國物品ノ輸出ヲ爲サザルトキハ賣主
長ハ之ヲ賣却スルコトヲ得
賣主ハ賣却ノ費用及關稅ニ相當スル
金額ヲ收納シ仍舊金アルトキハ之ヲ賣主ニ交付スベシ
第九十三條 賣主ノ責任ニ付テ運送手続ヲ了シタル者ハ特ニ賣主
ノ責任ヲ受ケタル場合ノ外運送中ノ損出物品ヲ其ノ保險費
ヨリ輸出スベシ
第九十四條 保險費ニ物品ヲ賣入セントスルトキハ其ノ旨ヲ
賣主ニ通知スベシ
第九十五條 保險費ニ第八十一條第二項ニ規定スル物品ヲ賣入セントス
ルトキハ賣主長ノ許可ヲ受テベシ
第九十六條 賣主長ノ許可ヲ受テベシ
第九十七條 賣主長ノ許可ヲ受テベシ
第九十八條 賣主長ノ許可ヲ受テベシ
第九十九條 賣主長ノ許可ヲ受テベシ
第一百條 賣主長ノ許可ヲ受テベシ

第九十二條 關稅法ヲ經テ運送シタル物品ハ賣主ノ責任ニ於テ
運送中ノ損出スルコトヲ得
賣主ノ責任ニ規定スル外國物品ノ輸出ヲ爲サザルトキハ賣主
長ハ之ヲ賣却スルコトヲ得
賣主ハ賣却ノ費用及關稅ニ相當スル
金額ヲ收納シ仍舊金アルトキハ之ヲ賣主ニ交付スベシ
第九十三條 賣主ノ責任ニ付テ運送手続ヲ了シタル者ハ特ニ賣主
ノ責任ヲ受ケタル場合ノ外運送中ノ損出物品ヲ其ノ保險費
ヨリ輸出スベシ
第九十四條 保險費ニ物品ヲ賣入セントスルトキハ其ノ旨ヲ
賣主ニ通知スベシ
第九十五條 保險費ニ第八十一條第二項ニ規定スル物品ヲ賣入セントス
ルトキハ賣主長ノ許可ヲ受テベシ
第九十六條 賣主長ノ許可ヲ受テベシ
第九十七條 賣主長ノ許可ヲ受テベシ
第九十八條 賣主長ノ許可ヲ受テベシ
第九十九條 賣主長ノ許可ヲ受テベシ
第一百條 賣主長ノ許可ヲ受テベシ

第九十二條 關稅法ヲ經テ運送シタル物品ハ賣主ノ責任ニ於テ
運送中ノ損出スルコトヲ得
賣主ノ責任ニ規定スル外國物品ノ輸出ヲ爲サザルトキハ賣主
長ハ之ヲ賣却スルコトヲ得
賣主ハ賣却ノ費用及關稅ニ相當スル
金額ヲ收納シ仍舊金アルトキハ之ヲ賣主ニ交付スベシ
第九十三條 賣主ノ責任ニ付テ運送手続ヲ了シタル者ハ特ニ賣主
ノ責任ヲ受ケタル場合ノ外運送中ノ損出物品ヲ其ノ保險費
ヨリ輸出スベシ
第九十四條 保險費ニ物品ヲ賣入セントスルトキハ其ノ旨ヲ
賣主ニ通知スベシ
第九十五條 保險費ニ第八十一條第二項ニ規定スル物品ヲ賣入セントス
ルトキハ賣主長ノ許可ヲ受テベシ
第九十六條 賣主長ノ許可ヲ受テベシ
第九十七條 賣主長ノ許可ヲ受テベシ
第九十八條 賣主長ノ許可ヲ受テベシ
第九十九條 賣主長ノ許可ヲ受テベシ
第一百條 賣主長ノ許可ヲ受テベシ

第二條 關稅法ノ目的物ノ種類ヲ明細ナラシムル爲メニ
 一 貨物ノ種類ニ依リテ
 二 貨物ノ用途ニ依リテ
 三 貨物ノ價值ニ依リテ
 四 貨物ノ重量ニ依リテ
 五 貨物ノ體積ニ依リテ
 六 貨物ノ成分ニ依リテ
 七 貨物ノ性質ニ依リテ
 八 貨物ノ其他ノ特性ニ依リテ
 九 貨物ノ其他ノ事項ニ依リテ
 十 貨物ノ其他ノ事項ニ依リテ

第三條 關稅法ノ適用ノ範圍ニ關シテハ
 一 關稅法ノ施行ノ區域ニ在リテ
 二 關稅法ノ施行ノ時間ニ在リテ
 三 關稅法ノ施行ノ對象ニ在リテ
 四 關稅法ノ施行ノ條件ニ在リテ
 五 關稅法ノ施行ノ手續ニ在リテ
 六 關稅法ノ施行ノ費用ニ在リテ
 七 關稅法ノ施行ノ罰則ニ在リテ
 八 關稅法ノ施行ノ其他ノ事項ニ在リテ
 九 關稅法ノ施行ノ其他ノ事項ニ在リテ
 十 關稅法ノ施行ノ其他ノ事項ニ在リテ

第四條 關稅法ノ施行ノ手續ニ關シテハ
 一 關稅法ノ施行ノ手續ノ種類ニ依リテ
 二 關稅法ノ施行ノ手續ノ時間ニ依リテ
 三 關稅法ノ施行ノ手續ノ場所ニ依リテ
 四 關稅法ノ施行ノ手續ノ費用ニ依リテ
 五 關稅法ノ施行ノ手續ノ其他ノ事項ニ依リテ
 六 關稅法ノ施行ノ手續ノ其他ノ事項ニ依リテ
 七 關稅法ノ施行ノ手續ノ其他ノ事項ニ依リテ
 八 關稅法ノ施行ノ手續ノ其他ノ事項ニ依リテ
 九 關稅法ノ施行ノ手續ノ其他ノ事項ニ依リテ
 十 關稅法ノ施行ノ手續ノ其他ノ事項ニ依リテ

第五條 關稅法ノ施行ノ手續ニ關シテハ
 一 關稅法ノ施行ノ手續ノ種類ニ依リテ
 二 關稅法ノ施行ノ手續ノ時間ニ依リテ
 三 關稅法ノ施行ノ手續ノ場所ニ依リテ
 四 關稅法ノ施行ノ手續ノ費用ニ依リテ
 五 關稅法ノ施行ノ手續ノ其他ノ事項ニ依リテ
 六 關稅法ノ施行ノ手續ノ其他ノ事項ニ依リテ
 七 關稅法ノ施行ノ手續ノ其他ノ事項ニ依リテ
 八 關稅法ノ施行ノ手續ノ其他ノ事項ニ依リテ
 九 關稅法ノ施行ノ手續ノ其他ノ事項ニ依リテ
 十 關稅法ノ施行ノ手續ノ其他ノ事項ニ依リテ

第六條 關稅法ノ施行ノ手續ニ關シテハ
 一 關稅法ノ施行ノ手續ノ種類ニ依リテ
 二 關稅法ノ施行ノ手續ノ時間ニ依リテ
 三 關稅法ノ施行ノ手續ノ場所ニ依リテ
 四 關稅法ノ施行ノ手續ノ費用ニ依リテ
 五 關稅法ノ施行ノ手續ノ其他ノ事項ニ依リテ
 六 關稅法ノ施行ノ手續ノ其他ノ事項ニ依リテ
 七 關稅法ノ施行ノ手續ノ其他ノ事項ニ依リテ
 八 關稅法ノ施行ノ手續ノ其他ノ事項ニ依リテ
 九 關稅法ノ施行ノ手續ノ其他ノ事項ニ依リテ
 十 關稅法ノ施行ノ手續ノ其他ノ事項ニ依リテ

第七條 關稅法ノ施行ノ手續ニ關シテハ
 一 關稅法ノ施行ノ手續ノ種類ニ依リテ
 二 關稅法ノ施行ノ手續ノ時間ニ依リテ
 三 關稅法ノ施行ノ手續ノ場所ニ依リテ
 四 關稅法ノ施行ノ手續ノ費用ニ依リテ
 五 關稅法ノ施行ノ手續ノ其他ノ事項ニ依リテ
 六 關稅法ノ施行ノ手續ノ其他ノ事項ニ依リテ
 七 關稅法ノ施行ノ手續ノ其他ノ事項ニ依リテ
 八 關稅法ノ施行ノ手續ノ其他ノ事項ニ依リテ
 九 關稅法ノ施行ノ手續ノ其他ノ事項ニ依リテ
 十 關稅法ノ施行ノ手續ノ其他ノ事項ニ依リテ

第二十七條 本法ハ應五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第二十八條 關東州ニ於ケル稅關ノ管轄スル貨物稅關區域
 關東州及日本國關稅定ニ規定スル區域、關津、清津ノ日本
 國稅關ノ管内及上三津停車場ノ荷物檢査場ハ保險運送ニ關ス
 ル規定ノ適用ニ付テハ之ヲ保險區域ト看做ス
 關東州ニ於ケル稅關ノ管轄スル貨物稅關區域ハ內國物品ノ轉
 運ニ關スル規定ノ適用ニ付テハ之ヲ保險區域ト看做ス
 第二十九條 販賣附加稅法、保險法及通關代辦人法ハ之ヲ
 廢止ス保險法又ハ通關代辦人法ノ規定ニ依リ爲シタル處分又
 ハ手續其ノ他ノ行爲ハ本法中ニ相當スル規定アルトキハ之
 ヲ本法ノ規定ニ依リ爲シタルモノト看做ス
 (別表省略)

關 則 (應六年六月勅令第一二五號)
 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關 則 (應六年六月勅令第一六一號)
 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

噸稅法

(應元年六月十八日)
 勅令第一八號

改正 應四年六月勅令第一四一號
 稅關法(第四十一條)ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ噸稅法ヲ改
 可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 貿易船經濟部大臣ノ指定スル港ニ入港シタルトキハ
 本令ニ依リ噸稅ヲ課ス但シ沿岸貿易ニ從事スル帆船ニ付テ
 ハ此ノ限ニ在ラズ
 第二條 噸稅ノ稅率ハ左ノ通トス
 一 第一種稅率純積量一噸毎ニ汽船ニ付テハ一角帆船ニ付
 テハ五分
 二 第二種稅率純積量一噸毎ニ汽船ニ付テハ五角帆船ニ付
 テハ二角
 前項ノ稅率ヲ適用スル場合ニ於テ一噸未満ノ積量ハ之ヲ一
 噸ト看做ス
 第三條 噸稅ハ船舶出港前船長第一種稅率又ハ第二種稅率ニ
 依リ之ヲ稅關ニ納付スベシ入港ノ時ヨリ四十八時間以上港
 内ニ在ル船舶ニ付テハ其ノ入港ノ時ヨリ四十八時間以内ニ
 之ヲ納付スベシ
 第四條 第二種稅率ニ依リ噸稅ヲ納付シタル場合ニ於テハ當
 該船舶ニ付テ納付ノ日ヨリ一年間之ヲ納付シタル港ニ於テ噸
 稅ヲ納付スルコトヲ要セズ
 第五條 稅關長噸稅課課ノ爲必要アリト認ムルトキハ船舶ノ
 積量測定ヲ爲スコトヲ得
 第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル貿易船ニ付テハ噸稅ヲ免除
 ス
 一 旅客、貨物又ハ郵便物ノ積載ヲ爲サズシテ入港ノ時ヨ
 リ二十四時間以内ニ出港スル船舶
 二 當該船舶ノ用ニ供スルコトニ付參議府ノ承認ヲ得タル
 燃料、水又ハ食料品ヲ積載スル爲入港シ入港ノ時ヨリ四十
 八時間以内ニ出港スル船舶
 三 海難ニ因リ又ハ海難者ハ修繕ノ爲入港シ其ノ事由止
 タル時ヨリ二十四時間以内ニ出港スル船舶但シ入港ノ事由
 ニ因ルニ非ズシテ旅客、貨物又ハ郵便物ノ積載ヲ爲シタル
 船舶ヲ除ク
 第七條 第三條所定ノ時迄ニ噸稅ヲ納付セザルトキハ船長ヲ
 百圓以下ノ過罰金ニ處ス
 第八條 噸稅ノ通脫ヲ圖リ又ハ噸稅ヲ通脫シタルトキハ船長
 ヲ其ノ通脫ヲ圖リ若ハ通脫シタル稅金額ノ三倍ニ相當スル
 罰金ニ處ス
 第九條 稅關長ハ噸稅ノ通脫ヲ防止スル爲必要アリト認ムル
 トキハ海邊警備隊ノ援助ヲ求ムルコトヲ得
 第十條 本令中船長ニ關スル規定ハ船長ニ代リ其ノ職務ヲ行
 フ者アルトキハ其ノ者ニ之ヲ適用ス
 第十一條 本令ニ於テ汽船ト稱スルハ蒸氣ヲ用フルト否トニ
 拘ラズ主トシテ機械力ヲ以テ運航スル船舶ヲ謂ヒ帆船ト稱
 スルハ汽船以外ノ船舶ニシテ主トシテ帆ヲ以テ運航スルモ
 ノヲ謂フ
 第十二條 本令ニ於テ貿易船ト稱スルハ營利ノ目的ヲ以テ貨
 客、貨物又ハ郵便物ノ積載ノ爲使用セララル船舶ヲ謂
 フ
 第十三條 第二條及第五條ニ規定スル純積量及其ノ測定ニ關
 シテハ(財政部令)ヲ以テ之ヲ定ム
 關 則 (應元年六月二十日ヨリ之ヲ施行ス)
 本令ハ應元年六月二十日ヨリ之ヲ施行ス
 噸稅ニ關スル從前ノ法令ハ之ヲ廢止ス但シ其ノ規定ニ依リ本
 令施行前交付セララル噸稅執照ニシテ本令施行ノ日仍ホ其

ノ有數期間滿了セザルモノハ該期間滿了ノ日滿期ノ後令
 依リ其ノ效力ヲ有ス

噸稅法第一條ニ依ル港ノ指
定ニ關スル件

(應元年六月十八日)
 財政部令第一七號

改正 應四年四月勅令第一七號
 茲ニ噸稅法第一條ニ依ル港ノ指定ニ關スル件ヲ左ノ通規定ス
 噸稅法第一條ニ依ル港ノ指定ニ關スル件
 噸稅法第一條ニ依ル港ヲ左ノ通指定ス
 安東 營口 登龍島
 關 則
 本令ハ應元年六月二十日ヨリ之ヲ施行ス

地方稅

○省地方費法

（康德三年十二月二十六日）
（勅令第二〇〇號）
改正 康德四年九月二七二號、一二月第四九二號
行政法ノ部收載

○黑河省地方費ニ關スル件

（康德四年十二月一日）
（勅令第三九九號）
行政法ノ部收載

○省地方費稅法

（康德四年十二月二十八日）
（勅令第四九一號）

朕組織法（第三十六條）ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ省地方費稅法ヲ制定シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 省地方費ハ本法ニ依リ省地方費稅トシテ牲畜稅ヲ賦課スルコトヲ得
第二條 牲畜稅ハ牲畜ノ買主又ハ自家產牲畜ノ所有者ニ之ヲ賦課ス
第三條 牲畜稅ヲ賦課スベキ牲畜ノ種類及其ノ賦課率左ノ如シ
一 牛、馬、騾、驢 百分ノ五
二 羊（山羊ヲ含ム）、豚 百分ノ二・五
第四條 牲畜稅ハ賣買セラルル牲畜ニ付テハ其ノ賣買ノ時、自家產牲畜ニ付テハ其ノ成熟シタル時其ノ時價ヲ標準トシテ之ヲ賦課ス
前項ニ於テ成熟シタル時トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタル時ヲ謂フ
一 牛、馬、騾、驢 賦課ニ付テハ明ケ四歳ト爲リタルトキ
二 羊ニ付テハ明ケ三歳ト爲リタルトキ
三 山羊（山羊ヲ含ム）、豚ニ付テハ明ケ二歳ト爲リタルトキ
第五條 國、省地方費、市、縣、鎮、街又ハ村ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スルモノニ付テハ牲畜稅ヲ賦課スルコトヲ得ズ
第六條 省長ハ市縣鎮ニ省地方費稅ノ賦課權ヲ委任スルコトヲ得
第七條 省地方費稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ懈怠アリト認ムルトキハ賦課ヲ爲シタル市縣鎮長ヲ經由

○省地方費稅法施行規則

（康德四年十二月二十八日）
（勅令第三三五號）
經濟部令第八四號

茲ニ省地方費稅法施行規則ヲ左ノ通定ス
第一條 省地方費ハ公益上其ノ他ノ事由ニ依リ課稅ヲ不適當トスル場合又ハ不適當トスル者アルトキハ國務總理大臣及經濟部大臣ノ許可ヲ得テ省地方費稅ヲ課セザルコトヲ得
第二條 省長ハ公益上其ノ他ノ事由ニ依リ必要アリト認ムルトキハ省地方費稅ヲ減免スルコトヲ得
第三條 牲畜稅ハ牲畜ノ所在地ニ於テ之ヲ賦課ス
第四條 省地方費稅ヲ徵收セントスルトキハ省長又ハ市縣鎮長ハ納稅告知書ヲ納稅者ニ交付スルベシ
第五條 市縣鎮長ハ徵收シタル納稅告知書ヲ受ケタル納稅者ハ其ノ税金ヲ市縣鎮長ノ指定シタル納稅機關ニ納付シ其ノ領收證ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ス
第六條 市縣鎮長ハ其ノ徵收シタル省地方費稅及其ノ滞納ニ因リテ生ジタル延滞金並ニ過料ヲ省長ノ定ムル期間内ニ滿洲中央銀行ニ拂込シ其ノ領收證ヲ得テ納入ノ義務ヲ了ス
第七條 市縣鎮長ハ前條ノ期間内ニ於テ過料ベカラザル災害ニ因リ稅收ノ省地方費稅金ヲ失ヒタルトキハ其ノ納入義務ノ免除ヲ省長ニ申請スルコトヲ得
第八條 省地方費稅法第八條ノ規定ハ前項ノ申請ニ付テハ準用ス
第九條 省地方費稅法第六條ノ規定ニ依リ省地方費稅ノ賦課スル一切ノ細費ハ市縣鎮長ノ負擔トス
第十條 省地方費稅ノ賦課ニ關シ税金徵收金額ノ百分ノ十ニ相當スル金額ヲ交付スルベシ

レ賦課ニ關スル處分ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ省長ニ對シ書面ヲ請求スルコトヲ得
第八條 省長ハ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ三十日以内ニ決定スルベシ其ノ決定ニ不服アル者ハ處分ヲ爲シタル省長ヲ經由シ國務總理大臣ニ訴願スルコトヲ得
前項ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スルベシ
第九條 省地方費稅ヲ定期内ニ納メザル者アルトキハ省長又ハ省地方費稅ノ賦課徵收ヲ爲スベキ市縣鎮長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スルベシ
前項ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ手数料及延滞金ヲ徵收ス
第十條 第一項ノ督促ヲ受ケ其ノ指定期限内ニ之ヲ完納セザルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スルベシ
省地方費稅並ニ其ノ滯納ニ依リ生ジタル督促手数料、延滞金、滯納處分費ハ國稅徵收金ニ次ギ地方費稅其ノ他ノ公課及債權ニ優先シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル
第十一條 處分ニ不服アル者ハ處分ヲ爲シタル市縣鎮長及省長ヲ經由シ處分ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ國務總理大臣ニ訴願スルコトヲ得
第十二條 處分中押押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止スルコトヲ得
第十三條 省又ハ市縣鎮ノ當該職員省地方費稅ノ賦課ニ關シ必要アリト認ムル場合ニ於テハ家宅若ハ營業所ニ檢査シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得
第十四條 省長ハ其ノ身分ヲ證明スベキ證據ヲ提出スルベシ
第十五條 省長ハ國務總理大臣及經濟部大臣ノ許可ヲ受ケ許其ノ他不正行為ニヨリ省地方費稅ヲ逋脱シタル者ニ對シ

第九條 省地方費稅法第九條第一項ノ督促ハ督促狀ヲ以テ之ヲ爲スルベシ
第十條 督促手数料ニ關スル事項ハ國務總理大臣ノ許可ヲ得テ省長之ヲ定ム
第十一條 市縣鎮長ハ於テ第九條ノ規定ニ依リ督促狀ヲ發シタル場合ニ於ケル手数料ハ其ノ市縣鎮長ノ收入トス
第十二條 省地方費稅ノ督促ヲ爲シタル場合ハ一日ニ付税金額ノ千分ノ一以内ニ於テ省長ノ定ムル割合ヲ以テ納期限ノ翌日ヨリ税金完納又ハ財產差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滞金ヲ徵收スルベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合又ハ滯納ニ付省長若ハ市縣鎮長ニ於テ酌量スベキ事情アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ
一 納期限ヲ繰上リ徵收ヲ爲ストキ
二 納稅者ノ住所及居所ガ市縣鎮内ニ在ラザル爲又ハ其ノ不明ノ爲公示差押ノ方法ニ依リ納稅ノ命令又ハ督促ヲ爲シタルトキ
三 督促狀ノ指定期日迄ニ税金及督促手数料ヲ完納シタルトキ
第十三條 省地方費稅法第六條ノ規定ニ依リ省地方費稅ノ賦課徵收ヲ市縣鎮長ニ委任シタル場合ニ於テハ同法第九條第三項ノ場合ニ於テハ滯納處分ニ要スル額費ハ市縣鎮長ノ負擔トシ滯納處分費ハ其ノ市縣鎮長ノ收入トス
第十四條 省地方費稅並ニ其ノ督促手数料、延滞金及滯納處分費ノ過料金並ニ請求ハ之ヲ徵收シタル省長又ハ市縣鎮長ニ對シテ爲スルベシ
第十五條 省長ハ於ケル滯納金ハ之ヲ收入シタル省地方費又ハ市縣鎮長ノ負擔トス
第十六條 地方費稅法施行規則第三十四條乃至第四十條ノ三及第四十七條ノ二乃至第四十七條ノ四ノ規定ハ省地方費稅ニ

付之ヲ準用ス
第十六條 省地方税ノ賦課徴収ニ關シテ本令及其ノ他ノ法令ニ規定アルモノノ外必要ナル事項ハ國務總理大臣及經濟部大臣ノ許可ヲ受ケテ之ヲ定ム

地方税法

改正
廣徳三年六月勅令第九三號(前令第一〇五號)
廣徳四年八月第二〇二號(前令第一〇五號)
廣徳五年一月第二三〇二號(前令第一〇五號)
廣徳六年一月第二三〇二號(前令第一〇五號)
廣徳七年一月第二三〇二號(前令第一〇五號)

賦課法第四十一條ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ地方税法ヲ裁可シ之ニテ公布セシム
第一條 縣城市ハ別ニ法律ニ定アルモノノ外本法ニ依リ地方税ヲ賦課スルコトヲ得
第二條 地方税法ノ題目左ノ如シ
一 營業稅附加捐
二 家屋稅附加捐
三 遺興飲食稅附加捐
四 地捐
五 雜捐
第三條 附則
第四條 專賣稅附加捐ハ市ニ在リテハ專賣稅ノ百分ノ七十五以内、縣ニ在リテハ專賣稅ノ百分ノ五十以内トス

トシテ土地所有者又ハ之ニ準ズベキ者ニ之ヲ賦課ス
納稅義務者ニ關シテアリタルキハ新納稅義務者ハ其ノ年分及前年分ノ地捐ニ付納稅義務者トシテ之ヲ納付ノ義務ヲ負フ
第七條 雜捐ヲ賦課スルコトヲ得ベキモノノ種類ハ命令ノ定ムルモノトシテ國務總理大臣及經濟部大臣ノ許可ヲ受ケタルモノニ限ル
第八條 雜捐ノ課稅標準並ニ地捐及雜捐ノ賦課ノ制限ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム(廣四・廣四九三號本條改正)
第九條 特別ノ必要アル場合ハ國務總理大臣及經濟部大臣ノ許可ヲ受ケ不均一又ハ一部賦課ヲ爲スコトヲ得
第十條 地方税ノ課稅ノ受ケタル者其ノ課稅ニ付辦法又ハ課稅アリト認ムルキハ賦課ニ關スル處分ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ縣城市長ニ對シテ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得
第十一條 縣城市長ハ前條ノ請求アリタルキハ三十日以内ニ決定スベシ其ノ決定ニ不服アル者ハ處分ヲ爲シタル縣城市長ヲ經由シ決定書ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ省長(特別市ニ在リテハ國務總理大臣)ニ訴願スルコトヲ得
決定及訴願ノ裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ理由ヲ附シ之ヲ本人ニ交付スベシ
第十二條 地方税ヲ定期内ニ納メザル者アルトキハ縣城市長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スベシ
前項ノ場合ニ於テハ縣城市長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ手数料及延滞金ヲ徵收スベシ
前項ノ第一項ノ督促ヲ受ケ其ノ指定ノ期限内ニ之ヲ完納セザルトキハ國稅納付額分ノ例ニ依リ之ヲ處分スベシ
地方税及第二項ノ徵收金ハ國稅徵收金ニ次テ優先シ其ノ遺額額分ノ處分ニ不服アル者ハ處分ヲ爲シタル縣城市長ヲ經由シ處分ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ省長(特別市ニ在リテハ國務總理大臣)ニ訴願スルコトヲ得

地方税法施行規則

改正
廣徳三年六月民二一附一八可一〇廣三號、同三年一月二九號、同四年一月二九號、同四年八月八號、同六年一月九號、同四年一月三六號八五號、同六年一月九號、同四年一月三六號八五號、同七年四月一號、同六年一月九號、同四年一月三六號八五號
茲ニ地方税法施行規則ヲ左ノ通制定ス
第一章 總則
第一條 地方税法第六條ニ依リ地捐ヲ賦課スベキ土地ノ種類並ニ地捐ノ課稅標準、賦課率及賦課方法ハ本令又ハ他ノ法令ニ規定アルモノノ外從前ノ例ニ依ル但シ國務總理大臣及經濟部大臣ノ許可ヲ受ケ變更スルコトヲ得
第二條 左ニ掲グル土地ニ對シテハ地捐ヲ賦課スルコトヲ得ズ
一 非開放地城内ノ土地ニ付テハ其ノ使用者
二 開放地城内ノ生計池ニ付テハ其ノ使用者
三 開放地城内ノ前條以外ノ土地ニ付テハ其ノ商租權者、典權者、永佃權者又ハ永租權者
前項ニ於テ永租權者ト稱スルハ永佃權者ニ非ズシテ租料ヲ支拂ヒ永久ニ他人ノ土地ヲ使用スル權利ヲ有スル者ヲ謂フ
第三條 左ニ掲グル土地ニ對シテハ地捐ヲ賦課スルコトヲ得ズ
一 廟、神社、寺院、講堂、學校、教育所又ハ說教所
二 用ニ供スル土地及綠地
三 國、省地方官、縣城市又ハ町村ニ於テ公用又ハ公共用ニ供スル土地

ハ國務總理大臣)ニ訴願スルコトヲ得
前條第二項ノ規定ハ前項ノ訴願ニ付テ之ヲ準用ス
第三項ノ處分中差押物件ノ公賣ハ處分確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス
第十三條 地方税ノ賦課徴収ニ關シテハ本法其ノ他ノ法律ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第十四條 (廣四・勅令第二四二號本附則中改正)
本法中營業稅附加捐及地捐ニ關スル規定ハ廣徳二年度分、房捐、戸別捐及雜捐ニ關スル規定ハ廣徳三年度分ヨリ之ヲ適用ス
營業稅附加捐ハ廣徳二年度分ニ限リ仍ホ從前ノ例ニ依リ賦課スルコトヲ得
營業稅附加捐ヲ賦課スル場合ニ於テ必要アルトキハ廣徳二年度分ニ限リ法人營業ニ對シテハ國務總理大臣及經濟部大臣ノ許可ヲ受ケ資本金又ハ輸入金ヲ標準トシテ營業額ヲ賦課スルコトヲ得
地捐又ハ房捐ノ賦課ニ關シテ特別ノ事由アル場合ニ於テハ當分ノ間第四條及第五條ノ規定ニ拘ラズ國務總理大臣及經濟部大臣ノ許可ヲ受ケ他ノ標準ニ依ルコトヲ得
戸別捐ハ法人營業稅附加捐又ハ營業稅附加捐ノ賦課ヲ受ケタル者ニ對シテハ當分ノ間之ヲ賦課セズ但シ營業以外ノ收入金及遺贈ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
附則 (廣徳三年六月勅令第九三號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
附則 (廣徳三年十二月勅令第三〇二號)
本法ハ廣徳四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行前ヨリシタル事業年度分ノ純益又ハ廣徳三年十二月三十一日トシテ廣徳四年一月一日トシタル事業年度分ノ純益中日額計算ノ方法ニ依リ算定シタル廣徳三年十二月三十一日以前ノ期間ニ關スルモノニ對シテハ本法ハ法人營業稅(正税額)ノ課稅標準トシテ營業稅附加捐、廣徳四年分以前ノ課稅額及

ル地方稅徵收ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於テ徵收及還金ノ爲ニ要
シタル費用ハ應シテ受ケタル納稅者ノ負擔トシ應シテ受ケタ
ル納稅者ニ於テ徵收シタル督促手数料及滞納處分費ハ之ヲ其
ノ納稅者ノ收入トス

第十四條 前條ノ規定ハ他ノ縣市ニ在ル財產ニ對スル滞
納處分執行ノ場ニ付テ之ヲ適用ス

第十五條 遺失金及附加金ノ徵收 又ハ應奉
(該ニ限ル)ニ對スル雜捐及國務總理大臣及經濟部大臣ノ指定
シタル雜捐ニ付テハ其ノ徵收ノ便宜ヲ有スル者ヲシテ之ヲ徵
收セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ徵收義務者當該還金ヲ
徵收シタルト否トニ拘ラズ納付ノ義務ヲ負フ

第十六條 前條ノ規定ニ依リ徵收スル遺失金及附加金又ハ
雜捐ノ納稅者ハ其ノ還金ヲ徵收義務者ニ拂込ムニ依リ納稅ノ
義務ヲ了ス

第十七條 前條ノ納稅者其ノ還金ヲ滞納シタルトキハ徵收
義務者ノ申請ニ依リ縣市ニ於テ滞納處分ヲ行フ此ノ場合ニ於
テハ縣市ノ取得スベキ金額中督促手数料及滞納處分費ヲ控
除シタル殘額ヲ徵收義務者ニ交付スベシ

第十八條 第四十一條ノ規定ニ依リ徵收義務者ハ其ノ徵收ス
ベキ遺失金及附加金又ハ雜捐ノ納稅者ノ指定シタル期日
迄ニ縣市ニ納付スベシ其ノ期日迄ニ納付セザルトキハ縣市
市長ハ相當ノ期限ヲ指定シタル督促狀ヲ以テ其ノ納付ヲ督促
スベシ

第十九條 縣市ハ前條ノ納付金額ニ對シ遺失金及附加金
ニ付テハ其ノ百分ノ三、雜捐ニ付テハ其ノ百分ノ四ニ相當ス
ル金額ヲ徵收義務者ニ交付スベシ

第二十條 第四十一條ノ規定ニ依リ徵收義務者第四十四條第
一項ノ指定期日內ニ於テ還金ペカラザル英書ニ因リ徵收ノ稅

金ヲ失ヒタルトキハ其ノ納付義務ノ免除ヲ縣市長ニ申請ス
ルコトヲ得

第十七條 地方稅法第十一條ノ規定ハ前條ノ申請ニ付テ之ヲ準
用ス

第十八條 納稅者又ハ徵收義務者左ノ各號ノ一ニ該當ス
ル場合ニ於テ其ノ滞納ニ關スル地方稅又ハ其ノ督促手
續料、延滞金若ハ滞納處分費アルトキハ縣市長ハ滞納處分
執行ニ代ヘ當該機關ニ對シ其ノ金額ノ交付ヲ要求スルコトヲ
得

一 國稅、地方稅其ノ他ノ公課ノ滞納ニ因リ滞納處分ヲ受ケ
ルトキ

二 強制執行ヲ受ケタルトキ

三 債權ノ開始アリタルトキ

四 債權ノ宣告ヲ受ケタルトキ

前項ノ要求ハ地方稅又ハ其ノ督促手数料、延滞金若ハ滞納處
分費ノ金額、年度、納期區分及納期限ヲ記載シタル書面ヲ以
テ之ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テ金額ノ未ダ確定セザル延滞金
アルトキハ其ノ要求ヲ爲ス原因發生ノ當日迄ノ日數ニ依リ之
ヲ算定スベシ

第一項ノ要求ヲ受ケタル當該機關ハ計算書又ハ配當表ノ原本
ト共ニ其ノ配當額ヲ縣市長ニ送付スベシ

第二項ノ要求ヲ受ケタル滞納處分執行機關其ノ滞
納處分ヲ止メントスルトキハ財產管理ノ解除ニ先テ其ノ旨ヲ
交付要求ヲ爲シタル縣市長ニ通知スベシ

第三項ノ要求ヲ受ケタル債權執行機關ハ資產手續
ニ依ラズシテ該財產ヨリ要求額ヲ縣市長ニ交付スベシ

第四項ノ要求ヲ受ケタル債權執行機關ハ該財產ヨリ
還金アル場合ニ於テハ日出ヨリ沒收ノ間營業者ニ付テハ仍其
ノ營業時間內ニ於テ家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ傳傳物件ノ

検査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該職員ハ其ノ身分ヲ證明スベキ書類ヲ
携帶スベシ

第十九條 縣市ハ國務總理大臣及經濟部大臣ノ許可ヲ受ケ
詐偽其ノ他不正ノ行爲ニヨリ地方稅ヲ違取シタル者ニ對シ違
取シタル金額ノ三倍ニ相當スル金額以下(其ノ金額五圓未満
ナルトキハ五圓)ノ過料ヲ科スルコトヲ得

前項ノ過料ニ付テハ地方稅徵收ノ例ニ依ル

第二十條 本令中地稅ニ關スル規定ハ應奉二年度分、房捐、戸別捐及雜捐
ニ關スル規定ハ應奉三年度分ヨリ之ヲ適用ス

本令施行ノ際應奉ニ關スル地方稅ニ付テハ本令施行後督促狀ヲ發シ
タル場合ニ於ケル延滞金ノ徵收ニ付テハ本令施行ノ日ヨリ以テ其
ノ納期限ト看做ス

附 則 廣德三年六月一八日 財政部 第三〇八號 令
財政部 第三〇八號 令
財政部 第三〇八號 令

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際應奉ニ關スル地方稅ニ付テハ本令施行後督促狀ヲ
發シタル場合ニ於ケル延滞金ノ徵收ニ付テハ本令施行ノ日ヨリ以
テ其ノ納期限ト看做ス

附 則 廣德三年二月二六日 財政部 第四〇號 令
財政部 第四〇號 令
財政部 第四〇號 令

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際應奉ニ關スル地方稅ニ付テハ本令施行後督促狀ヲ
發シタル場合ニ於ケル延滞金ノ徵收ニ付テハ本令施行ノ日ヨリ以
テ其ノ納期限ト看做ス

附 則 廣德三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際應奉ニ關スル地方稅ニ付テハ本令施行後督促狀ヲ
發シタル場合ニ於ケル延滞金ノ徵收ニ付テハ本令施行ノ日ヨリ以
テ其ノ納期限ト看做ス

附 則 廣德三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際應奉ニ關スル地方稅ニ付テハ本令施行後督促狀ヲ
發シタル場合ニ於ケル延滞金ノ徵收ニ付テハ本令施行ノ日ヨリ以
テ其ノ納期限ト看做ス

附 則 廣德三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際應奉ニ關スル地方稅ニ付テハ本令施行後督促狀ヲ
發シタル場合ニ於ケル延滞金ノ徵收ニ付テハ本令施行ノ日ヨリ以
テ其ノ納期限ト看做ス

算ノ方法ニ依リ算定シタル中廣德三年十二月三十一日以前ノ期
間ニ關スルモノニ對シ課セラルル法人營業稅額(正稅額)ヲ課
稅標準トスル營業稅附加額ノ賦課徵收ニ付テハ仍從前ノ例ニ依
ル

附 則 (廣德四年八月二四日 院令第一八號)
本令ハ廣德四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (廣德四年二月二八日 院令第三六號)
本令ハ廣德五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (廣德六年一月一日 院令第四七號)
本令ハ廣德六年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (廣德七年四月三〇日 院令第一三六號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〇街制村制施行規則

(廣德四年十二月二十一日 院令第三〇九號)
院令 第三〇九號
院令 第三〇九號

改正 廣德五年一月一日 院令第五二號
院令 第五二號
院令 第五二號

行政法ノ部收載

〇街制村制施行規則

(廣德四年十二月二十一日 院令第三〇九號)
院令 第三〇九號
院令 第三〇九號

改正 廣德五年一月一日 院令第五二號
院令 第五二號
院令 第五二號

行政法ノ部收載

專賣

○阿片法

(大正元年十一月三十日)

改正 康元年三月勅令第一一號、同二年二月第一一五號、四年四月七號、六年二月第三四〇號

○煙草賣法 (康元年十二月二十四日)

改正 康四年六月勅令第一七〇號、一二月勅令第五〇八號

刑罰法ノ部

○阿片法施行規則

(康元年十二月二十八日)

(民生部令第六二號)

阿片法(第四十一條)ニ依リ多量販賣ノ許可ヲ領テ煙草賣法ヲ...

第八條 政府ハ收納シタル煙草ニ對シ相當ノ補償金を交付ス...

○火柴專賣法

(康元年十二月二十四日)

(勅令第一九二號)

第十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發賣スル命令ノ規定ニ依リ納...

第二十五條 本法施行前政府ノ許可ヲ受ケ製造ヲ業ト爲ス...

改正 康元年十二月勅令第五〇六號

許可ヲ取消シ又ハ一定期間其ノ業務ヲ停止ヲ命ズルコトヲ得

第十條 本法又ハ本法ニ基キテ受領シ命ズル命令ニ依リ納付スベキ金額ノ徴収ニ付テハ國稅徵收法ノ規定ヲ適用ス

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二條ノ規定ニ違反シ火柴ノ製造又ハ輸入ヲ爲シタル者

二 第三條ノ規定ニ違反シ政府ノ收納ニ應ゼザル者

前項ノ罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第二條ノ規定ニ違反シ火柴ノ輸出ヲ爲シタル者

二 第五條第二項ノ規定ニ違反シタル者

第十三條 前二條ノ犯罪ニ係ル火柴及犯罪ノ用ニ供シ又ハ供セントシタル物ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハズ之ヲ沒收スルコトヲ得其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價格ヲ追徴ス

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第七條ノ規定ニ基キテ命令ニ違反シタル者

二 第八條ノ規定ニ依リ當該官吏ノ職務ノ執行ヲ阻障シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辭ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ答辭ヲ爲シタル者

第十五條 本法又ハ本法ニ基キテ受領シ命ズル命令ニ定ムル犯罪ニ付テハ租稅犯罰法ノ規定ヲ準用ス

第十六條 本法施行ノ期日ハ財政部大臣之ヲ定ム

第十七條 本法施行ノ際現ニ火柴ノ製造ヲ業トスル者本法施行後一月内ニ政府ニ届出アルトキハ本法ニ依リ製造ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十八條 本法施行ノ際現ニ火柴ノ製造人ノ所有ニ係ル火柴ハ之ヲ本法ニ依リ製造シタルモノト看做ス

第十九條 本法施行ノ際現ニ火柴ノ卸賣ヲ業トスル者ハ本法施行後一月内ニ本法ニ依リ火柴賣場人トシテ火柴ノ販賣ヲ爲スコトヲ得

(廣徳四年十二月二十八日勅令第五〇六號)

本法ハ廣徳五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

石油類專賣法

改正 廣徳四年六月勅令第一四一號、同一年二月勅令第五〇七號

(廣徳元年十一月十四日勅令第一四九號)

既組織法(第四十一條)ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ石油類專賣法ヲ改訂シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 本法ニ於テ石油類ト稱スルハ煤油、燈油、煤油、取油、ベンゾール並ニ代用燃料油ヲ謂フ

前項ノ代用燃料油ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 石油類ハ政府ノ專賣トス

第三條 石油類ノ製造、輸入及輸出ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非ザレバ之ヲ行フコトヲ得ズ

第四條 製造又ハ輸入シタル石油類ハ政府ニ於テ之ヲ收納ス但命令ノ定ムル場合ハ此ノ限リニ在ラズ

第五條 政府ハ收納シタル石油類ニ對シ相當ノ補償金ヲ交付ス

第六條 石油類ノ賣場ハ政府ノ指定シタル石油類賣場人ヲシテ之ヲ行ハシム但シ政府ハ命令ノ定ムル用途ニ供スル場合ニ限り直接需用人ニ賣下グルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依リ石油類ノ賣下ヲ受ケタル者ハ之ヲ當該用途以外ニ供スルコトヲ得ズ

第七條 石油類製造人、石油類賣場人其ノ他石油類ノ取扱ヲ爲ス者ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 政府必要アリト認ムルトキハ石油類賣場人ニ對シ一定ノ數量ヲ指定シ石油類ノ貯蔵ヲ命ズルコトヲ得

第九條 石油類以外ノ礦物性油ノ製造、輸入又ハ輸出ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非ザレバ之ヲ行フコトヲ得ズ

ノ許可ヲ受ケタル者ニ非ザレバ之ヲ行フコトヲ得ズ

第十條 政府必要アリト認ムルトキハ石油類又ハ酒精類ノ製造ノ取扱ヲ爲ス者ニ對シテ特種ノ命令又ハ設備ノ改善其ノ他ノ事項ヲ命ズルコトヲ得

第十一條 政府必要アリト認ムルトキハ石油類又ハ酒精類ノ製造所、貯蔵所、賣場店舖其ノ他ノ場所ニ立入リ石油類、酒精類ノ油類、煤油、燈油、煤油、取油、ベンゾール又ハ煤油ノ調査ヲ爲スコトヲ得

第十二條 第三條若ハ第九條ノ許可ヲ受ケタル者又ハ石油類賣場人ニ指定セラレタル者ニシテ本法ニ基キテ受領シ命ズル命令又ハ之ニ基キテ受領シ命ズル命令ニ違反シタル者ハ政府ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ一定期間其ノ業務ヲ停止ヲ命ズルコトヲ得

第十三條 本法又ハ本法ニ基キテ受領シ命ズル命令ニ依リ納付スベキ金額ノ徴収ニ付テハ國稅徵收法ノ規定ヲ適用ス

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條ノ規定ニ違反シタル者

二 第四條ノ規定ニ違反シ政府ノ收納ニ應ゼザル者

第十五條 第九條ノ規定ニ違反シ特種所定ノ油類ノ製造、輸入又ハ輸出ヲ爲シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 前二條ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第六條第二項ノ規定ニ違反シタル者

二 第八條ニ依リ政府ノ貯蔵命令ニ違反シタル者

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十條ノ命令ニ違反シ又ハ煤油ノ販賣ヲ爲シタル者

二 第十一條ニ依リ當該官吏ノ職務ノ執行ヲ阻害シタル者

第十九條 第十四條乃至第十六條ノ犯罪ニ係ル石油類及犯罪ノ用ニ供シ又ハ供セントシタル物ハ何人ノ所有ニ屬スルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコトヲ得其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價格ヲ追徴ス

第二十條 本法又ハ本法ニ基キテ受領シ命ズル命令ニ定ムル犯罪ニ付テハ租稅犯罰法ノ規定ヲ準用ス

附則

一 本法施行ノ期日ハ經濟部大臣之ヲ定ム

二 本法公布ノ際現ニ石油類又ハ酒精類ノ製造ヲ業トスル者ニシテ本法施行後一月内ニ之ヲ政府ニ届出アルトキハ本法ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

(廣徳四年十二月二十八日勅令第五〇七號)

本法ハ廣徳五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

酒精專賣法

(廣徳四年十二月十三日公布勅令第一四五號)

既組織法第三十六條ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ酒精專賣法ヲ改訂シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 酒精專賣法

第二條 酒精ハ政府ノ專賣トス

第三條 本法ニ於テ酒精トハ酒精分九十以上ノ酒精ヲ云フ

本法ニ於テ酒精分トハ(エチールアルコール)含有量ノ百分率ヲ謂フ

第四條 政府又ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非ザレバ之ヲ製造シ輸入シ又ハ輸出スルコトヲ得ズ

第五條 製造又ハ輸入シタル酒精ハ總テ政府之ヲ收納ス但命令ノ定ムル場合ハ此ノ限リニ在ラズ

第六條 政府ハ收納シタル酒精ニ對シ相當ノ補償金ヲ交付ス

第七條 酒精ノ製造ハ政府ノ指定シタル酒精製造人ヲシテ之ヲ行ハシム但シ政府ハ命令ノ定ムル用途ニ供スル場合ニ限り直接需用人ニ其ノ賣下ヲ爲スコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依リ酒精ノ賣下ヲ受ケタル者ハ之ヲ其ノ用途以外ニ供スルコトヲ得ズ

第八條 酒精ノ製造人、酒精賣場人其ノ他酒精ノ取扱ヲ爲ス者ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 酒精分九十未満ノ酒精ハ新式蒸餾機ニ依リ之ヲ製造スルコトヲ得ズ

第十條 酒精分九十未満ノ酒精ニシテ命令ノ定ムルモノハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ非ザレバ之ヲ輸入スルコトヲ得ズ

交通、通信

- 鐵道營業法……………(廣元、勅令、一一三)……………(六)
- 自動車運轉專用法……………(廣四、勅令、二七)……………(六)
- 河川航運業法……………(大正、勅令、四九)……………(六)
- 航空法……………(廣四、勅令、一〇四)……………(六)
- 郵便法……………(廣三、勅令、一九三)……………(六)
- 郵政儲蓄法……………(廣四、勅令、二四)……………(六)
- 郵政儲蓄法……………(廣四、勅令、二五)……………(六)
- 郵政儲蓄法……………(廣四、勅令、二六)……………(六)
- 電氣通信法……………(廣三、勅令、一五四)……………(六)
- 文官令……………(廣五、勅令、九五)……………(六)
- 文官考試規程……………(廣五、勅令、一一)……………(六)
- 前任文官監督委員會官制……………(廣五、勅令、九六)……………(六)

文官考試委員會官制

- 文官令第百十八條ノ規定ニ依ル現職者ノ特例ニ關スル件……………(廣五、勅令、一三三)……………(六)
- 文官特別考試ニ關スル件……………(廣五、勅令、三〇)……………(六)
- 文官令ニ依ル指定認定等ニ關スル件……………(廣五、勅令、三一)……………(六)
- 考試問題提出ノ範圍限定……………(廣八年三月)……………(六)
- 高等文官考試委員會分科會……………(廣八)……………(六)
- 高等官(行政官)特別適格考試(銓衡)……………(廣八)……………(六)
- 高等官(行政官)適格考試(銓衡)……………(廣八)……………(六)
- 司法科高等官適格考試……………(廣八)……………(六)
- 高等官(行政官)特別登格考試(銓衡)……………(廣八)……………(六)
- 高等官(行政官)登格考試(銓衡)……………(廣八、三)……………(六)
- 文官考試應試樣式……………(廣五、勅令、九七)……………(六)
- 一高等官資格考試應試樣式……………(廣五、勅令、九八)……………(六)
- 二高等官採用考試應試樣式……………(廣五、勅令、九九)……………(六)
- 三委任官採用考試應試樣式……………(廣五、勅令、一〇〇)……………(六)

文官考試問題集

- 文官考試問題集……………(廣五、勅令、一〇一)……………(六)
- 文官考試問題集……………(廣五、勅令、一〇二)……………(六)
- 文官考試問題集……………(廣五、勅令、一〇三)……………(六)
- 文官考試問題集……………(廣五、勅令、一〇四)……………(六)
- 文官考試問題集……………(廣五、勅令、一〇五)……………(六)
- 文官考試問題集……………(廣五、勅令、一〇六)……………(六)
- 文官考試問題集……………(廣五、勅令、一〇七)……………(六)
- 文官考試問題集……………(廣五、勅令、一〇八)……………(六)
- 文官考試問題集……………(廣五、勅令、一〇九)……………(六)
- 文官考試問題集……………(廣五、勅令、一一〇)……………(六)

第八編 諸法

總動員

○國家總動員法

(廣五年二月二十六日) (勅令第一九六號)

改正 廣六年勅令第三三三號
 廣元勅令第三三三號ニ依リ參照府ノ諮詢ヲ經テ國家總動員法ヲ改訂シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 本法ハ戰時又ハ事變ニ際シ國防上國ノ全カヲ最モ有
 效ニ發揮セシムル爲メ人的及物的資源(資金ヲ含ム)ヲ統制運
 用スルヲ以テ目的トス

第二條 本法ニ於テ總動員物資ト稱スルハ左ノ各號ニ掲グル
 モノヲ指ス

- 一 兵器、艦艇、航空機、彈藥其ノ他之ニ類スル軍用物資
- 二 國家總動員ノ爲メ必要ナル被服、食糧及飼料
- 三 國家總動員ノ爲メ必要ナル醫藥品、醫藥器械器具其ノ他ノ衛生用物資及飲食用物資
- 四 國家總動員ノ爲メ必要ナル船舶、車輛、馬匹其ノ他ノ輸送用物資
- 五 國家總動員ノ爲メ必要ナル通信用物資
- 六 國家總動員ノ爲メ必要ナル土木建築用物資及照明用物資
- 七 國家總動員ノ爲メ必要ナル燃料及電力

法

- 八 前各號ニ掲グルモノノ生産、修理、保存又ハ運轉ニ要スル機械器具、裝置、原料及材料
- 九 金又ハ銀ノ地金、合金及金又ハ銀ヲ主タル材料トスルモノ
- 十 前各號ニ掲グルモノヲ除ク外勅令ヲ以テ指定スル物資

第三條 政府ハ戰時又ハ事變ニ際シ國家總動員ノ爲メ必要ナルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ左ノ各號ニ掲グルモノノ全部又ハ一部ヲ管理、使用又ハ收用スルコトヲ得

- 一 總動員物資ノ生産又ハ修理ヲ爲ス工場及事業場並ニ其ノ附屬設備
- 二 前號ニ掲グル工場ニ轉用スルコトヲ得ル工場及其ノ附屬設備
- 三 水陸空輸送設備
- 四 通信設備
- 五 醫藥衛生設備
- 六 給水設備
- 七 試驗研究設備
- 八 總動員物資ノ生産、修理若ハ貯蔵ノ爲メ又ハ前各號ニ掲グルモノノ供用スル爲メ必要ナル土地及家屋、倉庫其ノ他ノ工作物並ニ其ノ附屬設備

政府ハ前項ニ掲グルモノヲ使用又ハ收用スル場合ニ於テ其ノ從價者ヲ供用セシムルコトヲ得

第四條 前條ニ依リ收用セラルモノノ不要ニ歸セラル場合ニ於テ

テ收用セラル時ヨリ五年以内ニ拂下グルトキハ所有權者又ハ其ノ承継人ニ於テ優先シテ之ヲ買受タルコトヲ得

第五條 前二條ノ規定ハ左ノ各號ニ掲グルモノノ使用又ハ收用ニ付テ之ヲ準用ス

- 一 工業所有權
- 二 營業權及租佃權
- 三 水ノ使用ニ關スル權利

第六條 政府ハ戰時又ハ事變ニ際シ國家總動員ノ爲メ必要ナルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第三條第一項各號ニ掲グルモノノ經營者ニ對シ事業ノ一部若ハ全部ノ廢止若ハ休止ヲ制限若ハ禁止シ又ハ總動員物資ノ生産若ハ修理ニ關シ必要ナル勅令若ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第七條 政府ハ戰時又ハ事變ニ際シ國家總動員ノ爲メ必要ナルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第三條第一項各號ニ掲グルモノノ經營者ニ對シ其ノ新設、擴張又ハ改良ニ關シ必要ナル勅令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第八條 政府ハ戰時又ハ事變ニ際シ國家總動員ノ爲メ必要ナルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

第九條 政府ハ國家總動員ノ爲メ必要ナルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生産、販賣、輸入又ハ供用ヲ禁止スル者ヲシテ當該物資又ハ其ノ原料若ハ材料ノ一定數量ヲ保有セシムルコトヲ得

第十條 政府ハ戰時又ハ事變ニ際シ國家總動員ノ爲メ必要ナルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ重要ナル事業ヲ營ム者ニ對シ事業ニ關スル統制規定ノ設定若ハ變更ヲ命ジ又ハ統制規定ニ從フベキコトヲ命ジコトヲ得

第十一條 政府ハ戰時又ハ事變ニ際シ國家總動員ノ爲メ必要ナルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ重要ナル事業又ハ營業ニ關シ其ノ統制ヲ目的トスル組合若ハ會社ノ設立ヲ命ジ又ハ既

諸法 國家總動員法

本ノ會社、組合其ノ他ノ團體ヲシテ其ノ統制ヲ行ハシムル
 前項ノ規定ニ依リ設立シタル組合ハ法人トス
 第十二條 政府ハ職時又ハ事務ニ際シ國家總務員ノ爲ニ必要
 ルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ工事又ハ事務若シテ事務ヲ制
 限又ハ禁止スルコトヲ得
 第十三條 政府ハ職時又ハ事務ニ際シ國家總務員ノ爲ニ必要
 ルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總務員ノ使用、管理、
 懲戒、所持、保管又ハ事務ニ際シ必要ナル命令又ハ處分
 爲スコトヲ得土地ノ使用又ハ讓渡ニ付亦同ジ
 第十四條 政府ハ職時又ハ事務ニ際シ國家總務員ノ爲ニ必要
 ルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ物件、運賃、保管料、保險
 料、賃賃料又ハ之ニ類スル其ノ他ノ費用ニ關シ必要ナル命
 令ヲ爲スコトヲ得
 第十五條 政府ハ職時又ハ事務ニ際シ國家總務員ノ爲ニ必要
 ルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ外國通貨又ハ外國通貨ヲ以
 テ表示スル債權若シテ債務ノ取得又ハ處分及外國居住者
 ノ取得又ハ處分ニ付制限若シテ禁止ヲ爲シ又ハ必要ナル命
 令ヲ爲スコトヲ得
 第十六條 政府ハ職時又ハ事務ニ際シ國家總務員ノ爲ニ必要
 ルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ輸出ノ命令若シテ之ガ制
 限、禁止ヲ爲シ又ハ輸入ノ制限、法令ノ規定ニ拘ラズ
 輸入ノ制限ヲ爲シ又ハ輸出ノ制限、法令ノ規定ニ拘ラズ
 第十七條 政府ハ職時又ハ事務ニ際シ國家總務員ノ爲ニ必要
 ルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ内閣若シテ公報及公報
 外ノ出版物ノ發行又ハ印刷ノ制限、法令ノ規定ニ拘ラズ
 第十八條 政府ハ職時又ハ事務ニ際シ國家總務員ノ爲ニ必要
 ルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ銀行其ノ他ノ金融機關ニ對

シ資金ノ運用者ハ金利ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ會社
 ノ設立、移金ノ締込、資本ノ増加、社債ノ募集、借入金ノ
 借入若シテ利益ノ配當ニ付制限若シテ禁止ヲ爲スコトヲ得
 第十九條 政府ハ職時又ハ事務ニ際シ國家總務員ノ爲ニ必要
 ルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ公債ノ保有若シテ積立金ノ増
 加ニ付必要ナル命令ヲ爲シ又ハ預金ノ引出若シテ有價證券ノ
 賣買ニ付制限若シテ禁止ヲ爲スコトヲ得
 第二十條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ國家總務員上重要
 ナル事務ニ付必要ナル命令又ハ勅令ノ規定ニ拘ラズ社債ノ
 募集ヲ爲シ又ハ土地ノ取得若シテ使用セシムルコトヲ得
 第二十一條 政府ハ職時又ハ事務ニ際シ國家總務員ノ爲ニ必要
 ルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國人民ヲシテ政府ノ指
 定スル事務ニ從事セシムルコトヲ得
 第二十二條 政府ハ職時又ハ事務ニ際シ國家總務員ノ爲ニ必要
 ルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ從業者ノ使用、供用、雇
 入若シテ解雇又ハ勞務ノ對價若シテ條件ニ付必要ナル命令ヲ
 爲スコトヲ得
 第二十三條 政府ハ國家總務員ノ爲ニ必要ナル命令ヲ爲シ
 又ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ學徒若シテ之ニ準ズル施設又ハ工場若シテ事業場
 其ノ他ノ經營者又ハ管理者ニ對シ技術者ノ養成ニ關シ必要
 ナル命令ヲ爲スコトヲ得
 第二十四條 政府ハ國家總務員ノ爲ニ必要ナル命令ヲ爲シ
 又ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ勞務ノ供給ノ目的トスル施設又ハ企業ニ對シ
 必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
 第二十五條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ國家總務員ノ爲ニ必
 要ナル技術者、勞務者其ノ他ノ勞務者ノ登錄ニ付勞務者及
 使用者ニ對シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
 第二十六條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總務員物件ノ生産
 者ハ修理ノ事業ノ事業主又ハ試驗研究機關ノ管理者ニ對シ
 國家總務員上必要ナル試驗研究ノ命令ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ國家總務員上重要
 ナル事務ノ事業主ヲシテ職時又ハ事務ニ際シ國家總務員ノ對
 シ實施セシムベキ義務ニ關シ計畫ヲ制定セシメ又ハ當該
 計畫ニ付必要ナル制限ヲ爲シ又ハ勅令ヲ得
 第二十八條 政府ハ國家總務員ノ爲ニ必要ナル命令ヲ爲シ
 又ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ爲シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所
 ニ應ジシ業務ノ狀況若シテ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシム
 ルコトヲ得
 第二十九條 本法ノ規定ニ基テ收受、使用、管理其ノ他ノ處
 分ニ因リ生ジタル損失ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府又ハ事
 業主之ヲ補償ス
 第三十條 軍需徵收法ニ基テ徵收ハ本法ノ規定ニ基テ收
 用、使用、管理其ノ他ノ處分ニ依リ妨グラルコトナレ
 第三十一條 左ノ各條ノ一ニ該當スル者ハ七年以下ノ徒刑又ハ
 一萬圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 第三條ノ規定ニ依リ管理、使用、收受又ハ供用ヲ拒ミ
 妨グ又ハ忌避シタル者
 二 第五條ノ規定ニ依リ使用又ハ收受ヲ拒ミ妨グ又ハ忌避
 シタル者
 第三十二條 左ノ各條ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ徒刑又
 一萬圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 第十五條ノ規定ニ依リ制限若シテ禁止又ハ命令ニ違反シ
 タル者
 二 第十六條ノ規定ニ依リ命令ニ違反シテ輸出ノ命令ヲ拒
 ミタル者
 三 第十六條ノ規定ニ依リ制限又ハ禁止ニ違反シテ輸出若
 シテ輸入ヲ爲シ又ハ爲ラントシタル者
 前項第三條ノ場合ニ於テ輸出若シテ輸入ヲ爲シ又ハ爲ラント
 シタル物品ニ對シ犯人ノ所有又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收
 ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコトハ勅令ノ定ムル所ニ依

第三十二條 左ノ各條ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ徒刑又
 一萬圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 第六條ノ規定ニ依リ制限又ハ禁止ニ違反シテ禁止又ハ
 禁止ヲ爲シタル者
 二 第六條ノ規定ニ依リ第七條又ハ第十三條ノ規定ニ依リ命令ニ違反
 シタル者
 三 第八條ノ規定ニ依リ使用若シテ收受ヲ拒ミ妨グ又ハ忌避
 シタル者
 第三十三條 第十二條ノ規定ニ依リ制限又ハ禁止ニ違反シタル者
 第三十四條 第十四條ノ規定ニ依リ第二十二條ノ規定ニ依
 リ命令ニ違反シタル者ハ三年以下ノ徒刑又ハ三萬圓以下ノ
 罰金ニ處ス
 第三十五條 第二十四條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ命令ニ
 違反シタル者ハ六月以下ノ徒刑又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處
 ス
 第三十六條 左ノ各條ノ一ニ該當スル者ハ一萬圓以下ノ罰金
 ニ處ス
 一 第九條ノ規定ニ違反シテ保有ヲ爲サザル者
 二 第十條ノ規定ニ違反シテ第一項、第二十三條又ハ第二十六條
 ノ規定ニ依リ命令ニ違反シタル者
 三 第十八條又ハ第十九條ノ規定ニ依リ制限若シテ禁止又ハ
 命令ニ違反シタル者
 第三十七條ノ規定ニ違反シテ計畫ヲ設定セズ又ハ該計畫
 ヲ爲サザル者
 第三十八條ノ二、第二十七條ノ二ノ規定ニ依リ報告ヲ怠リ若シ
 テ報告ノ報告ヲ爲シタル者又ハ當該官吏ノ職務ヲ執行シ阻害シ
 タル者ハ六月以下ノ徒刑、五百圓以下ノ罰金又ハ拘留若シテ科
 刑ニ處ス

第三十六條 公務員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依リ職務
 ノ執行ニ關シ知リ得タル關於資源調査ノ事項ハ七年以下
 ノ徒刑ニ處ス
 第三十七條 第十一條ノ規定ニ依リ命令ニ依リ統制ヲ行フベ
 キ組合、會社其ノ他ノ團體ノ業務ヲ執行スル社員又ハ職員
 其ノ職務ニ關シ附屬若シテ不正ノ利益ヲ收受シ他人ニ供與
 セシメ又ハ之ヲ要求若シテ約束シタル者ハ二年以下ノ徒刑
 又ハ五千元以下ノ罰金ニ處ス
 第三十八條 前條第一項ノ規定ニ依リ附屬若シテ不正ノ利益
 ヲ收受シタル者ハ二年以下ノ徒刑又ハ五百圓以下ノ罰金ニ
 處ス
 第三十九條 使用人其ノ他ノ從業員本人ノ職務ニ關シ本法ノ
 規定ニ關ルル行為ヲ爲シタル者ハ該行為者ヲ罰スルノ外
 本人ヲモ處罰ス但シ本人心神喪失者又ハ當該團體ノ成年者
 ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者タルトキハ其ノ法定代理
 人ヲ處罰ス
 第四十條 法人ノ使用人其ノ他ノ從業員法人ノ業務ニ關シ本
 法ノ規定ニ關ルル行為ヲ爲シタル者ハ該行為者ヲ罰スル
 外業務ヲ執行スル社員又ハ職員ヲモ處罰ス
 法人ノ業務ヲ執行スル社員又ハ職員前項ノ行為ヲ爲シタル
 トキハ其ノ社員又ハ職員ヲ處罰ス
 第四十一條 第三十九條又ハ前條第一項ノ場合ニ於テ處罰ヲ
 受タベキ本人、法定代理人、社員又ハ職員當該違反行為ヲ
 防止スルノ途ヲカリシコトヲ證明シタルトキハ之ヲ罰セズ
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 廣徳五年五月勅令第一〇〇號ヲ以テ同五年五月十一日ヨリ施行

○資源調査法

(廣徳四年十月十四日勅令第二九四號)

資源調査法(第三十六條)ニ依リ參照府ノ諮詢ヲ經テ資源調査法
 ヲ制定シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 政府ハ人的及物的資源ノ調査ノ爲ニ必要ナル命令ヲ
 又ハ法人ニ對シ定期又ハ臨時ニ之ニ關スル報告又ハ實地
 申告ヲ命ズルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ定期ニ行フ資源調査ノ範圍、方法其ノ他
 必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 第二條 當該官吏又ハ吏員ハ人的及物的資源ノ統制運用計畫
 ノ制定及進行ニ必要ナル資源調査ノ爲ニ必要ナル場所ニ立入
 リ檢査ヲ爲シ調査資料ノ提供ヲ求メ又ハ關係者ニ對シ質問
 ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ當該官吏又ハ吏員ハ其ノ身分ヲ離スル事
 ヲ得ズ
 第三條 産産的發明ニ係リ其ノ他特殊ナル職務上ノ秘密ニ關
 スル事項又ハ設備ニシテ該政府ノ承認ヲ得タルモノニ付
 テハ第一條ノ報告若シテ實地申告ヲ命ジ又ハ前條ノ規定ニ依
 リ檢査ヲ爲シ、調査資料ノ提供ヲ求メ若シテ關係者ニ對シ質
 問ヲ爲スコトヲ得ズ
 第四條 當該官吏若シテ吏員又ハ其ノ職ニ在リタル者ハ本法ニ
 依リ職務ヲ執行シ知得シタル個人又ハ法人ノ職務上ノ秘
 密ヲ洩洩スルコトヲ得ズ
 職務上ノ事項ノ秘密ヲ知得シタル他ノ公務員又ハ公務員タリ
 者ニ付亦同ジ
 第五條 第一條ノ規定ニ依リ報告又ハ實地申告ヲ命ゼラレタ
 ル者當該團體ノ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者若
 シテ該團體者タル場合又ハ法人タル場合ハ其ノ法定代理人

附法 資源調査法

又ハ法人ノ職務ヲ執行シ若ハ之ヲ代表スル社員若ハ職員ニ於テ報告又ハ實地申告ヲ爲スノ義務ヲ有ス
第六條 本法ハ帝國内ニ在ル攻守同盟國軍ガ軍事上必要ナル資源ノ調査ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス
第七條 本法ノ規定ニ依リ命ゼラレタル報告若ハ實地申告ヲ爲サズ又ハ虚偽ノ報告若ハ實地申告ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
第八條 本法ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員ノ職務執行ヲ阻障シ、調査資料ノ提供ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ調査資料ヲ提供シ又ハ質問ニ對シ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
附則
本法ハ廣徳四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

經濟

重要産業統制法

廣徳四年五月一日
勅令第六六號
第一章 重要産業ノ管轄トシテ之ヲ公布セシム
第一條 重要産業ヲ管轄トスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主管部大臣ノ許可ヲ受ケルベシ
重要産業ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第二條 重要産業ヲ管轄スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業年度毎ニ事業計畫書及事業報告書ヲ主管部大臣ニ提出スベシ
第三條 主管部大臣ハ重要産業ヲ管轄スル者ニ對シ其ノ業務ニ關シ公益上又ハ統制上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
第四條 主管部大臣ハ重要産業ヲ管轄スル者ニ對シ其ノ業務ニ關シ其ノ業務ノ進捗若ハ財政ノ状況ヲ報告セシメ又ハ所屬ノ官吏ヲシテ其ノ業務進捗其ノ他關於ノ文書物件ヲ検査セシムルコトヲ得
第五條 重要産業ヲ管轄スル者左ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ主管部大臣ノ許可ヲ受ケルベシ
一 統制規定ヲ爲シ又ハ之ヲ改定セントスルトキ
二 生産設備ヲ擴張又ハ變更セントスルトキ
三 事業ノ全部又ハ一部ヲ譲渡セントスルトキ
四 法人ナル場合ニ於テ合併ヲ爲サントスルトキ
第六條 重要産業ヲ管轄スル者左ノ場合ニ於テハ重要産業ヲ管轄スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主管部大臣ノ許可ヲ受ケルベシ
一 事業ノ全部又ハ一部ヲ譲渡又ハ停止セシメタルトキ
二 法人ナル場合ニ於テ解散ヲ爲シタルトキ
附法 重要産業統制法

附法 重要産業統制法

廣徳四年五月一日
勅令第六六號

第七條 重要産業ヲ管轄スル者若ハ本法ニ基キテ設立スル命令又ハ之ニ基キテ設立スル命令ニ違反シタルトキハ主管部大臣ハ第一條ノ許可ヲ取消スコトヲ得
第八條 主管部大臣ノ許可ヲ受ケズシテ重要産業ヲ管轄スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス
第九條 重要産業ヲ管轄スル者左ノ各款ノ一ニ該當スルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第三條ノ規定ニ依リ主管部大臣ノ命令ニ違反シタルトキ
二 第五條ノ規定ニ違反シタルトキ
第十條 第四條ノ規定ニ依リ命ゼラレタル報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ同條ノ検査ヲ拒ミ、妨グ若ハ隠蔽シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
第十一條 第二條又ハ第六條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
第十二條 使用人其ノ他ノ従業員本人ノ職務ニ關シ本法ノ規定ニ關ルル行為ヲ爲シタルトキハ該行為者ヲ罰スルノ外本人ヲモ處罰ス但シ本人心神喪失者又ハ普通ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス
第十三條 法人ノ使用人其ノ他ノ従業員法人ノ職務ニ關シ本法ノ規定ニ關ルル行為ヲ爲シタルトキハ該行為者ヲ罰スルノ外法人ノ職務ヲ執行スル社員又ハ職員ヲモ處罰ス
法人ノ職務ヲ執行スル社員又ハ職員前項ノ行為ヲ爲シタルトキハ其ノ社員又ハ職員ヲ處罰ス
第十四條 第十二條及前條第一項ノ場合ニ於テ處罰ヲ受タベキ本人、法定代理人、社員又ハ職員當該違反行為ヲ防止スル途チカテシロトテ聲明シタルトキハ之ヲ罰セズ

附則

本法ハ廣徳四年五月十日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行ノ際既ニ主管部大臣ノ許可ヲ受ケ置キ營業スル者ハ本法ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス
本法施行ノ際主管部大臣ノ許可ヲ受ケ置キ營業スル者ハ本法施行ノ日ヨリ六十日以内ニ本法ニ依リ許可ヲ申請スルベシ
前項ノ申請ヲ爲シタル者ハ其ノ許可ヲ受ケタル迄ノ間仍舊前項ノ營業スルコトヲ得

○重要産業統制法施行ニ關スル件

(庚辰四年五月一日)

改正 庚辰四年六月勅令第一四三號庚辰六年二月第三五四號 六年一月第二五二號 一月第三〇五號

陸軍省府ノ諮詢ヲ經テ重要産業統制法施行ニ關スル件ヲ認可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(國務總理、實業部、農政部、軍政部、財政部大臣)

第一條 重要産業統制法第一條第二項ノ規定ニ依ル重要産業ハ左ノ通トス

兵船製造業

航空機製造業

第二條 重要産業統制法中主管部大臣ト稱スルハ兵器製造業及航空機製造業ニ付テハ(實業部)大臣(農政部)大臣ニ在リテハ(農政部大臣)及(治安部)大臣、液體燃料製造業及機寸製造業ニ付テハ(實業部)大臣(農政部)大臣ニ在リテハ(農政部大臣)及(治安部)大臣トシ其他ノ重要産業ニ付テハ(實業部)大臣(農政部)大臣ニ在リテハ(農政部大臣)トス

第三條 (實業部)大臣(農政部)大臣ニ在リテハ(農政部大臣)兵船製造業ニ付テハ重要産業統制法第四條ノ規定ニ依リ報告ヲ做シ又ハ検査ヲ爲サシメントストキハ(治安部)大臣(協同ス)

第四條 主管部大臣必要ト認ムルトキハ植物油製造業ニ關スル其ノ權限ノ全部又ハ一部ヲ省長又ハ新京特別市長ニ委任スルコトヲ得

附 則

本令ハ重要産業統制法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(庚辰四年五月十日)

附 則 (庚辰七年十月十五日勅令第二五二號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令第一條ノ規定ニ依リ新ニ重要産業トシテ指定セラレタル重要産業ヲ本令施行ノ際現ニ營業中者ハ本令施行ノ日ヨリ六十日以内ニ重要産業統制法第一條第一項ノ許可ノ申請ヲ爲スベシ

前項ノ申請ヲ爲シタル者ハ其ノ許可ヲ受タル迄ノ間仍舊前通營業スルコトヲ得

附 則 (庚辰七年十一月十八日勅令第三〇五號) 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○重要産業統制法施行規則

(庚辰四年五月一日)

改正 庚辰四年七月治令第三號 六年九月勅令第二七號

茲ニ重要産業統制法施行規則ヲ左ノ通制定ス

第一條 重要産業統制法第一條ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 氏名又ハ名稱及營業所ノ位置

二 工場ノ位置

三 重要産業ノ種類

四 主要生産設備、生産能力及生産方法

五 所製資金及資金調達ノ方法

六 一箇年ノ生産、販賣及使用原料ノ見込高(種類別數量及價額)

七 原材料ノ取得方法

八 事業年度及收支概算

前項ノ申請書ニハ申請者法人ノ發起人ナル場合ニ在リテハ定款ヲ法人ナル場合ニ在リテハ定款、貸借對照表及財産目録ヲ添附スベシ

第二條 重要産業ヲ營業中者前條第一項第一號、第二號又ハ第七號ノ事項ヲ變更セントストキハ主管部大臣ノ許可ヲ受テベシ

第五條 重要産業統制法第一條ノ許可ヲ受ケタル者左ノ場合ニ在リテハ(治安部)大臣(協同ス)

一 生産設備ヲ完了シタルトキ

二 生産ニ着手シタルトキ

三 氏名若ハ名稱又ハ營業所ヲ變更シタルトキ

四 發起人法人ヲ設立シタルトキ

第五條 重要産業統制法第二條ノ事業計畫書ニハ左ノ事項ヲ記載シ毎事業年度開始前ニ提出スベシ

一 生産、販賣、購買、調査及研究其ノ他ノ施設ニ關スル計畫

二 法人ナル場合ニ在リテハ重要ナル資金計畫

三 生産高、販賣高、原材料ノ購買高及使用高(種類別數量及價額)

第六條 統制指定アル場合ハ事業計畫書ト統制指定トノ關係

第七條 重要産業統制法第二條ノ事業報告書ニハ前條第一號乃至第三號ノ事業計畫書ノ經過ヲ記載シ重要産業ヲ營業中者法人ナル場合ニ在リテハ貸借對照表及財産目録ヲ添附シ毎事業年度開始後三箇月ノ内ニ提出スベシ

第八條 重要産業統制法第五條第一號ニ依リ許可ヲ受テベシ統制指定左ノ如シ

一 生産ニ關スル統制

二 販賣ニ關スル統制

三 購買ニ關スル統制

第九條 重要産業統制法第五條第一號ノ許可申請書ニハ重要産業ノ種類、指定事項及統制ノ種類ヲ記載シ統制指定ノ爲メ添附スベシ

諸法 重要産業統制法施行規則

第八條 重要産業統制法第五條第二號ノ許可申請書ニハ(協同ス)ハ變更セントストル生産設備及(協同ス)ハ變更ニ於ケル生産能力ヲ記載スベシ

第九條 重要産業統制法第五條第三號ノ許可申請書ニハ(協同ス)ントスル事業、其ノ生産設備及生産能力ヲ記載シ營業中者(協同ス)ノ上ニ提出スベシ

第十條 前項ノ申請書ニハ(協同ス)ノ寫及(協同ス)法人ナル場合ニ在リテハ定款、貸借對照表及財産目録ヲ添附スベシ

第十一條 重要産業統制法第六條第一號ノ提出書ニハ(協同ス)ハ停止シタル事業、其ノ生産設備及生産能力ヲ記載シ(協同ス)ハ停止ノ場合ニ在リテハ(協同ス)ハ停止ノ理由ヲ記載シ(協同ス)ハ停止ノ理由ヲ提出スベシ

第十二條 重要産業ヲ營業中者ノ相續人(協同ス)ノ事業ヲ承継セントストキハ(協同ス)ノ日ヨリ三箇月内ニ相續人タルコトヲ證明スル書面ヲ添(協同ス)統制法第一條ノ許可ヲ申請スベシ

第十三條 相續人(協同ス)ナル場合ハ其ノ内ノ一人ニ於テ申請スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ他ノ相續人ノ之ニ關スル同意書ヲ添附スベシ

第十四條 前項ノ申請ニハ第一條第一項各號ノ記載事項ヲ省略スルコトヲ得

第十五條 相續人(協同ス)ノ申請ヲ爲シタルトキハ(協同ス)決定アル迄ハ(協同ス)ノ事業ヲ營業中トシ得

第十六條 第十三條 左ノ重要産業ニ在リテハ主管部大臣ニ提出スベシ書面ハ重要産業統制法第五條第一號ノ申請書ヲ除キ主タル營業所所在地ノ省長又ハ特別市長ヲ經由スベシ

一 毛織物製造業

二 絹織物製造業

三 棉織物製造業

四 麻織物製造業

五 紙製造業

六 製糖業

七 麥酒製造業

八 製糖業

九 烟草製造業

十 パルプ製造業

十一 油 房 業

十二 製粉業

本令ハ重要産業統制法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(庚辰四年五月十日)

重要産業統制法附則第二項ニ該當スル者ハ本令施行ノ日ヨリ六十日以内ニ第四條ノ事業計畫書ヲ提出スベシ

重要産業統制法附則第三項ニヨリ許可ヲ申請セントストル者ハ許可申請書ニ第四條ノ事業計畫書ヲ添附スベシ

第八條 政府ハ第一條ノ規定ニ基キテ設立スル命令ヲ以テ指定スル取引又ハ行爲ノ許可ニ關スル事務ヲ滿洲中央銀行ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

本法ハ廣徳二年十二月十日ヨリ之ヲ施行ス
金融出禁止法ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前同法ノ罰則ヲ適用スベカリシ行爲ニ付テハ仍同法ニ依ル

○物價及物資統制法

(昭和七年六月二十日)
勅令第一六五號

陸軍部第三十六條ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ物價及物資統制法ヲ訂可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(國務總理、治安部、民生部、
勅令第一六五號、經濟部大臣閣下)

第一條 本法ハ物品ノ價格ノ適正及供給ノ調整ヲ圖リ國家經濟ノ健全ナル運行ヲ確保スルヲ以テ目的トス
第二條 主管部大臣ハ適用ヲ受タベキ地域ヲ指定シ物品ノ販賣價格、買手手数料、轉賣差益金、製造、加工若ハ修理ノ費用料金又ハ賃料料金を公定スルコトヲ得
主管部大臣ノ指定スル者又ハ團體ニ於テ自己又ハ團體員ノ取扱ニ係ル物品ニ付テハ販賣價格、買手手数料、轉賣差益金製造、加工若ハ修理ノ費用料金又ハ賃料料金を適用ヲ受タベキ地域ヲ指定シ主管部大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ價格料金又ハ差益金ハ前項ノ規定ニ依リ當該地域ニ付公定セラレタルモノト爲ス
第三條 何人ト雖モ前條ノ規定ニ依リ公定セラレタル價格、料金又ハ差益金を超過シテ之ヲ契約シ、支拂ヒ又ハ個受スルコトヲ得ズ但シ其ノ支拂者又ハ受領者ニ於テ主管部大臣ノ許可ヲ受ケタルモノ及公定ノ期限ニ存スル契約ニ基キ價格、料金又ハ差益金をシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
一 公定ノ購買主其ノ他ノ支拂者ガ既に引渡ヲ受ケタル物品

ノ購買價格、買手手数料又ハ轉賣差益金
二 公定ノ購生者ガ既に生産ニ着手シタル生產品ノ販賣價格
三 公定ノ購買員ガ既に仕事ニ着手シタル物品ノ製造、加工又ハ修理ノ費用料金
四 公定ノ期限ニ經過シタル期間ニ對スル物品ノ買手料金
前項ノ規定ハ契約ノ當事者ニシテ權利ヲ目的トシテ當該契約ヲ結スニ非ザルモノニハ之ヲ適用セズ但シ當該契約ヲ結スコトガ自己ノ業務ニ關スル者又ハ自己ノ業務ノ爲メ特別ノ便宜ヲ得ルコトヲ目的トシテ當該契約ヲ結ス者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
第四條 第二條ノ規定ニ依リ價格、料金又ハ差益金を公定セラレタル物品ニ付テハ其ノ契約ニ關スル支拂條件、引渡條件其ノ他ノ條件ニシテ公定後支拂者ノ不利益ニ關シテラレタルモノハ其ノ限度ニ於テ之ヲ價格、料金又ハ差益金ノ引上ト爲ス
第五條 主管部大臣ハ適用ヲ受タベキ地域及販賣人ヲ指定シ物品ノ販賣價格ヲ公定スルコトヲ得
主管部大臣ノ指定スル者又ハ團體ニ於テ自己又ハ團體員ノ取扱ニ係ル物品ノ販賣價格及適用ヲ受タベキ地域ヲ指定シ主管部大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ販賣價格ハ前項ノ規定ニ依リ當該地域ニ付公定セラレタルモノト爲ス
第六條 第一項ノ規定ニ依リ指定セラレタル販賣人又ハ前項ノ主管部大臣ノ指定スル者ハ團體ノ團體員ハ前二項ノ規定ニ依リ公定セラレタル販賣價格ニ非ザル價格ヲ以テ契約シ又ハ支拂ヲコトヲ得ズ但シ主管部大臣ノ認可ヲ受ケタル契約及公定ノ販

既に引渡ヲ受ケタル物品ノ販賣價格ノ支拂ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第一項ノ規定ニ依リ指定セラレタル販賣人又ハ第二項ノ主管部大臣ノ指定スル者若ハ團體ノ團體員ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ販賣價格ノ公定セラレタル物品ニ付テハ其ノ契約ニ關スル支拂條件、引渡條件其ノ他ノ條件ヲ公定後變更スルコトヲ得ズ

第六條 何時ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ第三條又ハ前條第三項ノ規定ニ依リ禁止スル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ
第七條 主管部大臣必要アリト認ムルトキハ其ノ定ムル所ニ依リ物品ノ販賣價格、買手手数料、轉賣差益金、製造、加工若ハ修理ノ費用料金又ハ賃料料金を表示ヲ命ズルコトヲ得
第五條ノ規定ニ依リ公定セラレタル物品ノ販賣價格ニ付テハ前條第八條ノ規定ニ依リ指定シ當該物品ノ販賣價格トスル者又ハ其ノ組織スル團體ニ對シ其ノ統制ヲ目的トスル組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ組合ヲ設立ヲ命ゼラレタルモノ其ノ設立ヲ爲サザルトキハ主管部大臣ハ規約ノ作成其ノ他組合ノ設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ組合ハ規約ノ作成アリタルトキニ成立シタルモノト爲ス
主管部大臣ハ前二項ノ規定ニ依リ組合成立シタルトキハ當該組合ノ組合員タル資格ヲ有スルモノヲ其ノ組合員ト爲スコトヲ得

第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ成立シタル組合ニ關シ必要ナル

ル事項ハ主管部大臣ノ指定

第九條 主管部大臣ハ物品ノ價格ノ適正又ハ供給ノ調整ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ地域ヲ指定シ當該物品ノ販賣價格トスル者又ハ其ノ組織スル團體ニ對シ當該物品ニ關スル統制規定ノ制定、變更若ハ廢止ニ付認可ヲ受ケシメ、統制規定ノ制定、變更若ハ取消ヲ命ジ又ハ統制規定ノ加勁若ハ之ニ加緊セザル者ニ對シ其ノ統制規定ニ從フベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十條 主管部大臣ハ物品ノ買手又ハ配給ノ調整ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ其ノ定ムル所ニ依リ勅令ヲ以テ指定スル物品ノ買手又ハ配給ニ關スル營業者、相手方、數量、條件其ノ他ノ事項ヲ制限スルコトヲ得
主管部大臣ハ前項以外ノ物品ト雖モ第二條又ハ第五條ノ規定ニ依リ價格、料金若ハ差益金又ハ販賣價格ノ公定セラレタル物品ニ付テハ其ノ定ムル所ニ依リ契約ニ關スル支拂條件、引渡條件其ノ他ノ制限ヲ爲スコトヲ得

第十一條 主管部大臣ハ物品ノ供給ノ調整ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ勅令ヲ以テ指定スル物品ノ所有シ又ハ所持スル者ニ對シ物品ノ移動又ハ販賣ニ付命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得
主管部大臣ハ前項以外ノ物品ト雖モ不當ノ利益ヲ得ル目的ヲ以テ買占又ハ買替ヲ爲シタル者ニ對シテハ當該物品ノ販賣ヲ命ズルコトヲ得

第十二條 主管部大臣ハ物品ノ供給ノ調整ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ其ノ定ムル所ニ依リ勅令ヲ以テ指定スル物品ノ

製造、加工、使用、消費若ハ運搬ヲ制限若ハ禁止シ又ハ物品ノ規格ヲ制限スルコトヲ得

第十三條 主管部大臣ハ物品ノ供給ノ調整ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ勅令ヲ以テ指定スル物品ニ付生産者及製造者ノ他生業確保ノ爲必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十四條 主管部大臣ハ本法ニ依リ權限ノ全部又ハ一部ヲ其ノ定ムル所ニ依リ省長、新京特別市長又ハ警察總監ニ委任スルコトヲ得
省長ハ前項ノ規定ニ依リ權限ノ全部又ハ一部ヲ省令ノ定ムル所ニ依リ市長、警察總監、縣長又ハ市長ニ委任スルコトヲ得

第十五條 當該行政官署(警察總監ヲ含ム)必要アリト認ムルトキハ物品ノ生産者、販賣業者、所有者、所持者其ノ他ノ者ヲシテ其ノ業務若ハ物品ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ所屬官吏ヲシテ其ノ住居、營業所、店舗、倉庫、工場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ金庫、帳簿其ノ他ノ文書物件ヲ検査セシメ若ハ關係人ノ詢問ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ官吏其ノ職務ヲ執行スル場合ニ於テハ自己ノ身分ヲ表示證明ヲ義務シ處分ヲ受ケタル者ノ要求アルトキハ之ヲ指示スベシ
第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ徒刑又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第三條、第五條第三項若ハ第四項又ハ第六條ノ規定ニ違反シタル者
二 第十條乃至第十三條ノ規定ニ基キ命令又ハ處分ニ違反シ

○鐵鋼類統制法

(昭和五年四月一日 勅令第五五號)

第一條 第一項ノ罪ヲ犯シ因テ得タル利益ハ之ヲ没收スルコトヲ得其ノ全部又ハ一部ヲ没收スルコトハザルトキハ其ノ價額ヲ没收スルコトヲ得

第二條 第八條第一項又ハ第九條ノ規定ニ基テ違反シタル者ハ一年以下ノ懲罰、千圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六月以下ノ懲罰、五百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

一 第七條ノ規定ニ基テ命令ニ違反シタル者

二 第十五條ノ規定ニ依リ報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シ、所屬官吏ノ職權若ハ検査ヲ阻障シ又ハ所屬官吏ノ職權ニ對シテ妨害ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

第十九條 前二條ノ規定ノ適用ニ付テハ前條五年勅令第二百二十五號行政裁量ノ罰則適用ニ關スル件ニ依ル

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍部第三十六條ニ依リ陸軍府ノ統制ヲ經テ鐵鋼類統制法ヲ設クシ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 本法ニ於テ鐵鋼類ト稱スルハ鉄條、鋼塊、ブルーム、ピレット、スラブ、シート、パイプ、ステンレス、鋼材、鋼網、形鋼、鋼板、鋼管、鋼線、ワイヤ、シユアプレート、ホイルト、ナット、ワッシャー、リウエツト、スパイク、鋼索、釘、鐵力板、鋼線品及鋼線ヲ謂フ

第二條 陸軍部大臣ノ指定スル品種ノ鐵鋼類ヲ生産者ヨリ買受ケ若ハ其ノ販賣ノ委託ヲ受ケ又ハ鐵鋼類ヲ輸出シ若ハ輸入スルハ陸軍部大臣ノ指定スル者ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第三條 陸軍部大臣ノ指定スル品種ノ鐵鋼類ヲ生産者ヨリ買受ケ若ハ其ノ販賣ノ委託ヲ受ケ又ハ鐵鋼類ヲ輸出シ若ハ輸入スルコトヲ得

第四條 陸軍部大臣ノ規定ニ依リ輸出又ハ輸入ノ許可ヲ爲サントスルトキハ陸軍部大臣ト協議スベシ

第五條 鐵鋼類ノ生産者ハ陸軍部大臣ノ指定スル品種ニ付テハ其ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ前條第一項ノ規定スル者以外ノ者ニ之ヲ賣渡シ又ハ其ノ販賣ヲ委託スルコトヲ得ズ

第六條 鐵鋼類ノ生産者ハ毎年其ノ生産スベキ鐵鋼類ノ品種及數量ヲ定メ陸軍部大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ賣渡スルコトヲ得

陸軍部大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ賣渡スルコトヲ得

第七條 陸軍部大臣ノ指定スル品種ノ鐵鋼類ヲ生産者ヨリ買受ケタル者ハ其ノ販賣ノ委託ヲ受ケタル者ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第八條 陸軍部大臣ノ規定ニ依リ輸出又ハ輸入ノ許可ヲ爲サントスルトキハ陸軍部大臣ト協議スベシ

第九條 鐵鋼類ノ生産者及第二條第一項ノ規定スル者ハ陸軍部大臣ノ指定スル品種ノ鐵鋼類ノ販賣價格及販賣條件ニ付陸軍部大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ賣渡スルコトヲ得

第十條 陸軍部大臣ノ規定ニ依リ輸出又ハ輸入ノ許可ヲ爲サントスルトキハ陸軍部大臣ト協議スベシ

第十一條 陸軍部大臣ノ指定スル品種ノ鐵鋼類ヲ生産者ヨリ買受ケタル者ハ其ノ販賣ノ委託ヲ受ケタル者ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第十二條 陸軍部大臣ノ規定ニ依リ輸出又ハ輸入ノ許可ヲ爲サントスルトキハ陸軍部大臣ト協議スベシ

第十三條 陸軍部大臣ノ指定スル品種ノ鐵鋼類ヲ生産者ヨリ買受ケタル者ハ其ノ販賣ノ委託ヲ受ケタル者ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第十四條 陸軍部大臣ノ規定ニ依リ輸出又ハ輸入ノ許可ヲ爲サントスルトキハ陸軍部大臣ト協議スベシ

第十五條 陸軍部大臣ノ指定スル品種ノ鐵鋼類ヲ生産者ヨリ買受ケタル者ハ其ノ販賣ノ委託ヲ受ケタル者ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

○棉花統制法

(昭和四年十月七日 勅令第二九二號)

前項ノ場合ニ於テ犯人ノ所有シ又ハ所持スル鐵鋼類ハ之ヲ没收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ没收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ没收スルコトヲ得

第九條 第四條第一項、第五條第一項若ハ第六條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ第四條第二項、第五條第二項若ハ第六條第二項ノ規定ニ依リ命令ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第七條ノ規定ニ依リ命令セラレタル報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ該報告ノ職權検査ヲ阻障シ又ハ該報告ニ對シテ妨害ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十一條 使用人其ノ他ノ從業員本人ノ業務ニ關シ本法ノ罰則ニ關ルル行為ヲ爲シタルトキハ該行為者ヲ罰スルノ外本人ヲモ處罰ス但シ本人心神喪失者又ハ營業ニ關シ成年者ト同一能力ヲ有セザル未成年者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス

第十二條 法人ノ使用人其ノ他ノ從業員法人ノ業務ニ關シ本法ノ罰則ニ關ルル行為ヲ爲シタルトキハ該行為者ヲ罰スルノ外業務ヲ執行スル社員又ハ職員ヲモ處罰ス

第十三條 法人ノ業務ヲ執行スル社員又ハ職員前項ノ行為ヲ爲シタルトキハ其ノ社員又ハ職員ヲ處罰ス

第十四條 第十一條及前條第一項ノ場合ニ於テ懲罰ヲ受タベキ本人、法定代理人、社員又ハ職員當該違反行為ヲ防止スル途ナカリシコトヲ證明シタルトキハ之ヲ罰セズ

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍部第三十六條ニ依リ陸軍府ノ統制ヲ經テ棉花統制法ヲ設クシ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 本法ハ棉花ノ改良増殖ヲ促進シ其ノ生産及配給ヲ統制シ棉花經營ノ健全トシテ以テ目的トス

第二條 陸軍部大臣ノ指定スル地域(以下指定地域ト稱ス)ニ於テハ陸軍部大臣ノ指定スル者ニ非ザレバ棉花ノ買入ヲ爲スコトヲ得ズ

第三條 何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ前項ノ規定ニ依リ禁止スルル行為ヲ爲スコトヲ得ズ

第四條 第一項ノ指定ヲ受ケタル者ハ買入價格、時期及場所ニ付陸軍部大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ買入ヲ受タベシ

第五條 指定地域ニ於テハ前條第一項ノ指定ヲ受ケタル者ニ非ザレバ棉花ノ買入ヲ爲スコトヲ得ズ但シ陸軍部大臣ノ別ニ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 第二條第一項ノ指定ヲ受ケタル者ハ陸軍部大臣ノ定ムル所ニ依リ棉花ノ買入ノ保存及配付ヲ爲スベシ

第七條 指定地域ニ於テ棉花ノ栽培スル者ハ第二條第一項ノ指定ヲ受ケタル者ヨリ配付ヲ受ケタル者ニ非ザレバ棉花ノ買入ヲ爲スコトヲ得ズ但シ陸軍部大臣ノ別ニ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

陸軍部大臣ノ指定スル品種ノ棉花ノ買入又ハ輸出ノ制限ヲ爲スコトヲ得

第八條 陸軍部大臣及陸軍部大臣必要アリト認ムルトキハ其ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ定メ棉花ノ輸入又ハ輸出ノ制限ヲ爲スコトヲ得

第九條 陸軍部大臣ノ指定地域ニ於テハ第二條第一項ノ指定ヲ受ケタル者ニ非ザレバ棉花ノ買入、打掃又ハ種子ノ製造若ハ船舶輸送ヲ委託シ又ハ之ヲ地域外ニ搬出スルコトヲ得ズ但シ陸軍部大臣ノ別ニ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ懲罰又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二條第一項若ハ第二項、第五條ノ三又ハ前條ノ規定ニ違反シタル者

二 第六條ノ規定ニ依リ制限ニ違反シテ棉花ノ輸入若ハ輸出ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者

前項ノ徒刑及罰金ハ情狀ニ因リ之ヲ併科スルコトヲ得

第十一條 第三條ノ規定ニ違反シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 前二條ノ場合ニ於テ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノ及犯罪ニ因リ得タル利益ハ之ヲ没收スルコトヲ得其ノ全部又ハ一部ヲ

諸法 原棉製成品統制法

没收スルコト能ハザルトキハ其ノ價格ヲ擔當スルコトヲ得
第十條 前三條ノ規定ノ適用ニ付テハ廣徳五年勅令第二百二十
五號行政法規ノ規則適用ニ關スル件ニ依ル

本法ハ廣徳四年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス
附 則 (廣徳七年九月三十日勅令第三三九號)
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○原棉製成品統制法

(廣徳六年三月二十五日)
勅令 第五六號

朕組織法第三十六條ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ原棉製成品統制
法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(國務總理、產業部、經濟部大臣)

第一條 本法ハ原棉及製成品ノ運給ヲ調節シテ價格ヲ適正ナ
ラシムルト共ニ綿業ノ健全ナル發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
第二條 原棉(打掃用棉花ヲ除ク以下同ジ)ヲ輸出シ又ハ輸入セ
ントスル者ハ産業部大臣ノ許可ヲ受ケベシ但シ關東州(輸出
シ又ハ關東州ヨリ輸入セントスルトキハ此ノ限ニ在ラズ)
第三條 産業部大臣ノ指定スル者ニ非ザレバ棉花統制法第二條
第一項ノ指定ヲ受ケタル者(以下棉花販賣業者ト稱ス)又ハ原
棉ヲ輸入シタル者ヨリ原棉ヲ買受ケタルコトヲ得ズ但シ産業部
大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
第四條 前條ノ指定ヲ受ケタル者ハ重要産業統制法第一條第一
項ノ許可ヲ受ケタル綿紡績業者(以下綿紡績業者ト稱
ス)以外ノ者ニ原棉ヲ販賣スルコトヲ得ズ但シ産業部大臣ノ
許可ヲ受ケタル者ニ販賣スルトキハ此ノ限ニ在ラズ
第五條 第三條ノ指定ヲ受ケタル者ハ非ラザレバ棉花製成品ヲ輸
出シ若ハ輸入シ又ハ棉花製成品業者若ハ産業部大臣ノ指定スル
綿織物、綿メリヤス製造業者(以下指定製造業者ト稱ス)ヨリ
棉花製成品ヲ買受ケタルコトヲ得ズ但シ産業部大臣ノ許可ヲ受ケタ
ルトキハ此ノ限ニ在ラズ

○家畜調査法

(廣徳六年十一月十六日)
勅令 第二九五號

朕組織法第三十六條ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ家畜調査法ヲ裁
可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(國務總理、產業部、治安部、經濟部大臣)

第一條 本法ニ於テ家畜ト稱スルハ馬、牛、馬、鹿及山羊ヲ
指ス
第二條 主管部大臣ハ家畜ノ資源ヲ確保シ其ノ價格維持ヲ圖
スル爲メ家畜ノ移動、配給、輸出入又ハ屠宰ニ關シ必要ナル命
令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得
第三條 主管部大臣ハ前條ノ命令又ハ處分ニ關係アル事項ニ付
報告ヲ徵シ又ハ權限其ノ他ノ物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得
第四條 主管部大臣ハ本法ニ定ムル權限ノ一部ヲ省長又ハ警察
特別市長ニ委任スルコトヲ得
第五條 本法ニ於テ主管部大臣トハ治安部大臣、産業部大臣又
ハ經濟部大臣ヲ指ス
第六條 第二條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分又ハ其ノ命令ニ基キ
テ爲ス處分ニ違反シタル者ハ六月以下ノ徒刑又ハ五千圓以下
ノ罰金ニ處ス
第七條 第三條ノ規定ニ依リ命ゼラレタル報告ヲ爲サズ又ハ處
分ノ報告ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
第八條 前二條ノ規定ノ適用ニ付テハ廣徳五年勅令第二百二十
五號行政法規ノ規則適用ニ關スル件ニ依ル

諸法 家畜調査法

第十條 産業部大臣必要アリト認ムルトキハ棉花販賣業者、原
棉ノ輸出若ハ輸入ヲ爲ス者、綿紡績業者、指定製造業者、
元買業者若ハ他綿製成品ノ取扱業者ヲシテ其ノ業務ニ付報告
ヲ爲サシメ又ハ所部ノ官吏ヲシテ其ノ營業所、倉庫其ノ他ノ
場所ニ臨檢シ金庫、帳簿其ノ他ノ文書物件ヲ検査シ若ハ關係
人ヲ尋問セシムルコトヲ得

第十一條 原棉ノ輸出若ハ輸入ヲ爲ス者、綿紡績業者、指定
製造業者又ハ元買業者若ハ本法ニ基キテ發スル命令又
ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ産業部大臣ハ第二
條ノ許可若ハ第五條、第六條第一項ノ指定ヲ取消シ又ハ營業
ノ停止ヲ命ズルコトヲ得

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處
ス
一 第二條ノ許可ヲ受ケズシテ原棉ヲ輸出シ又ハ輸入シタル
者

二 第三條、第五條又ハ第六條第二項ノ規定ニ違反シタル者
三 第八條ノ規定ニ違反シタル棉花販賣業者、綿紡績業者、
指定製造業者、元買業者又ハ綿製成品販賣業者

前項ノ場合ニ於テ犯罪ニ係ル原棉又ハ綿製成品ニシテ犯人ノ所
有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ
沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第十三條 棉花販賣業者、綿紡績業者、指定製造業者、元買
業者又ハ綿製成品販賣業者第九條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザ
ルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 第十條ノ規定ニ依リ命ゼラレタル報告ヲ爲サズ若ハ

産價ノ報告ヲ爲シ又ハ所部ノ官吏ノ尋問ニ對シ答辭ヲ爲サズ
若ハ處罰ノ答辭ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ
處ス
第十五條 前三條ノ規定ノ適用ニ付テハ廣徳五年勅令第二百二
十五號行政法規ノ規則適用ニ關スル件ニ依ル
第十六條 本法ニ於テ棉花製成品トハ綿織物、綿メリヤス
ヲ指ス
前項ノ綿織物、綿織物又ハ綿メリヤスニハステープルファイバ
ーヲ適用シタルモノヲ含ム

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○産金買上法

(昭和四年五月十三日) 勅令第八七號

支正 昭和四年六月十日ヨリ之ヲ施行ス

朕親裁法(第四十一條)ニ依リ參府ノ諮詢ヲ經テ産金買上法ヲ可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 政府ハ滿洲中央銀行ヲシテ産金ノ買上ヲ行ハシム

第二條 砂金ヲ採取シタル者及産金其ノ他ノ含金礦石ヨリ金ヲ精製シタル者ハ三月以内ニ其ノ金ヲ滿洲中央銀行又ハ經濟部大臣ノ指定シタル産金買上人ニ賣却スベシ

第三條 滿洲中央銀行及産金買上人ヲ除ク外砂金又ハ含金地金ノ買入ヲ爲スコトヲ得ズ但シ正當ナル事由ニ基キ含金地金ヲ必要トスル者經濟部大臣ノ許可ヲ得テ之ガ買入ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 産金買上人ハ其ノ買入レタル砂金又ハ含金地金ヲ一月以内ニ滿洲中央銀行ニ賣却スベシ

第五條 滿洲中央銀行ノ産金買上價格ハ經濟部大臣ノ之ヲ定ム

第六條 經濟部大臣ハ産金買上人ニ對シ産金買上ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第七條 産金買上人係國籍ノ規定又ハ國籍ノ命令ニ違反シタルトキハ經濟部大臣ハ其ノ指定ヲ取消スコトヲ得

件ニ依ル

附 則

本法ハ昭和四年六月十日ヨリ之ヲ施行ス

大同二年敕令第四十七號産金買上法ハ之ヲ廢止ス

附 則(昭和六年二月勅令第三一九號)

本法ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ際現ニ産金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ買入ヲ禁ジテ賣出シタル者ハ本法施行後二月ヲ限リ第七條ノ二ノ規定ニ拘ラズ其ノ賣出ヲ爲スコトヲ得

前項ニ拘ラズ其ノ賣出ノ期間内ニ第七條ノ二ニ基キ許可ヲ申請シタル場合ニ於テ其ノ申請ニ對スル許可ノ處分ノ日迄本前項ニ拘ラズ

○米穀管理法

(昭和五年十一月七日) 勅令第二五三號

支正 昭和七年九月勅令第二三七號

朕親裁法第三十六條ニ依リ參府ノ諮詢ヲ經テ米穀管理法ヲ可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 本法ハ米穀ノ生産ヲ確保シ其ノ價格ノ調節ヲ圖ル目的ヲ以テ之ヲ行フ

第二條 水田ヲ造成セントスル者ハ農務部大臣ノ定ムル所ニ依リ開田及之ニ必要ナル灌溉、排水又ハ防水ノ施設ニ關スル事項ヲ具シ行政官署ノ許可ヲ受テ之ヲ行フ

第三條 水田ノ經營ハ前條ノ許可ヲ受テ造成シタル水田以外ノ土地ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ沼澤、湖地其ノ他ノ土地ニ於ケル水田ノ經營ニシテ農務部大臣ノ定ムル所ノハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 第二條ノ許可ヲ受テ造成シタル水田ノ廢止又ハ其ノ水田ニ於ケル水田ノ作付ヲ停止セントスルトキハ當該水田ノ所有者又ハ水田ノ經營者ハ農務部大臣ノ定ムル所ニ依リ行政官署ニ其ノ旨ヲ提出スベシ

第五條 前項ノ規定ニ依リ水田ノ廢止ノ届出アリタル場合ニ於テハ當該水田ノ遺留ニ付受ケタル許可ハ取消サレタルモノト爲ス

第六條 米穀ノ生産者又ハ小作料トシテ米穀ヲ取得シタル者其

場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十條ノ三 精米穀類ノ新設、増設又ハ改設ハ農務部大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得

第十一條 米穀買上業者ハ米穀ノ配給ノ調節及價格ノ適正ヲ圖ル爲メ農務部大臣ノ定ムル所ニ依リ地方行政官署ノ許可ヲ受ケ

米穀配給組合ヲ設立スベシ

米穀買上業者前項ノ規定ニ依リ米穀配給組合ヲ設立セザル場合ニ於テハ地方行政官署ハ定款ノ作成其ノ他必要ナル事項ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十二條 米穀配給組合ハ法人トス

米穀配給組合ハ營利ヲ目的トシテ其ノ事務ヲ爲ムコトヲ得ズ

第十三條 米穀配給組合ハ米穀ノ小賣價格、組合員ニ對スル配給及ノ割當其ノ他米穀ノ配給ニ關スル事項ノ決定ヲ行フ

米穀配給組合ハ前項ノ業務ノ外組合ノ目的達成上必要ナル業務ヲ行フコトヲ得

第十四條 米穀配給組合ハ設立ノ認可アリタル時又ハ第十一條第二項ノ規定ニ依リ定款ノ作成アリタル時成立ス

第十五條 米穀配給組合ノ地區ハ新設特別市、市、縣又ハ市ノ區域ニ依リ但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ區域ニ依ラザルコトヲ得

第十六條 米穀配給組合ノ設立アリタルトキハ地區内ノ米穀買上業者ハ其ノ組合員トス

米穀配給組合ハ地方行政官署ノ許可ヲ受ケ地外ノ米穀買上業者ヲ組合員ト爲スコトヲ得

附法 米穀管理法

第十七條 米穀配給組合第十三條第一項ノ規定ヲ適用シタルトキハ
 地方行政官署ハ必要アリト認ムルトキハ前項ノ決定ノ全
 部又ハ一部ノ變更又ハ取消ヲ爲スコトヲ得
 第十八條 米穀配給組合第十三條第一項ノ決定ヲ爲サザル場合
 ニ於テハ地方行政官署ハ其ノ決定ヲ爲スベキコトヲ命ジ又ハ
 組合ノ決定ニ代ルベキ決定ヲ爲スコトヲ得
 第十九條 地方行政官署ハ必要アリト認ムルトキハ米穀配
 給組合ノ組合員ニ對シテ第十三條第一項ノ決定又ハ前條ノ規定
 ニ依リ地方行政官署ノ爲シタル決定ニ從フベキコトヲ命ズル
 コトヲ得
 第二十條 地方行政官署第十七條第一項ノ規定ニ依リ米穀
 配給組合ノ米穀ノ小賣價格ヲ認可シタルトキハ之ヲ告示スベ
 シ同條第二項ノ規定ニ依リ之ヲ變更シ又ハ第十八條ノ規定ニ
 依リ米穀ノ小賣價格ヲ決定シタルトキ亦同ジ
 第二十一條 米穀配給組合ノ決定ニ依リ告示セラレタル小賣價格ヲ超
 テテ米穀ノ取
 引ヲ爲スコトヲ得ズ
 第二十二條 米穀配給組合ノ決定ニ依リ告示セラレタル小賣價格ヲ超
 テテ米穀ノ取
 引ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十三條 行政官署ハ必要アリト認ムルトキハ米穀ノ生産者、
 第五條第一項ノ米穀ノ取得者、米穀販賣業者若ハ精米業者若
 ノ他米穀ヲ所有シ若ハ占有スル者又ハ米穀配給組合ヲシテ其
 ノ業務ニ付報告ヲ爲サシメ又ハ所屬職員若ハ滿洲國株式會
 社ノ職員ヲシテ耕作地、營業所、倉庫、精米所、船車其ノ他
 ノ場所ニ立入り土地ノ測量又ハ帳簿其ノ他ノ文書物件ヲ検査
 シ若ハ關係人ヲ尋問セシムルコトヲ得
 第二十四條 行政官署ハ必要アリト認ムルトキハ米穀ノ生産者、
 第五條第一項ノ米穀ノ取得者、米穀販賣業者若ハ精米業者若
 ノ他米穀ヲ所有シ若ハ占有スル者又ハ米穀配給組合ヲシテ其
 ノ業務ニ付報告ヲ爲サシメ又ハ所屬職員若ハ滿洲國株式會
 社ノ職員ヲシテ耕作地、營業所、倉庫、精米所、船車其ノ他
 ノ場所ニ立入り土地ノ測量又ハ帳簿其ノ他ノ文書物件ヲ検査
 シ若ハ關係人ヲ尋問セシムルコトヲ得

第二十五條 行政官署ハ必要アリト認ムルトキハ米穀ノ生産者、
 第五條第一項ノ米穀ノ取得者、米穀販賣業者若ハ精米業者若
 ノ他米穀ヲ所有シ若ハ占有スル者又ハ米穀配給組合ヲシテ其
 ノ業務ニ付報告ヲ爲サシメ又ハ所屬職員若ハ滿洲國株式會
 社ノ職員ヲシテ耕作地、營業所、倉庫、精米所、船車其ノ他
 ノ場所ニ立入り土地ノ測量又ハ帳簿其ノ他ノ文書物件ヲ検査
 シ若ハ關係人ヲ尋問セシムルコトヲ得

第二十二條又ハ第二十二條ノ二ノ規定ニ依ル命令又ハ處
 分ニ違反シタル者
 第二十七條ノ四 第五條ノ二ノ規定又ハ第二十一條ノ二ノ規定
 ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ三年以下ノ徒刑又ハ一萬圓以下
 ノ罰金ニ處ス

第二十七條ノ五 第十條ノ三ノ規定又ハ第十九條ノ規定ニ依ル
 處分ニ違反シタル者ハ一年以下ノ徒刑又ハ五千圓以下ノ罰金
 ニ處ス
 第二十八條 前五條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ徒刑及罰
 金ヲ併科スルコトヲ得
 第二十九條 前五條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ徒刑及罰
 金ヲ併科スルコトヲ得
 第三十條 第二條ノ許可ヲ受ケズシテ開田又ハ開墾、排水若ハ
 防水ノ施設ニ關スル事項ヲ變更シタル者ハ三百圓以下ノ罰金
 又ハ拘留若ハ科料ニ處ス
 第三十一條 前九條ノ規定ノ適用ニ付テハ廢舊五年勅令第二
 十五條行政官署ノ罰則適用ニ關スル件ニ依ル

第三十二條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(廢舊六年
 五月勅令第二二二號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行)
 第三十三條 本法施行前ニ建設セラレタル水田ノ所有者又ハ本
 法施行後其ノ水田ニ於テ水田耕作ノ經營ヲ爲シ若ハ爲サントス
 ル者ハ農務大臣ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ六月以
 内ニ其ノ曾行政官署ニ届出ツベシ
 前項ノ届出アリタルトキハ該水田ハ第三條ノ許可ヲ受ケ造
 成セラレタルモノト爲ス
 第一項ニ掲グル者ハ第一項ノ届出ヲ爲ス迄ノ間第三條ノ規定
 ニ拘ラズ該水田ニ於テ水田耕作ノ經營ヲ爲スコトヲ得
 第三十四條 本法施行前ニ廢舊四年勅令第四百四十六號貿易法
 制法ニ基テ及輸入ノ制限ニ關スル件ニ依リ爲シタル米穀
 ノ輸入又ハ輸出ノ許可ハ本法ノ規定ニ拘ラズ仍其ノ效力ヲ有
 ス

第三十條 第二條ノ許可ヲ受ケズシテ開田又ハ開墾、排水若ハ
 防水ノ施設ニ關スル事項ヲ變更シタル者ハ三百圓以下ノ罰金
 又ハ拘留若ハ科料ニ處ス
 第三十一條 前九條ノ規定ノ適用ニ付テハ廢舊五年勅令第二
 十五條行政官署ノ罰則適用ニ關スル件ニ依ル

○特産物專管法

第三十五條 本法ハ特産物ノ配給及價格ヲ管理統制シ其ノ輸出ノ增
 進ヲ附リ付セテ之ガ利用加工業ノ發達ニ資スルヲ以テ目的ト
 ス
 第三十六條 本法ノ適用ヲ受ケタル特産物ノ種類ハ農務大臣ノ定
 ムル所ニ依リ之ヲ定ム
 第三十七條 特産物ノ生産者又ハ小作料トシテ特産物ヲ取得シタル
 者其ノ他農務大臣ノ定ムル特産物ノ取得者ハ農務大臣ノ指定
 又ハ地方行政官署ノ指定シタル場所以外ノ場所ニ於テ特産物
 ノ賣渡ヲ爲スコトヲ得ズ但シ農務大臣ノ別ニ定ムル場合ハ
 此ノ限ニ在ラズ
 第三十八條 本法ノ適用ヲ受ケタル特産物ノ種類ハ農務大臣ノ定
 ムル所ニ依リ之ヲ定ム
 第三十九條 特産物ノ生産者又ハ小作料トシテ特産物ヲ取得シタル
 者其ノ他農務大臣ノ定ムル特産物ノ取得者ハ農務大臣ノ指定
 又ハ地方行政官署ノ指定シタル場所以外ノ場所ニ於テ特産物
 ノ賣渡ヲ爲スコトヲ得ズ但シ農務大臣ノ別ニ定ムル場合ハ
 此ノ限ニ在ラズ
 第四十條 本法ノ適用ヲ受ケタル特産物ノ種類ハ農務大臣ノ定
 ムル所ニ依リ之ヲ定ム
 第四十一條 本法ノ適用ヲ受ケタル特産物ノ種類ハ農務大臣ノ定
 ムル所ニ依リ之ヲ定ム

第五條 農林部大臣ノ定ムル所ニ依リ省長又ハ新東京特別市長ヨリ管轄ノ許可ヲ受ケタル特産物取扱業者以下種族ト稱スハ
滿洲特産物專管公社(以下專管公社ト稱ス)若ハ其ノ特約收買人又ハ興業合作社・關稅協同組合及關稅協同組合聯合會ヲ含ム以下同ジ)ニ非ザレバ農産物交易場又ハ第三條第一項ノ指定場所ニ於テ特産物ノ買入ヲ許スコトヲ得ズ

第六條 前二條ノ規定ハ加工品タル特産物ニハ之ヲ適用セズ

第七條 種族又ハ興業合作社ハ其ノ買入レタル特産物ヲ專管公社又ハ其ノ特約收買人ニ賣渡スベシ但シ農林部大臣ノ別ニ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

重要産業統制法第一條ノ許可ヲ受ケタル油房業者(以下油房業者ト稱ス)ハ其ノ加工シタル特産物ヲ專管公社又ハ其ノ特約收買人ニ賣渡スベシ但シ農林部大臣ノ別ニ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

專管公社ノ特約收買人ハ其ノ買入レタル特産物ヲ專管公社ニ賣渡スベシ

第八條 地方行政官署ハ前條第一項及第二項ノ規定ニ拘ラズ農林部大臣ノ定ムル所ニ依リ種族・興業合作社又ハ油房業者ニ對シ特産物ヲ專管公社又ハ其ノ特約收買人以外ノ者ニ賣渡スベキコトヲ命ジ又ハ賣渡スコトヲ許可スルコトヲ得

第九條 專管公社又ハ其ノ特約收買人ニ非ザレバ種族・興業合作社又ハ油房業者ヨリ特産物ノ買入ヲ爲スコトヲ得ズ但シ第七條第一項但書若ハ第二項但書又ハ前條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 專管公社ハ特産物ノ買入及販賣ノ價格ニ付農林部大臣

ノ定ムル所ニ依リ其ノ認可ヲ受ケベシ

第十一條 省長又ハ新東京特別市長ハ前條ノ買入又ハ販賣ノ價格ヲ基準トシ其ノ管轄區域内ニ於ル特産物ノ卸賣及小賣ノ價格ヲ定ムベシ

前項ノ卸賣及小賣ノ價格ハ之 告示スベシ

前項ノ規定ニ依リ告示セラレタル卸賣又ハ小賣ノ價格ヲ超エテ特産物ノ取引ヲ爲スコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ取引ノ常業者ニシテ營利ヲ目的トシテ營利取引ヲ爲スニ非ザルモノニハ之ヲ適用セズ但シ營利取引ヲ爲スコトガ自己ノ業務ニ屬スル者又ハ自己ノ業務ノ爲特別ノ便宜ヲ得ルコトヲ目的トシテ營利取引ヲ爲ス者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 專管公社又ハ其ノ特約收買人ニ非ザレバ特産物ヲ運又ハ船舶ニ依リ搬出スルコトヲ得ズ但シ農林部大臣ノ別ニ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 特産物ノ輸出又ハ輸入ハ農林部大臣及經濟部大臣ノ別ニ定ムル場合ヲ除ク外專管公社ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第十五條 專管公社ハ農林部大臣ノ定ムル配給計畫ニ從ヒ特産物ノ配給ヲ爲スベシ

第十六條 專管公社特産物ノ買入ヲ他ノ者ニ委任シテ行ハシメントスルトキハ農林部大臣ノ認可ヲ受ケベシ

農林部大臣前項ノ規定ニ依リ特約收買人ヲ認可シタルトキハ之ヲ告示スベシ

第十六條 特産物ノ原料トスル加工業ニシテ農林部大臣ノ指定スル加工業ヲ管マントスル者(以下特産物加工業者ト稱ス)ハ農林部大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ヲ受ケベシ許可ヲ受ケタル者加工設備ノ増設又ハ改修ヲ爲スルコトキ亦同ジ

第十七條 油房業者又ハ特産物加工業者ハ專管公社又ハ第八條ノ規定ニ依リ賣渡ノ命令又ハ許可ヲ受ケタル種族又ハ興業合作社ヨリ買入レタル特産物ニ非ザレバ加工原料トシテ特産物ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ農林部大臣ノ定ムル所ニ依リ地方行政官署ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十八條 特産物ノ販賣業ハ農林部大臣ノ定ムル所ニ依リ地方行政官署ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ

第十九條 種族ハ省長又ハ新東京特別市長ノ認可ヲ受ケ新東京特別市・市・町又ハ一區毎ニ種族組合ヲ設立スベシ但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ區域ニ依ラザルコトヲ得

種族組合ニ關シ必要ナル事項ハ農林部大臣之ヲ定ム

第二十條 農林部大臣特産物ノ配給ノ關聯上特ニ必要アリト認ムルトキハ特産物ノ生産者又ハ第三條第一項ノ特産物ノ取得者ニ對シ其ノ所有スル特産物ヲ專管公社又ハ其ノ特約收買人ニ賣渡スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二十一條 農林部大臣ハ專管公社ニ對シ特産物ノ買入又ハ販賣其ノ他配給ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 行政官署ハ種族又ハ種族組合ニ對シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 農林部大臣ハ種族・特産物取扱業者・特産物加工業者・油房業者其ノ他特産物ヲ所有シ若ハ占有スル者又ハ種族

組合ニ對シ特産物ノ價格又ハ價格ノ關聯上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 行政官署必要アリト認ムルトキハ特産物ノ生産者・第三條第一項ノ特産物ノ取得者・種族・特産物ノ取扱業者・特産物加工業者・油房業者其ノ他特産物ヲ所有シ若ハ占有スル者又ハ種族組合ヲシテ其ノ業務ニ付報告ヲ爲サシメ又ハ所屬職員ヲシテ營業所・倉庫・加工場・船庫其ノ他ノ場所ニ立入り帳簿其ノ他ノ文書物件ヲ検査シ若ハ關係人ヲ訪問セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該職員ハ其ノ身分ヲ離スル限リ職務スベシ

第二十五條 本法ノ適用ヲ免レンガ爲故意ニ特産物ヲ相互ニ若ハ他ノ農産物其ノ他ノ物ト混合シ又ハ押匿・破砕若ハ粉砕スルコトヲ得ズ

第二十六條 種族・特産物取扱業者・特産物加工業者又ハ油房業者若ハ本法ニ基キテ賣渡スル命令若ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ、其ノ營業ニ關シ不正ノ罪アリタルトキ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スル虞アリト認メタルトキハ其ノ許可ヲ爲シタル行政官署ハ何時ニテモ其ノ營業ヲ停止シ命ジ又ハ其ノ許可ヲ取消スルコトヲ得

第二十七條 專管公社ノ特約收買人其ノ業務ニ關シ不正ノ罪アリタルトキ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スル虞アリト認メタルトキハ農林部大臣ハ何時ニテモ其ノ業務ヲ停止シ命ジ又ハ第十五條第一項ノ認可ヲ取消スコトヲ得

農林部大臣前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示スベシ

第一項ノ規定ニ依リ認可ノ取消アリタルトキハ專管公社ト其ノ特約收買人トノ間ノ第十五條第一項ノ契約ハ解約セラレタルモノト看做ス

第二十八條 農林部大臣ハ本法ニ依リ種族ノ一部ヲ省長又ハ新東京特別市長ニ委任スルコトヲ得

省長ハ本法ニ依リ種族又ハ前項ノ規定ニ依リ委任セラレタル種族ノ一部ヲ市長・縣長又ハ廳長ニ委任スルコトヲ得

第二十九條 本法ニ於テ地方行政官署ト稱スルハ新東京特別市長・市長・縣長又ハ廳長ヲ謂ヒ行政官署ト稱スルハ農林部大臣・省長又ハ地方行政官署ヲ謂フ

第三十條 第十三條ノ規定ニ違反シテ特産物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ一年以上ノ有期徒刑又ハ十五萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第十二條ノ規定ニ違反シテ特産物ノ搬出ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ六月以上十年以下ノ徒刑又ハ五萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六月以上五年以下ノ徒刑又ハ三萬圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條・第七條・第九條・第十一條第三項若ハ第五項・第十七條又ハ第二十五條ノ規定ニ違反シタル者

二 第八條・第二十二條又ハ第二十三條ノ規定ニ依リ命令又ハ處分ニ違反シタル者

第三十三條 第三條若ハ第五條ノ規定又ハ第二十條ノ規定ニ依リ命令ニ違反シタル者ハ三年以下ノ徒刑又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第十六條ノ許可ヲ受ズシテ特産物加工業ヲ營ミ若ハ加工設備ノ増設若ハ改修ヲ爲シタル者又ハ第十八條ノ規定ニ違反シタル者ハ一年以上ノ徒刑又ハ五萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ徒刑及罰金ヲ併科スルコトヲ得

前二條ノ場合ニ於テ犯罪ニ係ル特産物ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノ及犯罪ニ因リ得タル利益ハ之ヲ沒收スルコトヲ得其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ沒收スルコトヲ得

第三十六條 第二十四條第一項ノ規定ニ依リ報告ヲ爲サズ若ハ報告ノ報告ヲ爲シ又ハ當該職員ノ検査ヲ阻礙シ、尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ答辯ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ徒刑五百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第三十七條 前七條ノ規定ノ適用ニ付テハ農林部五年勅令第二百二十五號行政法規ノ罰則適用ニ關スル件ニ依ル

第三十八條 本法ハ農林部七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十九條 農林部六年勅令第二百六十九號農林部特産物專管法ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

第四十條 本法施行ノ際現ニ農産物交易場法第六條ノ許可ヲ受ケテ特産物ノ買入ヲ爲ス者ハ本法施行ノ日ヨリ六十日ヲ限リ第五條ノ規定ニ拘ラズ農産物交易場又ハ第三條第一項ノ指定場所ニ於テ特産物ノ買入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ特産物ノ買入ヲ爲ス者ハ第七條第一項・第

八條、第九條、第十七條、第十九條、第二十二條乃至第二十四條及第二十六條ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ糧穀ト爲ス
 第四十一條 本法施行ノ際現ニ特殊加工業又ハ特産物ノ販賣業ヲ營ム者ハ本法施行ノ日ヨリ六十日以内ニ農務大臣ノ定ムル所ニ依リ農務大臣又ハ地方行政官署ニ届出ツベシ
 第四十二條 前條ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シタル者ハ本法ノ規定ニ依リ特殊加工業又ハ特産物ノ販賣業ノ許可ヲ受ケタル者ト爲ス
 第四十三條 第四十一條ニ掲グル者ハ同條ノ届出ヲ爲ス迄ノ間本法ノ規定ニ拘ラズ特殊加工業又ハ特産物ノ販賣業ヲ營ムコトヲ得

○糧穀管理法

(昭和七年九月三十日 勅令第三三五號)

朕組織法第三十八條ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ糧穀管理法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 本法ハ糧穀ノ配給及價格ヲ管理統制シ其ノ需給ノ調節及價格ノ適正ヲ圖ルヲ以テ目的トス
 第二條 本法ノ適用ヲ受ケル糧穀ノ種類ハ農務大臣ノ定ムル所ニ依リ農務大臣又ハ小作科トシテ糧穀ヲ取得シタル者其ノ他農務大臣ノ定ムル糧穀ノ取得者ハ農産物交易場又ハ地方行政官署ノ指定シタル場所以外ノ場所ニ於テ糧穀ノ賣渡ヲ爲スコトヲ得ズ但シ農務大臣ノ別ニ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ前項ノ規定ニ依リ禁止ヲ免ルル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ
 第三條 農産物交易場又ハ前條第一項ノ指定場所以外ノ場所ニ於テハ糧穀ノ生産者又ハ同條前項ノ糧穀ノ取得者ヨリ糧穀ノ買入ヲ爲スコトヲ得ズ但シ同條前項但書ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第五條 農務大臣ノ定ムル所ニ依リ省長又ハ新京特別市長ヨリ營業ノ許可ヲ受ケタル糧穀取扱業者(以下糧穀取扱業者ト稱ス)、滿洲糧穀株式會社若ハ其ノ代理收買人又ハ興農合作社(開拓

協同組合及開拓協同組合聯合會ヲ含ム以下同ジ)ニ非ザレバ農産物交易場又ハ第三條第一項ノ指定場所ニ於テ糧穀ノ買入ヲ爲スコトヲ得ズ
 第六條 糧穀又ハ興農合作社ハ農務大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ買入レタル糧穀ヲ滿洲糧穀株式會社又ハ其ノ代理收買人ニ賣渡スベシ但シ農務大臣ノ別ニ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 第七條 滿洲糧穀株式會社又ハ其ノ代理收買人ニ非ザレバ糧穀又ハ興農合作社ヨリ糧穀ノ買入ヲ爲スコトヲ得ズ但シ前條但書ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 第八條 滿洲糧穀株式會社ハ糧穀ノ買入反賣買ノ價格ニ付農務大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ認可ヲ受ケタベシ
 第九條 省長又ハ新京特別市長ハ前條ノ販賣價格ヲ基準トシ其ノ管轄區域内ニ於ケル糧穀ノ卸賣及小賣ノ價格ヲ定ムベシ
 前項ノ卸賣及小賣ノ價格ハ之ヲ告示スベシ
 前項ノ規定ニ依リ告示セラレタル卸賣又ハ小賣ノ價格ヲ越エテ糧穀ノ取引ヲ爲スコトヲ得ズ
 前項ノ規定ハ取引ノ當事者ニシテ實利ヲ目的トシテ常設取引ヲ爲スニ非ザルモノニハ之ヲ適用セズ但シ常設取引ヲ爲スコトガ自己ノ業務ニ關スル者又ハ自己ノ業務ノ爲特別ノ便宜ヲ得ルコトヲ目的トシテ常設取引ヲ爲ス者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
 第三條第二項ノ規定ハ第三項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第十條 滿洲糧穀株式會社ニ非ザレバ糧穀ヲ運搬又ハ船舶ニ依リ搬出スルコトヲ得ズ但シ農務大臣ノ別ニ定ムル場合ハ此

ノ限ニ在ラズ
 第十一條 糧穀ノ輸出又ハ輸入ハ農務大臣及經濟部大臣ノ別ニ定ムル場合ヲ除ク外滿洲糧穀株式會社ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ
 第十二條 滿洲糧穀株式會社ハ農務大臣ノ定ムル配給計畫ニ從ヒ糧穀ノ配給ヲ爲スベシ
 第十三條 滿洲糧穀株式會社糧穀ノ買入ヲ他ノ者ニ委任シ其ノ代理人トシテ行ハシメントストキハ農務大臣ノ認可ヲ受ケタベシ
 農務大臣前項ノ規定ニ依リ代理收買人ヲ認可シタルトキハ之ヲ告示スベシ
 第十四條 糧穀ノ加工、設備ノ新設、増設又ハ改設ハ農務大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ
 第十五條 糧穀ノ販賣業ハ農務大臣ノ定ムル所ニ依リ地方行政官署ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ
 第十六條 糧穀ハ省長又ハ新京特別市長ノ認可ヲ受ケテ新京特別市、市、縣又ハ市ノ區域毎ニ糧穀組合ヲ設立スベシ但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ區域ニ依ラザルコトヲ得
 糧穀組合ニ關シ必要ナル事項ハ農務大臣ノ定ムル所ニ依リ農務大臣ノ認可ヲ受ケタルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ
 第十七條 興農合作社ノ需給ノ調節上特ニ必要アリト認ムルトキハ糧穀ノ生産者又ハ第三條第一項ノ糧穀ノ取得者ニ對シ其ノ所有スル糧穀ヲ滿洲糧穀株式會社又ハ其ノ代理收買人ニ賣渡スベキコトヲ命ズルコトヲ得
 第十八條 農務大臣ハ滿洲糧穀株式會社ニ對シ糧穀ノ買入又

ハ販賣其ノ他配給ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
 第十九條 行政官署ハ糧穀又ハ糧穀組合ニ對シ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得
 第二十條 農務大臣ハ糧穀、糧穀ノ販賣業者若ハ加工業者其ノ他糧穀ノ所有者若ハ占有者又ハ糧穀組合ニ對シ糧穀ノ需給又ハ價格ノ調節上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得
 第二十一條 行政官署必要アリト認ムルトキハ糧穀ノ生産者、第三條第一項ノ糧穀ノ取得者、糧穀、糧穀ノ販賣業者若ハ加工業者其ノ他糧穀ノ所有者若ハ占有者又ハ糧穀組合ヲシテ其ノ業務ニ付報告ヲ爲サシメ又ハ所屬職員若ハ滿洲糧穀株式會社ノ職員ヲシテ營業所、倉庫、加工場、船庫其ノ他ノ場所ニ立入り視察其ノ他ノ文書物件ヲ検査シ若ハ關係人ヲ尋問セシムルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テハ當該職員ハ其ノ身分ヲ離スル限リ職務スベシ
 第二十二條 本法ノ適用ヲ免レンガ爲故意ニ糧穀ヲ相互ニ若ハ他ノ農産物其ノ他ノ物ト混合シ又ハ押匿、破砕若ハ粉砕スルコトヲ得ズ
 第二十三條 本法ノ適用ヲ免レンガ爲故意ニ糧穀ヲ相互ニ若ハ他ノ農産物其ノ他ノ物ト混合シ又ハ押匿、破砕若ハ粉砕スルコトヲ得ズ

第二十條 糧穀、糧穀取扱業者又ハ第十四條ノ許可ヲ受ケタル者若ハ本法ニ基キテ發スル命令若ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ、其ノ營業ニ關シ不正ノ限アリタルトキ又ハ公益ヲ害スル限アリト認メタルトキハ其ノ許可ヲ取消シタルトキハ農務大臣ノ何時ニモ其ノ業務ヲ停止セシメ又ハ第三條第一項ノ認可ヲ取消スコトヲ得
 農務大臣前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示スベシ
 第二十一條ノ規定ニ依リ認可ノ取消アリタルトキハ滿洲糧穀株式會社ト其ノ代理收買人トノ間ノ第十三條第一項ノ契約ハ解約セラレタルモノト爲ス
 第二十六條 農務大臣ハ本法ニ依リ糧穀ノ一部ヲ省長又ハ新京特別市長ニ委任スルコトヲ得
 省長ハ本法ニ依リ糧穀又ハ前項ノ規定ニ依リ委任セラレタル糧穀ノ一部ヲ市長、縣長又ハ市長ニ委任スルコトヲ得
 第二十七條 本法ニ於テ地方行政官署ト稱スルハ新京特別市長、市長、縣長又ハ市長ヲ謂ヒ行政官署ト稱スルハ農務大臣、省長又ハ地方行政官署ヲ謂フ
 第二十八條 第十一條又ハ第二十二條ノ規定ニ違反シテ糧穀又ハ其ノ加工品若ハ副産物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ一年以上ノ有期徒刑又ハ十萬圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十九條 第十條又ハ第二十二條ノ規定ニ違反シテ糧穀又ハ

其ノ加工品若ハ製粉物ノ輸出ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ六月以上十年以下ノ徒刑又ハ五萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六月以上五年以下ノ徒刑又ハ三萬圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條、第六條、第七條、第九條第三項若ハ第五項、第二十二條又ハ第二十三條ノ規定ニ違反シタル者

二 第十九條、第二十條又ハ第二十二條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

第三十一條 第三條若ハ第五條ノ規定又ハ十、十一條若ハ第二十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ三年以下ノ徒刑又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第十四條、第十五條又ハ第二十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ一年以下ノ徒刑又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條 前五條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ徒刑及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第三十四條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其ノ加工品若ハ製粉物ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノ及犯罪ニ因リ得タル利益ハ之ヲ沒收スルコトヲ得其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコトハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴スルコトヲ得

第三十五條 第二十一條第一項又ハ第二十二條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ當該職員ノ検査ヲ阻障シ、尋問ニ對シ虚偽ノ報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ答辯ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ徒刑、五百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第三十六條 前七條ノ規定ノ適用ニ付テハ廣徳五年勅令第二百二十五號行政法規ノ規則適用ニ關スル件ニ依ル

第三十六條 本法ハ廣徳七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十七條 廣徳六年勅令第二百九十一號主權廢除法ハ之ヲ廢止ス但シ本法施行前ニ爲シタル行爲ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ本法施行後ト雖モ仍其ノ效力ヲ有ス

第三十八條 本法施行ノ際現ニ農産物交易場第六條ノ認許ヲ受ケ備置ノ買入ヲ爲ス者ハ本法施行ノ日ヨリ六十日ヲ限リ第五條ノ規定ニ拘ラズ農産物交易場又ハ第三條第一項ノ指定場所ニ於テ備置ノ買入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ備置ノ買入ヲ爲ス者ハ第六條、第七條、第十六條、第十九條乃至第二十一條及第二十四條ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ適用ト爲ス

第三十九條 本法施行ノ際現ニ第十四條ノ規定ニ依リ許可ヲ要スル製粉ノ加工設備ヲ有スル者又ハ備置ノ買入者ハ本法施行ノ日ヨリ六十日以内ニ農産部大臣ノ定ムル所ニ依リ農産部大臣又ハ地方行政官署ニ届出ヅベシ

第四十條 前條ノ規定ニ依リ届出ヅタル者ハ其ノ加工設備又ハ備置ノ買入ニ付テハ本法ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト爲ス

第四十一條 第三十九條ニ備グル備置ノ買入者ハ同條ノ届出ヲ爲ス迄ノ間本法ノ規定ニ拘ラズ製粉業ヲ營ムコトヲ得

○小麥及製粉業統制法

(廣徳六年十二月七日勅令第三〇七號)

廣徳七年九月勅令第三八號

朕組織法第三十六條ニ依リ參閣府ノ諮詢ヲ經テ小麥及製粉業統制法ヲ認可シ茲ニ之ヲ公布セシム(國務總理、農務部、經濟部大臣、副署)

第一條 本法ハ小麥ノ價格及配給ヲ管理統制シ其ノ生産ヲ助長スルト共ニ製粉業ヲ統制シ其ノ健全ナル發展ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 農産部大臣ノ指定スル者ニ非ザレバ生産者又ハ小作科トシテ小麥ヲ取得シタル者其ノ他農産部大臣ノ定ムル小麥ノ取得者ヨリ小麥ヲ買入ルコトヲ得ズ但シ農産部大臣ノ特ニ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ前項ノ規定ニ依ル禁止ヲ免ルル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第三條 小麥ノ生産者又ハ前條第一項ノ小麥ノ取得者ハ農産物交易場又ハ新設特別市長、市長、縣長若ハ市長ノ指定シタル場所以外ノ場所ニ於テ小麥ノ販賣ヲ爲スコトヲ得ズ但シ同條第二項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四條 小麥又ハ穀ノ輸入又ハ輸出ハ農産部大臣及經濟部大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除ク外第二條第一項ノ指定ヲ受ケタル者ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第三條ノ二 小麥又ハ穀ハ第二條第一項ノ指定ヲ受ケタル者ニ非ザレバ之ヲ運出又ハ船舶ニ依リ輸出スルコトヲ得ズ但シ農産部大臣ノ特ニ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 製粉業ヲ營ムントスル者ハ農産部大臣ノ定ムル所ニヨリ其ノ許可ヲ受ケベシ

前項ノ製粉業ノ種類ハ農産部大臣ノ之ヲ定ム

第五條 第二條第一項ノ指定ヲ受ケタル者ハ前條ノ許可ヲ受ケ製粉業ヲ營ム者(以下製粉業ト稱ス)又ハ農産部大臣ノ定ムル小麥加工業者(以下加工業者ト稱ス)以外ノ者ニ小麥其ノ他ノ製粉原料種穀ヲ販賣スルコトヲ得ズ

第六條 第二條ノ指定ヲ受ケタル者ハ農産部大臣ノ認可ヲ經テ製粉業者ニ對シル生産數量ノ調整ヲ定メ之ニ基キ小麥其ノ他ノ製粉原料種穀ヲ配給スベシ

第七條 製粉業者又ハ加工業者ハ第二條第一項ノ指定ヲ受ケタル者以外ノ者ヨリ小麥其ノ他ノ製粉原料種穀ノ買入ヲ爲スコトヲ得ズ但シ農産部大臣ノ特ニ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 製粉業者ハ其ノ生産シタル穀ヲ第二條ノ指定ヲ受ケタル者以外ノ者ニ販賣スルコトヲ得ズ但シ農産部大臣ノ特ニ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 第二條第一項ノ指定ヲ受ケタル者ハ小麥ノ買入價格又ハ小麥其ノ他ノ製粉原料種穀ノ販賣價格ニ付農産部大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ認可ヲ受ケベシ

第十條ノ二 農産部大臣小麥ノ價格ノ調節上特ニ必要アリト認ムルトキハ小麥ノ生産者又ハ第二條第一項ノ小麥ノ取得者ニ對シ其ノ所有スル小麥ヲ同條第一項ノ指定ヲ受ケタル者ニ販賣

スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十條 農産部大臣ハ第二條第一項ノ指定ヲ受ケタル者ニ對シ小麥其ノ他ノ製粉原料種穀ノ買入又ハ販賣其ノ他配給ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十一條 農産部大臣ハ製粉業者、加工業者其ノ他小麥ヲ所有シ又ハ占有スル者ニ對シ小麥ノ價格又ハ價格ノ調節上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十二條 農産部大臣必要アリト認ムルトキハ製粉業者、加工業者又ハ小麥其ノ他ノ製粉原料種穀ノ取扱ヲ禁ズル者ヲシテ其ノ業務ニ付報告ヲ發サシメ又ハ所部ノ官吏ヲシテ其ノ營業所、倉庫其ノ他ノ場所ニ立入り倉庫、帳簿其ノ他ノ文書物件ヲ検査シ若ハ關係人ヲ尋問セシムルコトヲ得

第十三條 製粉業者、加工業者ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ農産部大臣ハ營業ノ停止ヲ命ジ又ハ第四條第一項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十四條ノ二 本法ノ適用ヲ免レンガ爲故意ニ小麥其ノ他ノ製粉原料種穀又ハ穀ヲ相互ニ若ハ他ノ農産物其ノ他ノ物ト混合シ又ハ押解、破砕若ハ粉砕スルコトヲ得ズ

第十五條 第三條ノ規定ニ違反シテ小麥又ハ穀ノ輸入若ハ輸出ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ一年以上ノ有期徒刑又ハ十萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條ノ二 第三條ノ二ノ規定ニ違反シテ小麥又ハ穀ノ輸出ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ六月以上十年以下ノ徒刑又ハ五萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六月以上五年以下

ノ徒刑又ハ三萬圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二條、第七條、第八條又ハ第十二條ノ二ノ規定ニ違反シタル者

二 第十條ノ二ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

第十三條ノ四 第二條ノ二ノ規定又ハ第九條ノ二ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ三年以下ノ徒刑又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條ノ五 第四條第一項ノ許可ヲ受ケズシテ製粉業ヲ營ムタル者ハ一年以下ノ徒刑又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 前五條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ徒刑及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第十六條 場合ニ於テ犯罪ニ係ル小麥其ノ他ノ製粉原料種穀若ハ其ノ製品又ハ穀ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノ及犯罪ニ因リ得タル利益ハ之ヲ沒收スルコトヲ得其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコトハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴スルコトヲ得

第十七條 第十一條ノ規定ニ依リ命ゼラレタル報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シ又ハ所部ノ官吏ノ職務ノ執行ヲ阻障シ其ノ尋問ニ對シ虚偽ノ報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ答辯ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ徒刑、五百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第十八條 前七條ノ規定ノ適用ニ付テハ廣徳五年勅令第二百二十五號行政法規ノ規則適用ニ關スル件ニ依ル

本法施行ノ際ニ製粉業ヲ営ム者ニシテ本法施行前重要製粉業法第一條ノ許可ヲ受ケタルモノハ第四條第一項ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

○農産物検査法

(昭和七年十月二十八日 勅令第二八〇號)

農産物検査法第三十八條ニ依リ農務省ノ諮詢ヲ經テ農産物検査法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム (國務總理、農務大臣副署)

農務大臣前項ノ指定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示スベシ

第六條 検査所検査ヲ爲ストキハ農務大臣ノ定ムル検査所ニ依リ合格又ハ不合格ノ決定ヲ爲スベシ

品ノ検査ヲ受ケタル者ハ三年以下ノ徒刑又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

○臨時住宅房租統制法

(昭和六年十二月二十八日 勅令第三四九號)

臨時住宅房租統制法第三十六條ニ依リ農務省ノ諮詢ヲ經テ臨時住宅房租統制法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方行政官署ハ前項ノ規定ニ依リ公定家賃ヲ改訂シタルトキハ房租審査會ニ其ノ旨ヲ登載スベシ

第十條 省長、警察廳長又ハ地方行政官署ハ必要アリト認ムルトキハ住宅ノ貸借ニ關スル事項ニ付關係者ヨリ報告ヲ徵シ又ハ當該官署ヲシテ住宅其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿、契約書其ノ他ノ物件ノ檢査ヲ爲サンメ若ハ關係者ノ尋問セシムルコトヲ得

當該官吏ハ前項ノ職務ヲ執行スル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ證スル證據ヲ携帯スベシ

第十四條 第九條ノ規定ニ依ル戒告ニ從ハザル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

一 第十一條ノ規定ニ依リ出テ出サザル者

二 第十二條ノ規定ニ依リ命令ニ違反シ又ハ處分ニ從ハザル者

三 第十三條ノ規定ニ依リ命セラレタル報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ阻障シタル者

第十六條 前二條ノ規定ノ適用ニ付テハ廢止五年勅令第二百二十五號行政法規ノ罰則適用ニ關スル件ニ依ル

第十七條 本法ハ經濟部大臣ノ定ムル住宅ニハ之ヲ適用セズ

附 則

本法ハ廢止七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行ノ地城ハ經濟部大臣ノ定ム

本法實施ノ際現ニ住宅ヲ貸借スル者ハ經濟部大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ地方行政官署ニ届出ツベシ

加入電話統制法

(廢止八年一月四日)

附 則

廢止法第三十八條ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ加入電話統制法ヲ廢止スルニ之ヲ公布セシム

加入電話統制法

第一條 本法ニ於テ加入電話ト稱スルハ滿洲電信電話株式會社ノ電話交換ニ加入セル電話ヲ謂ヒ加入者ト稱スルハ加入電話ノ加入者ト稱ス

第二條 加入電話ニ付加入者ノ有スル權利ハ之ヲ讓渡シ、擔保ニ供シ又ハ差押フルコトヲ得ズ但シ擔保ト共ニスルトキ又ハ特別ノ事情アル場合ニ於テ交通部大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ之ヲ讓渡スルコトヲ得

第三條 加入者ハ自己ノ住所、居所又ハ業務ニ使用スル場所以外ノ場所ヲ電話ノ設置場所ト爲スコトヲ得ズ但シ官公署若ハ法人ノ加入電話ヲ其ノ職員ノ住所若ハ居所ニ設置スル場合又ハ交通部大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 交通部大臣必要アリト認ムルトキハ所屬ノ官吏又ハ滿洲電信電話株式會社ノ職員ヲシテ加入者其ノ他加入電話ノ利用ニ關係アル者ニ付尋問ヲ爲シ、電話機檢査ヲ立入リ又ハ必要ナル調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第五條 加入者ニ於テハ所屬ノ官吏又ハ滿洲電信電話株式會社ノ職員ハ其ノ身分ヲ證明スル義務ヲ擔持スベシ

第六條 加入者ノ加入電話ニ關シテ必要ナル事項ニ關シテ交通部大臣ノ公署ニ報告スル義務ヲ擔持スベシ

第七條 交通部大臣公益上又ハ加入電話利用ノ統制上必要アリト認ムルトキハ加入者ヲ禁止スルコトヲ得

ト認ムルトキハ加入者ヲ禁止スルコトヲ得

第八條 加入者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ交通部大臣ハ加入電話ノ加入ノ取消ヲ爲スコトヲ得

一 第二條但書ノ場合ヲ除ク外加入電話ニ付加入者ノ有スル權利ヲ讓渡シタルトキ

二 第三條ノ規定ニ違反シタルトキ

三 不正ノ手段ヲ以テ第二條但書又ハ第三條但書ノ認可ヲ受ケタルトキ

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二條但書ノ場合ヲ除ク外加入電話ニ付加入者ノ有スル權利ヲ讓渡シタル者

二 第三條ノ規定ニ違反シタル者

三 不正ノ手段ヲ以テ第二條但書又ハ第三條但書ノ認可ヲ受ケタル者

第十條 加入電話ニ付加入者ハ廢止五年勅令第二百二十五號行政法規ノ罰則適用ニ關スル件ニ依ル

附 則

本法ハ廢止九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條ノ規定ハ左ノ場合ニハ之ヲ適用セズ

一 加入電話ニ付加入者ノ有スル權利ノ目的トスル執行名義ニシテ本法公布前成立シタルモノ又ハ本法公布當時法院ニ登記スル民事訴訟若ハ調停法ニ依リ調停ニ基キ成立スルモノニ因リ當然權利ノ讓渡

労働統制法

(廢止五年十二月一日)

改正 廢止七年七月勅令第一九八號

廢止法第三十六條ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ労働統制法ヲ廢止スルニ之ヲ公布セシム

労働統制法

第一條 本法ハ労働力ノ有效ナル使用ヲ圖ル爲メ労働者ノ保護ヲ圖ルニ關シテ必要ナル事項ニ關シテ規定スルコトヲ得

第二條 労働者ヲ使用又ハ供給スル事業者ニシテ民生部大臣ノ定ムルモノハ其ノ認可ヲ得テ労働者ノ募集、雇入、使用若ハ解雇又ハ労働ノ對價若ハ條件ニ關シテ統制規定ヲ施行スルコトヲ得

第三條 統制規定ノ變更、廢止及救済ハ民生部大臣ノ認可ヲ受ケタルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第四條 第二條ノ事業者統制規定ヲ施行セザル場合ニ於テ民生部大臣必要アリト認ムルトキハ當該事業者ニ對シ労働者ノ募集、雇入、使用若ハ解雇又ハ労働ノ對價若ハ條件ニ關シテ統制規定ヲ施行スルコトヲ得

第五條 労働者ノ命令ニ從ハザルトキハ民生部大臣ハ前項ノ事項ニ付統制上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第六條 民生部大臣必要アリト認ムルトキハ統制規定ヲ變更又ハ廢止スルコトヲ得

ハ廢止スルコトヲ得

第六條 民生部大臣必要アリト認ムルトキハ第二條ノ事業者ニシテ統制規定ニ加入セザル者ニ對シ統制規定ニ加入スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第七條 民生部大臣ハ労働者ノ募集、雇入、供給又ハ労働ニ關シ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第八條 民生部大臣ハ労働ノ對價又ハ條件ニ關シ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第九條 民生部大臣ハ労働者ノ保護又ハ輔導ニ關シ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十條 民生部大臣必要アリト認ムルトキハ労働者ノ命令ニ從ハザルトキハ労働者ノ保護又ハ輔導ニ關シ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十一條 公共ノ事業ヲ行フ爲メ必要ニシテ労働者ノ募集、雇入、供給又ハ労働ニ關シ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十二條 前條第一項ノ場合ニ於テ管内ノ労働者ノ不足又ハ他ノ事由ニ因リ當該事業地ヲ管轄スル省長又ハ新設特別市長ニ對シ労働者ヲシテ募集ニ關シシムルコトヲ命ズルコトヲ得

第十三條 前條第一項ノ場合ニ於テ管内ノ労働者ノ不足又ハ他ノ事由ニ因リ當該事業地ヲ管轄スル省長又ハ新設特別市長ニ對シ労働者ヲシテ募集ニ關シシムルコトヲ命ズルコトヲ得

第十四條 前條第一項ノ場合ニ於テ管内ノ労働者ノ不足又ハ他ノ事由ニ因リ當該事業地ヲ管轄スル省長又ハ新設特別市長ニ對シ労働者ヲシテ募集ニ關シシムルコトヲ命ズルコトヲ得

第七條 中央卸賣市場開設ノ際其ノ取極品目ニ付當額規定額...

第十六條 開設者ハ業務規程ヲ定ムル所ニ依リ第九條ノ規定...

第二十三條 第一條ノ法人又ハ第九條ノ規程ニ依リ卸賣ノ業...

○家畜交易市場法

(昭和二年十二月二十八日勅令第一六一號)

附法(第四十一條)ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ家畜交易市場法ヲ制定シ之ヲ公布セシム

近ノ區域内ニ於テ市場開場日及其ノ前後ノ期間中其ノ市場ノ取扱...

ノ有期徒罰又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第二十一條又ハ前條第一項ノ場合ニ於テ使用主又ハ役員若ハ社員ガ官署ニ行爲ヲ防止スルニ必要ナル場合ニ於テ...

○家畜傳染病預防法

(昭和四年十二月二十三日) 勅令第四六二號

朕親裁シテ第三十六條ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ家畜傳染病預防法ヲ改訂スルニ之ヲ公布セシム...

第五條 主管部大臣傳染病預防上必要アリト認ムル場合ニ於テハ家畜ノ種類及地域ヲ指定シ所有者又ハ管理人ニ對シテ...

トキハ家畜防疫委員ヲシテ割檢ノ爲家畜ヲ殺サシムルコトヲ得...

第十七條 第二號地區ニ於テ飼養スル馬ニシテ鼻疽ニ罹リ又ハ腫リタル疑アルモノハ之ヲ其ノ地區以外ノ地ニ移住セシムルコトヲ得...

第二十一條 傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫、牛肺疫若ハ口蹄疫ニ感染シタル家畜ノ屍體及乳汁ハ所有者又ハ管理人ニ於テ...

第二十條 傳染病に罹り若し若しハ...

第二十一條 地方官署ハ...

第二十二條 地方官署ハ...

第二十三條 地方官署ハ...

第二十四條 地方官署ハ...

第二十五條 地方官署ハ...

第二十六條 地方官署ハ...

第二十七條 地方官署ハ...

第二十八條 地方官署ハ...

賽馬法

(大正二年五月五日)

鳥獸保護法

(大正三年十一月二日)

○貨幣法

(大正元年六月十一日) 敕令第二五號

改正 大正二年四月敕令第二二號
一 參議府ノ諮詢ヲ經テ貨幣法ヲ制定シ之ヲ公布施行セシム
二 參議府ノ諮詢ヲ經テ發行ノ權ハ政府ニ屬シ滿洲中央銀行ヲシテ之ヲ行ハシム
三 貨幣ノ計算ハ十進トシ一圓ノ十分ノ一ヲ角ト稱シ百分ノ一分ト稱シ千分ノ一ヲ厘ト稱ス
四 貨幣ノ種類ハ左ノ如クトス
紙幣 百圓 十圓 五圓 一圓 五角
白銅貨幣 一角 五分
青銅貨幣 一分 五厘
五 紙幣ハ其ノ額ニ制限ナク法貨トシテ通用ス備貨ハ其ノ額面ノ百倍迄法貨トシテ通用ス
六 備貨ノ品位量目ハ左ノ如シ
一 一角白銅貨幣 五公分
二 五分白銅貨幣 三、五公分
三 一分青銅貨幣 五公分
四 五厘青銅貨幣 三、五公分
七 貨幣ノ樣式並ニ製造發行權幣引換及銷却ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○滿洲中央銀行法

(大正元年六月十一日) 敕令第二六號

改正 廣德元年九月勅令第一一八號、四年二月第五號、六月第一四一號、五年七月第一六九號、七年二月第三四五號
一 參議府ノ諮詢ヲ經テ滿洲中央銀行法ヲ制定シ之ヲ公布施行セシム
二 滿洲中央銀行ハ株式會社トシ國內通貨ノ流通ヲ圖ルシ其ノ安定ヲ保持シ金融ヲ統制ス
三 滿洲中央銀行ハ總行ヲ新京ニ分行ヲ奉天 吉林 齊齊哈爾及哈爾濱ニ設置ス
四 滿洲中央銀行ハ政府ノ許可ヲ受ケ前項ノ分行ノ外重要地ニ分行又ハ支行ヲ設置シ若シ他ノ銀行ト代理店契約ヲ締結スルコトヲ得
五 政府ハ必要アリト認ムルトキハ分行支店又ハ代理店ノ設置ヲ命ズルコトヲ得
六 滿洲中央銀行ノ存立期間ハ設立認可ノ日ヨリ滿三十年トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ許可ヲ得テ之ヲ延長スルコトヲ得
七 滿洲中央銀行ノ資本ハ三千萬圓トシ之ヲ三十萬株ニ分テ一株ヲ百圓トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ許可ヲ得テ資本ノ增加ヲ爲スコトヲ得
八 滿洲中央銀行ノ株式ハ之ヲ數回ニ分割シテ募集スルコトヲ得
九 滿洲中央銀行ノ株式ハ總テ記名式トシ特ニ政府ノ許可ヲ受ケタル者ノ外株主タルコトヲ得ズ
十 滿洲中央銀行ノ株式發行ノ價額ハ券面額ヲ下ルコト

○貨幣法

(大正元年六月十一日) 敕令第二五號

改正 大正二年四月敕令第二二號
一 參議府ノ諮詢ヲ經テ貨幣法ヲ制定シ之ヲ公布施行セシム
二 參議府ノ諮詢ヲ經テ發行ノ權ハ政府ニ屬シ滿洲中央銀行ヲシテ之ヲ行ハシム
三 貨幣ノ計算ハ十進トシ一圓ノ十分ノ一ヲ角ト稱シ百分ノ一分ト稱シ千分ノ一ヲ厘ト稱ス
四 貨幣ノ種類ハ左ノ如クトス
紙幣 百圓 十圓 五圓 一圓 五角
白銅貨幣 一角 五分
青銅貨幣 一分 五厘
五 紙幣ハ其ノ額ニ制限ナク法貨トシテ通用ス備貨ハ其ノ額面ノ百倍迄法貨トシテ通用ス
六 備貨ノ品位量目ハ左ノ如シ
一 一角白銅貨幣 五公分
二 五分白銅貨幣 三、五公分
三 一分青銅貨幣 五公分
四 五厘青銅貨幣 三、五公分
七 貨幣ノ樣式並ニ製造發行權幣引換及銷却ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○滿洲中央銀行法

(大正元年六月十一日) 敕令第二六號

改正 廣德元年九月勅令第一一八號、四年二月第五號、六月第一四一號、五年七月第一六九號、七年二月第三四五號
一 參議府ノ諮詢ヲ經テ滿洲中央銀行法ヲ制定シ之ヲ公布施行セシム
二 滿洲中央銀行ハ株式會社トシ國內通貨ノ流通ヲ圖ルシ其ノ安定ヲ保持シ金融ヲ統制ス
三 滿洲中央銀行ハ總行ヲ新京ニ分行ヲ奉天 吉林 齊齊哈爾及哈爾濱ニ設置ス
四 滿洲中央銀行ハ政府ノ許可ヲ受ケ前項ノ分行ノ外重要地ニ分行又ハ支行ヲ設置シ若シ他ノ銀行ト代理店契約ヲ締結スルコトヲ得
五 政府ハ必要アリト認ムルトキハ分行支店又ハ代理店ノ設置ヲ命ズルコトヲ得
六 滿洲中央銀行ノ存立期間ハ設立認可ノ日ヨリ滿三十年トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ許可ヲ得テ之ヲ延長スルコトヲ得
七 滿洲中央銀行ノ資本ハ三千萬圓トシ之ヲ三十萬株ニ分テ一株ヲ百圓トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ許可ヲ得テ資本ノ增加ヲ爲スコトヲ得
八 滿洲中央銀行ノ株式ハ之ヲ數回ニ分割シテ募集スルコトヲ得
九 滿洲中央銀行ノ株式ハ總テ記名式トシ特ニ政府ノ許可ヲ受ケタル者ノ外株主タルコトヲ得ズ
十 滿洲中央銀行ノ株式發行ノ價額ハ券面額ヲ下ルコト

第三十八條 許可受取メシテ銀行業務ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第四條ノ規定ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ徒刑又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 公衆ヲ欺罔スル目的ヲ以テ銀行ノ業務ニ關シ虚偽ノ公告其ノ他ノ方法ニ依リ虚偽ノ宣傳ヲ爲シタル者

二 本法ニ依リ検査ニ際シ帳簿書類ノ隱蔽、不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ検査ヲ妨グ又ハ拒否シタル者

第四十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第五條第一項又ハ第九條乃至第十三條ノ規定ニ違反シタル者

二 本法ニ依リ銀行ニ債權ノ重クベキ書類ノ留附若ハ經濟部大臣ニ提出スベキ帳簿書類ノ提出ヲ怠リ又ハ之ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ之ニ不實ノ記載ヲ爲シタル者

三 本法ニ定ムル届出若ハ公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不實ノ届出ヲ爲シタル者

第四十二條 本法ニ基キテ發スル命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 第八條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ過料ニ處ス

第四十四條 法人ノ業務ヲ執行スル社員若ハ職員又ハ清算人法人ノ業務ニ關シ本法ノ罰則ニ觸ルル行為ヲ爲シタルトキハ其ノ者ヲ處罰ス

第三十七條第一項ノ營業所又ハ代理店ノ代表者其ノ營業所又ハ代理店ノ業務ニ關シ前項ノ行為ヲ爲シタルトキハ其ノ者ヲ處罰ス

法人又ハ第三十七條第一項ノ營業所又ハ代理店ノ使用人其ノ他ノ從業員第一項ノ行為ヲ爲シタルトキハ其ノ行為者及法人ノ業務ヲ執行スル社員若ハ職員、清算人又ハ第三十七條第一項ノ營業所又ハ代理店ノ代表者ヲ處罰ス

第四十五條 前條第三項ノ場合ニ於テ處罰ヲ受ケベキ社員若ハ職員、清算人又ハ代表者使用人其ノ他ノ從業員ノ爲シタル行為ヲ防止スル途ナカリシコトヲ證明シタルトキハ之ヲ罰セズ

第四十六條 銀行ガ本法ニ依リ爲スベキ公告ハ政府公報又ハ時事ニ關スル事項ヲ掲載スル日刊新聞紙ニ依ルベシ

第四十七條 本法ハ康徳六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十八條 大同二年敕令第八十六號銀行法ハ之ヲ廢止ス從前ノ規定ニ依リ營業ノ許可ヲ受ケタル銀行ハ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法ニ依リ許可ヲ受ケタル銀行ト看做ス

從前ノ規定ニ依リ爲シタル認可、處分其ノ他ノ行為ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第四十九條 前條第二項ノ銀行ノ資本金ニ付テハ本法施行後三年ヲ限リ第七條第一項ノ規定ヲ適用セズ前條第二項ノ銀行ガ合併ノ新ニ銀行ヲ設立シタル場合ニ於テ其ノ銀行ノ資本金ニ付テ亦同ジ

第五十條 經濟部大臣特ニ必要アリト認メ指定スル銀行ニハ當分ノ間第七條ノ規定ヲ適用セズ

第五十一條 本法施行ノ際現ニ銀行ニシテ其ノ商號中ニ銀行ナル文字ヲ用ヒザルモノ及銀行ニ非ズシテ其ノ商號中ニ銀行ナル文字ヲ示スベキ文字ヲ用フルモノハ本法施行後六月ヲ限リ引續キ其ノ名稱ヲ用フルコトヲ得

第五十二條 本法施行ノ際現ニ第九條ノ業務以外ノ業務ヲ營

銀行ハ本法施行後一年ヲ限リ其ノ業務ヲ繼續スルコトヲ得

第五十三條 本法施行ノ際現ニ預金預金若ハ定期預金ノ受入又ハ金銀信託ノ引受ヲ爲ス者ハ本法施行後三月以内ニ其ノ前項ノ届出ヲ爲シタル者ハ其ノ既ニ契約シタルモノニ限リ其ノ完了ニ至ル迄之ヲ繼續スルコトヲ得

第五十四條 本法施行ノ際現ニ銀行ノ業務ニ從事スル取締役又ハ支配人ニシテ前項ノ目的トシテ他ノ事業ノ業務ニ從事スル者ハ本法施行後三月以内ニ其ノ前項ノ經濟部大臣ニ届出ヲ得

前項ノ届出ヲ爲シタル者ハ本法施行後一年ヲ限リ引續キ其ノ事業ノ業務ニ從事スルコトヲ得

○商工金融合作社法

（昭和七年四月二十六日）
（勅令第七十六號）
（經濟部大臣）

第一章 總則

第一條 本法ハ市街地ニ於ケル商工業者ノ協同精神ヲ基調トスル社員ヲ設立シ社員ノ金融ニ關シテ其ノ福利ヲ増進シ以テ國家經濟ノ發展ニ資スルヲ以テ目的トス

第二條 本法ニ依リ設立スル社員ハ商工金融合作社（以下合作社ト稱ス）及商工金融合作社中央會（以下中央會ト稱ス）トス

第三條 合作社及中央會ハ之ヲ法人トス

第四條 合作社及中央會ハ其ノ業務ヲ行フコトヲ得

第五條 合作社及中央會ハ其ノ主事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第六條 合作社及中央會ノ住所ハ其ノ主事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

第七條 合作社及中央會ハ其ノ名稱中ニ商工金融合作社又ハ商工金融合作社中央會ナル文字ヲ用フベシ

第八條 合作社又ハ中央會ニ非ザル者ハ其ノ名稱中ニ商工金融合作社又ハ商工金融合作社中央會ナル文字ヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ズ

第九條 政府ハ警察ノ範圍内ニ於テ合作社及中央會ニ對シ其ノ業務上必要ナル經費ニ付助成ス

第八條 合作社及中央會ハ經濟部大臣之ヲ置留ス

第二章 合作社

第九條 合作社ノ社員ハ市街地ニ於ケル一定ノ區域内ニ於テ商工業ヲ營ム者ニ限ル

第十條 區域ハ定數ヲ以テ之ヲ定ムベシ合作社ハ必要アリト認ムルトキハ第一項以外ノ者ト雖モ其ノ區域ニ於テ獨立ノ生計ヲ營ム者ヲ其ノ社員ト爲スコトヲ得

第十一條 合作社ハ社員ノ數ヲ限定スルコトヲ得ズ

第十二條 社員ニ對シテ預金ノ貸付及手形ノ割引

一 社員ノ預金又ハ定期預金ノ受入

二 社員ノ預金又ハ定期預金ノ受入

第十三條 合作社ハ經濟部大臣ノ認可ヲ受ケ社員ニ非ザル者ヨリ預金又ハ定期預金ノ受入ヲ爲スコトヲ得

第十四條 合作社ハ經濟部大臣ノ認可ヲ受ケ他ノ合作社、銀行若ハ金融業者ノ業務ヲ代理シ又ハ銀行若ハ金融業者ノ業務ノ媒介ヲ爲スコトヲ得

第十五條 經濟部大臣ハ合作社設立委員ヲ任命シ合作社設立ノ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第十六條 設立委員ハ定數ヲ作成シ社員名簿ヲ添ヘ經濟部大臣ノ認可ヲ受ケベシ

第十七條 定數ニハ本法ニ規定スルモノノ外左ノ事項ヲ記載シ

一 目的

二 名稱

三 主事務所及分事務所ノ所在地

四 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

五 儲蓄金積立ノ方法

六 剩餘金ノ分配及積立ノ辦法ニ關スル規定
 七 社員ノ資格ニ關スル規定
 八 社員ノ加入及脱退ニ關スル規定
 九 業務ノ執行ニ關スル規定
 第十條 設立委員定款ノ認可ヲ受ケタルトキハ選出ナク其ノ社員タルベキ者ヲシテ第一回ノ拂込ヲ爲サシムベシ
 第十一條 設立委員ハ前條ノ拂込アリタルトキハ三週間以内ニ主事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ
 第十二條 前項ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スベシ
 一 目的
 二 名 稱
 三 區 域
 四 主事務所及分事務所
 五 出資一口ノ金額及其ノ拂込方法
 六 定款認可ノ年月日
 七 出資總口數及拂込總金額
 八 社長、理事、副理事及監事ノ氏名及住所
 九 合作社ハ設立ノ登記ヲ爲シタル後二週間以内ニ分事務所ノ所在地ニ於テ前項ニ掲グル事項ヲ登記スベシ
 第十條 設立委員ハ合作社ノ設立ノ登記ヲ爲シタルトキハ選出ナク其ノ事務所ヲ合作社ノ社長及理事ノ引渡スベシ
 第十一條 民法第四百七條乃至第五十一條ノ規定ハ合作社ノ登記ニ之ヲ準用ス但シ第十八條第二項第七號ニ掲グル事項ノ變更ノ登記ハ毎事業年度末現在ニ依リ其ノ年度終了後一月以内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スルヲ以テ足ル

第十二條 社員ノ加入ハ其ノ出資ニ付納額ヲ以テ合作社ニ對シテスルコトヲ爲ス
 第十三條 社員ハ合作社ノ承諾ヲ得ルニ非ザレバ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ズ
 第十四條 社員ニ非ザル者持分ヲ讓受ケントスルトキハ加入ノ例ニ依ルベシ
 第十五條 持分ノ讓受人ハ其ノ持分ニ付讓受人ノ權利義務ヲ承継ス
 第十六條 社員ノ持分ハ之ヲ共有スルコトヲ得ズ
 第十七條 社員ノ加入及脱退
 第十八條 社員トシテ加入シタル者ハ合作社ニ加入ノ申込ヲ爲シ其ノ承諾ヲ受ケルベシ
 第十九條 社員ハ事業年度ノ終ニ於テ脱退スルコトヲ得但シ三月以前ニ其ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス
 第二十條 社員ハ左ノ事由ニ因リテ脱退ス
 一 社員タル資格ノ喪失
 二 死亡
 三 破産
 四 禁治産
 五 除名
 第二十一條 死亡ニ依リ脱退シタル社員ノ相続人ハ加入ノ例ニ依リ被相続人ノ持分ヲ承継スルコトヲ得
 第二十二條 除名ノ事由ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムベシ
 第二十三條 脱退シタル社員ノ持分ハ脱退シタル事業年度ノ終ニ於ケル合作社ノ財産ニ依リ之ヲ定ム
 第二十四條 脱退シタル社員ハ合作社ニ對シテ前條ノ持分ノ讓渡ヲ請求スルコトヲ得但シ讓渡ヲ請求シ得ベキ額ガ拂込額及出資額ヲ超ニル場合ハ拂込額ヲ以テ限度トス

前項ノ讓渡ノ請求額ハ脱退シタル事業年度ノ終ヨリ二年前之ヲ行ハザルニ因リテ其ノ消滅時効完成ス
 第二十五條 合作社ハ第三十三條ノ規定ニ依リ脱退シタル社員ノ持分ヲ定ムルニ當リ其ノ財産ヲ以テ債務ヲ充實スルコト能ハザルトキハ脱退シタル社員ニ對シテ其ノ負債ニ關スベキ損失額ノ拂込ヲ請求スルコトヲ得
 第二十六條 合作社ハ脱退シタル社員ガ合作社ニ對スル債務ヲ充實スル迄ハ其ノ持分ノ讓渡ヲ停止スルコトヲ得
 第二十七條 合作社ニ社長、理事一人及監事二人以上ヲ置テ合作社ハ必要アル場合ニ於テハ經濟部大臣ノ認可ヲ受ケテ副理事ヲ置テコトヲ得
 第二十八條 社長ハ社員總會ニ於テ社員中ヨリ之ヲ選任シ經濟部大臣ノ認可ヲ受ケルベシ
 第二十九條 社員總會ニ於テ社員中ヨリ之ヲ選任ス
 第三十條 社員總會ハ第一項及前項ノ規定ニ拘ラズ社員中ヨリ經濟部大臣ノ委任ス
 第三十一條 社長、理事、監事、及ハ評議員ヲ置スルコトヲ得
 第三十二條 社長ノ任期ハ三年、監事ノ任期ハ二年トス但シ任期中ノ最後ノ決算期ニ關スル定時社員總會ノ終結ニ至ル迄其ノ任期ヲ延長ス
 第三十三條 社長ハ理事ト共同シテ合作社ヲ代表ス但シ合作社ノ業務ニ付テハ理事共ノ職務ヲ行フ
 第三十四條 社長ヲ輔佐シ合作社ノ業務ヲ執行ス
 第三十五條 理事ハ社長ノ定款ノ定ムル所ニ依リ理事中ノ一人其ノ職務ヲ行フ

理事ハ社長及理事ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ依リ合作社ノ業務ヲ執行ス
 第三十六條 監事ハ合作社ノ財産及業務執行ノ狀況ヲ監査ス
 第三十七條 監事ハ社長ノ執行ニ付不正又ハ不當ノ限アリト認ムルトキハ之ヲ經濟部大臣ニ具申スベシ
 第三十八條 社長、理事、副理事及監事ハ職責ニ且重責ニ違ヒ其ノ職務ヲ行フベシ
 第三十九條 合作社ト社長、理事又ハ副理事トノ間ニ於ケル契約又ハ訴訟ニ付テハ監事ハ代表ス
 第四十條 合作社ト代表ニ付テハ代理ニ關スル規定ニ從フ
 第四十一條 合作社ト社長、理事共他ノ代表者ガ職務ヲ行フニ付テハ加入タル損害ヲ賠償スル責任ニ任ズ
 第四十二條 合作社ノ業務ノ經營ヲ司ルニ關シテ社員總會ニ對シテ必要事項ニ付社長及理事ノ職務ノ範圍ニ關セシム
 第四十三條 社員總會ハ地方行政官署ノ官吏又ハ地方ノ團體アル者ノ中ヨリ經濟部大臣ノ任命又ハ委命ス
 第四十四條 社員總會ノ選出ナル執行ニ當ル合作社ニ評議員會ヲ置テ評議員會ハ評議員ヲ以テ之ヲ組織ス
 第四十五條 評議員ノ員數ハ五人トス但シ定款ヲ以テ其ノ員數ヲ増加スルコトヲ得
 第四十六條 評議員會ニ於テ社員中ヨリ之ヲ選任スベシ
 第四十七條 評議員ノ任期ハ定款ヲ以テ別段ノ定メタル場合ヲ除ク外之ヲ一年トス
 第四十八條 評議員會ハ本法及定款ニ定ムル事項ヲ評議ス
 第四十九條 評議員會ハ本法及定款ニ定ムル事項ヲ評議ス
 第五十條 評議員會ハ本法及定款ニ定ムル事項ヲ評議ス

第五十一條 定時社員總會ハ毎年一回定款ニ定ムル時期ニ於テ社長ノ招請ヲ受ケルベシ
 第五十二條 臨時社員總會ハ社長必要アリト認ムルトキ之ヲ招請ス
 第五十三條 社員ハ社員ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ目的及理由ヲ記載シタル書面ヲ以テ社長ニ對シテ臨時社員總會ノ招請ヲ請求スルコトヲ得
 第五十四條 社員ハ社員ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ目的及理由ヲ記載シタル書面ヲ以テ一月以内ニ社長ガ社員總會招請ノ手續ヲ履行スルコトヲ得
 第五十五條 社員總會ハ社員總會ノ召集スルニ當リ十日以前ニ各社員ニ對シテ社員總會ノ目的タル事項ヲ記載シタル通知ヲ發スベシ
 第五十六條 社員總會ハ社員總會ノ議長トシテ社長ヲ選出ス
 第五十七條 社員總會ニ於テハ招請ノ通知ニ記載シタル事項ニ付テハ決議ヲ爲スベシ
 第五十八條 社員總會ノ決議ハ定款ニ別段ノ定ムル場合ヲ除ク外出席シタル社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲シ得ベシ
 第五十九條 社員總會ニ於ケル社員ノ議決權ハ平等トス
 第六十條 社員總會ニ於テハ社員又ハ評議員ノ議決權ヲ行使スルコトヲ得但シ代理人ハ社員又ハ評議員ノ議決權ヲ行使スル前項ノ場合ニ於テハ代理人ハ代理權ヲ證明スル書面ヲ合作社ニ提出スベシ
 第六十一條 社員總會ニ於テ合作社ト社員トノ關係ニ付決議ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ社員ハ議決權ヲ有セズ
 第六十二條 社員總會ノ議事ニ付テハ議決權ヲ作成スベシ議事録ニハ議事ノ経過及結果ヲ記載シ議長及出席シタル理事及監事ノ署名スベシ
 第六十三條 社員總會招請ノ手續又ハ其ノ決議ノ方法若シテ本法又ハ定款ノ規定ニ違反シタルトキハ社長、理事、副理事、監事

又ハ社員ハ其ノ決議ノ日ヨリ一月以内ニ其ノ決議ノ取消ヲ經濟部大臣ニ申請スルコトヲ得
 第六十四條 合作社ハ定款ノ定ムル所ニ依リ社員總會ニ代ルベキ社員代表會ヲ設ケルコトヲ得
 第六十五條 社員代表會ニ於テハ定款ニ社員代表ノ員數、選任ノ方法及び任期ニ關スル規定ヲ設ケルベシ
 第六十六條 社員代表會ノ規定ハ第五十九條ノ規定ヲ除ク外社員總會ニ之ヲ準用ス
 第六十七條 社長及理事ハ定時社員總會ノ會日ヨリ一週間以前ニ財務目録、負債對照表、損益計算書、事業報告書及剩餘金分配案ヲ監事ニ提出スベシ
 第六十八條 社長及理事ハ前條ノ書類及之ニ關スル監事ノ意見書ヲ定時社員總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムベシ
 第六十九條 社長及理事ノ承認ヲ得タルトキハ二週間以内ニ當該書類ヲ經濟部大臣ニ提出シ且該書類對照表ヲ公告スベシ
 第七十條 定款ノ變更ハ社員總會ノ決議ヲ經テ社長及監事大臣ノ認可ヲ受ケルベシ
 第七十一條 社長ハ定款、社員總會ノ議事録、社員名簿及第六十四條ノ書類ヲ主事務所ニ備ヘ置クベシ
 第七十二條 社員及合作社ノ債權者ハ前項ノ書類ヲ閲覧ヲ請求スルコトヲ得
 第七十三條 社員名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
 一 氏名及住所
 二 出資口數
 三 出資各口ニ付拂込ミタル金額及其ノ拂込年月日
 四 持分ノ讓受人ハ承継ノ年月日
 第七十四條 合作社ノ事業年度ハ一年トス
 第七十五條 合作社ハ社員ニ非ザル者ヨリ受入レタル預金及定期預金ノ總額ノ五分ノ一以上ノ金額ヲ積立準備金トシテ經濟部大臣ノ定ムル所ニ依リ管理スベシ

前項ノ金額ハ毎年四月末日及十月末日現在ノ受入總額ニ依リ之ヲ定ム

第一項ノ預金ヲ爲シタル者及定期預金ニ對スル給付金ノ償還者ハ其ノ預金及給付金ニ關シ第一項ノ擔保準備金ノ上ニ償還ス

第七十一條 債務金ハ中央會ニ預入スルノ外之ヲ運用スルコトヲ得ズ但シ經濟部大臣ノ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七十二條 合作社ガ出資一口ノ金額ノ減少ニ關スル定款變更ノ認可ヲ受ケタルトキハ二週間以内ニ償還對照表及財産目録ヲ作成スベシ合作社ハ前項ノ期間内ニ其ノ償還者ニ對シ異議アラバ一定ノ期間内ニ之ヲ述ブベキ旨ヲ公告シ且知レタル債權者ニハ各別ニ之ヲ報告スベシ但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ズ

第七十三條 債權者ガ前條第二項ノ期間内ニ出資ノ減少ニ對シテ異議ヲ述ベザリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス債權者ガ異議ヲ述ベタルトキハ合作社ハ之ニ對シテ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非ザレバ出資一口ノ金額ヲ減少スルコトヲ得ズ

第七十四條 合作社ガ其ノ社員ニ對シテ爲ス通知又ハ催告ハ社員名簿ニ記載シタル住所ニ宛テ行フルヲ以テ足ル前項ノ通知又ハ催告ハ通常到達スベカリシ日ニ到達シタルモノト看做ス

第七十五條 合作社ノ公告ノ方法ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第七十六條 合作社ハ損失ヲ補填シタル後ニ其ノ未償還ノ預金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ズ

第七十七條 合作社ハ準備金トシテ毎年年度ノ剩餘金ノ四分ノ一以上ヲ積立ツベシ

前項ノ準備金ハ償還ノ補填ニ充テラレ得ル外經濟部大臣ノ認可ヲ受ケタルニ非ザレバ之ヲ處分スルコトヲ得ズ

第七十八條 剩餘金ノ配當ハ年七分ノ割合ヲ超ユルコトヲ得ズ社員ガ其ノ出資ノ總額ヲ終ル迄ハ之ニ配當スベキ剩餘金ハ其

ノ總額ニ充ツベシ

第七十九條 第七十七條ノ準備金ヲ積立テ且前條ノ配當ヲ爲シ向剩餘金アル場合ハ其ノ過分ニ付テハ經濟部大臣ノ定ム

第八十條 合作社ハ社員ノ持分ヲ取得シ又ハ償還ノ目的トシテ之ヲ受ケタルコトヲ得ズ

第六節 監 督

第八十一條 經濟部大臣ハ何時ニテモ合作社ニ對シ其ノ業務、財産ノ狀況其ノ他必要ナル事項ニ關シ報告ヲ爲サシメ所屬ノ官吏ヲシテ其ノ業務、財産其ノ他ノ狀況ヲ検査セシメ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第八十二條 經濟部大臣ハ合作社ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ其ノ業務ヲ停止シ命ジ又ハ合作社ヲ解散スルコトヲ得

第八十三條 經濟部大臣ハ社員總會ノ決議方法若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ其ノ決議ヲ取消スコトヲ得

第八十四條 經濟部大臣ハ社長、理事、副理事、監事又ハ清算人ノ行爲ガ法令、定款若ハ本法ニ依リ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ之ヲ解任スルコトヲ得

第七節 合併、解散及清算

第八十五條 合作社ガ合併ヲ爲サントスルトキハ合併契約ヲ爲シ社員總會ノ決議ヲ經テ經濟部大臣ノ認可ヲ受テ得

第七十二條及第七十三條ノ規定ハ前項ノ認可ニ依リテ適用ス

第八十六條 第十四條乃至第十六條ノ規定ハ合併ニ因リテ合作社ヲ設立スル場合ニ之ヲ適用ス但シ定款ノ認可申請ニハ社員名簿ヲ添附スルヲ要セズ

第八十七條 合作社ガ合併ヲ爲シタルトキハ三週間以内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ合併後存続スル合作社ニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ合併ニ因リテ消滅スル合作社ニ付テハ解散ノ登記ヲ

爲シ合併ニ因リテ設立スル合作社ニ付テハ設立ノ登記ヲ爲スベシ

第八十八條 合作社ノ合併ハ合併後存続スル合作社又ハ合併ニ因リテ設立スル合作社ガ其ノ主事務所ノ所在地ニ於テ合併ノ登記ヲ爲スニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ

第八十九條 合併後存続スル合作社又ハ合併ニ因リテ設立スル合作社ハ合併ガ效力ヲ生ジタル時ニ合併ニ因リテ消滅シタル合作社ノ權利義務ヲ承継ス

第九十條 合作社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一 合併

二 破産

三 社員ノ死亡

四 經濟部大臣ノ解散命令

第九十一條 合作社ガ解散シタルトキハ合併又ハ破産ニ因ル場合ヲ除ク外清算ヲ爲スベシ

第九十二條 清算人ハ經濟部大臣ノ任命ス

第九十三條 清算人ハ其ノ職務ノ範圍内ニ於テ社長及理事ト同ノ權利ヲ有シ義務ヲ負フ

第九十四條 清算人ハ任命後速ニ於テ合作社ノ清算ニ關スル財産ノ狀況ヲ調査シ貸借對照表及財産目録ヲ作成シテ社員總會ノ承認ヲ求ムベシ

第九十五條 清算事務ガ終了タルトキハ清算人ハ速ニ於テ清算報告ヲ作成シテ社員總會ノ承認ヲ求ムベシ

第九十六條 民法第七十七條、第七十八條、第八十二條及第八十四條乃至第九十一條ノ規定ハ合作社ノ清算ニ之ヲ適用ス

第三章 中央會

第九十七條 合作社ハ中央會ノ會員トス

第九十八條 會員ハ一口以上出資スルコトヲ要ス出資一口ノ金額ハ千圓トス

第九十九條 中央會ハ左ノ業務ヲ行フ

一 會員ノ指導及便宜ノ供與

二 會員ニ對スル資金ノ貸付及手形ノ引

三 會員ノ預金ノ受入

四 會員ノ爲ニスル爲替取引

五 會員ノ職員ノ養成及訓練

六 合作社ノ普及及發達ニ必要ナル調査及研究

七 特ニ經濟部大臣ヨリ命ゼラレタル業務

八 前各條ノ外經濟部大臣ノ認可ヲ受ケタル業務

第四節 中央會ノ業務ヲ監督スルコトヲ得

第一百條 中央會ニ理事長、副理事長一人、理事三人以内及監事二人以内ヲ置ク

理事長及副理事長ノ任期ハ四年、理事ノ任期ハ三年、監事ノ任期ハ二年トス

中央會ハ理事長、副理事長及理事ニ對シ經濟部大臣ノ指定スル報稱及手形ヲ支給スベシ

第五節 理事、副理事、監事ノ職務

第一百零一條 理事長、副理事長及理事ハ經濟部大臣ノ任命スルシ設立ノ當時ノ理事ハ經濟部大臣ノ任命ス

第一百零二條 理事長ハ中央會ヲ代表シ其ノ業務ヲ行ハス

第一百零三條 理事長ハ中央會ノ代表シ其ノ業務ヲ行ハス

理事長及副理事アルトキハ副理事長其ノ職務ヲ行ヒ理事長及副理事長共ニ事務アルトキハ理事中ノ一人理事長ノ職務ヲ行フ

副理事長及理事ハ理事長ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ依リ中央會ノ業務ヲ行ハス

第一百零四條 中央會ノ財産及業務執行ノ狀況ヲ監査ス

第一百零五條 中央會ニ參與ヲ經キ重要事項ニ付理事長ノ請同ニ應ゼシム

參與ハ關係各部局ノ高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ經濟部大臣ノ任命又ハ委嘱ス

第一百零六條 社員總會ヲ召集スルニハ會日ヨリ三週間以前各會

員ニ對シ會議ノ目的タル事項ヲ記載シタル招集ノ通知ヲ發スベシ

第一百零七條 中央會ハ左ノ方法ニ依リノ外餘額金ヲ運用スルコトヲ得ズ

一 貯蓄部又ハ經濟部大臣ノ指定スル銀行其ノ他ノ者ニ對スル預入又ハ貸付

二 國債其ノ他經濟部大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ノ買入、應募又ハ引受

第一百零八條 會員ハ其ノ解散ニ因リテ脱退ス

第一百零九條 第十四條乃至第二十條、第二十三條、第二十四條、第二十五條第一項、第二十六條、第二十七條、第三十三條乃至第三十六條、第三十八條第五項、第三十九條但書、第四十一條第二項、第四十二條乃至第四十五條、第五十條乃至第五十三條、第五十五條乃至第五十八條、第六十條乃至第六十二條、第六十四條乃至第六十九條、第七十二條乃至第八十一條、第八十三條及第八十四條ノ規定ハ中央會ニ之ヲ適用ス

第四章 罰 則

第一百一十條 合作社ハ社長、理事、副理事、監事若ハ清算人又ハ中央會ノ理事長、副理事長、理事若ハ監事左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五百圓以上三百圓以下ノ過料ニ處ス但シ其ノ行爲ニ付刑ヲ科スベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 本法ニ定ムタル認可ヲ受ケベキ場合ニ之ヲ受ケザルトキ

二 本法ニ定ムタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

三 本法ノ規定ニ依リ命令又ハ處分ニ從ハザルトキ

四 本法ノ規定ニ依リ招集スベキ社員總會ノ招集ヲ怠リ社員總會ノ承認ヲ求ムベキ事項ニ付其ノ承認ヲ求ムルコトヲ怠リ又ハ社員總會ニ對シ不實ノ申請ヲ爲シ若ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

五 債權者ガ異議ヲ述ベタルニ拘ラズ本法ノ規定ニ違反シ出資一口ノ金額ヲ減少シ又ハ合併ヲ爲シタルトキ

六 本法ノ規定ニ依リ官吏ノ検査若ハ中央會ノ監査ヲ拒ミ又ハ其ノ検査若ハ監査ヲ行フ者ニ對シ不實ノ申請ヲ爲シ若ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

七 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ定ムタル公告、報告、提出、催告若ハ具申ヲ爲シタルトキ

八 本法ノ規定ニ依リ監事ニ提出スベキ書類ノ提出ヲ怠リタルトキ

九 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ定ムタル書類ノ備附ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ

十 本法ノ規定ニ違反シテ餘額金ヲ運用シタルトキ

十一 本法ニ定ムタル擔保準備金ノ準備ヲ爲サズ又本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ從ヒテ之ヲ管理セザルトキ

十二 本法ノ規定ニ違反シテ剩餘金ノ處分ヲ爲シタルトキ

十三 本法ノ規定ニ違反シテ準備金ノ積立ヲ爲サズ又ハ之ヲ處分シタルトキ

第十四 合作社又ハ中央會ノ目的タル業務ノ範圍外ニ於ケル事業ヲ營ミタルトキ

第一百十一條 第六條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ過料ニ處ス

第一百十二條 本法ハ昭和七年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一百十三條 金融合作社法ハ之ヲ廢止ス

第十條 本法施行ノ際ニ存スル金融合作社、金融會及金融組合ノ中經濟部大臣ノ指定スルモノハ、本法施行ノ日ヨリ合作社ト爲ス

興農合作社法

（昭和七年三月二十三日）
（勅令第四十二號）

農組法第三十六條ニ依リ農務省ノ請願ヲ經テ興農合作社法ヲ制定シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則
第一條 本法ハ農家ノ協同精神ヲ基調トスル社團ヲ設立シ農事ノ改良發達ヲ圖リ農家ノ福利ヲ増進シ以テ國家經濟ノ發展ニ資セシムルヲ目的トス

對シ其ノ業務上必要ナル經費ニ付助成ス
第八條 合作社、聯合會及中央會ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外主務部大臣ノ之ヲ監督ス

第二章 合作社
第十條 合作社ハ社員ノ協同ニ依リ農事ノ改良發達ヲ圖リ其ノ福利ヲ増進スルヲ以テ目的トス

第十七條 合作社ハ其ノ目的達成上社員ノ爲ニ左ノ業務ヲ行フ
一 農事ノ共同ニ關スル業務
二 農事及生活ニ必要ナル資金ノ貸付及貯蓄ノ受入ニ關スル業務

ニ主事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ前項ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スベシ
一 目的
二 名稱
三 區域
四 主事務所及分事務所
五 定款認可ノ年月日

トツテ
興農會ハ會員ノ相扶協同ヲ強化シ合作社ト會員トノ關係ヲ緊密ナラシムルヲ以テ目的トス
第十一條 興農會ニ關シ本法ニ規定スルモノノ外必要ナル事項ハ主務部大臣ノ之ヲ定ム

其ノ職務ヲ行フベシ
 第三十八條 合作社ト社長、理事長又ハ理事トノ間ニ於ケル契約又ハ訴訟ニ付テハ監事合作社ヲ代表ス
 第三十九條 合作社ト代表ニ付テハ代理ニ關スル規定ニ從テ付他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ズ
 第四十條 合作社ト地方行政官署及協和會トノ連絡ヲ圖リ合作社ノ業務ノ運轉ヲ圓滑ナラシムル爲メニ協同シテ事務ヲ行フベシ
 第四十一條 社長ハ左ノ事項ヲ審判シ審議ニ付スベシ
 一 定款ノ變更
 二 事業計畫及經費算
 三 興業會ノ設置計畫
 四 社員代表ノ選出
 五 財産目録、貸借對照表、損益計算書、事業報告書及別帳金處分案
 六 合併又ハ分割
 七 前各條ノ外認可ヲ受ケベキ事項其ノ他社長ニ於テ重要ト認ムル事項
 第四十二條 業務ノ適切ナル運行ニ資スル爲メ合作社ニ協同會ヲ組織シハ社員代表ヲ以テ之ヲ組織シ社長ノ附屬シタル事項ヲ協議ス
 社員代表ハ社員ノ意思ヲ代表スルニ適スル者ノ中ヨリ社長之ヲ選出ス
 第四十三條 社長ハ少クモ毎年一回協同會ヲ開クベシ

第四十六條 社長ハ左ノ事項ヲ協同會ニ附屬スベシ
 一 定款ノ變更
 二 業務計畫及經費算
 三 興業會ノ設置計畫
 四 社員代表ノ選出
 五 前各條ノ外必要ト認ムル事項
 第四十七條 社長ハ前年度ノ事業報告ヲ協同會ニ報告スベシ
 第四十八條 合作社ノ事業年度ハ一年トス
 第四十九條 合作社ハ事業年度ノ事業計畫及經費算ニ付主計官大臣ノ認可ヲ受ケベシ之ヲ變更セントスルコトキ亦同ジ
 第五十條 合作社ハ貯金總額ノ五分ノ一以上ノ金額ヲ積立準備金トシテ主計官大臣ノ定ムル所ニ依リ管理スベシ
 前項ノ金額ハ毎年四月末日及十月末日現在ノ貯金總額ニ依リ之ヲ定ム
 合作社ノ貯金積立者ハ第一項ノ積立準備金ノ上ニ積立ヲ有ス
 第五十一條 社長ハ事業年度終了後二月以内ニ財産目録、貸借對照表、損益計算書、事業報告書及別帳金處分案ヲ作成シ監事ノ意見書ヲ附シテ主計官大臣ニ之ヲ提出シ其ノ認可ヲ受ケルベシ
 第五十二條 合作社ノ事業年度ノ剩餘金ノ準備金トシテ全額之ヲ積立ラベシ但シ主計官大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 前項ノ準備金ハ積立ノ準備金ニ充テラレ得ル外主計官大臣ノ認可ヲ受ケタルニ非ザレバ之ヲ處分スルコトヲ得ズ
 第五十三條 社長ハ定款、社員名簿及第五十一條ノ書類ヲ主事官大臣ニ提出シ社員及債權者ノ閲覧ニ供スベシ
 第六十條 監事
 第六十一條 主計官大臣、省長、新設特別市長、市長、縣長又ハ市長ハ何時ニテモ社長、理事長、理事又ハ清算人ヲシテ合作社

作社ノ業務、財産、清算事務其ノ他必要ナル事項ニ關スル報告ヲ爲サシメ業務、財産、清算事務其ノ他ノ狀況ヲ検査シ其ノ他報告上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得
 第五十五條 主計官大臣ハ合作社ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ其ノ業務ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ其ノ業務ヲ停止シ又ハ合作社ヲ解散スルコトヲ得
 第七節 合併、分割、解散及清算
 第五十六條 合作社合併ヲ爲サントスルコトキハ合併契約ヲ爲シ主計官大臣ノ認可ヲ受ケルベシ
 合作社合併ヲ爲サントスルコトキハ合併後設立スル合作社ガ資本額及利益額ノ範圍ヲ定メ主計官大臣ノ認可ヲ受ケルベシ
 第五十七條 第二十二條乃至第二十二條ノ規定ハ合併又ハ分割ニ因リテ設立スル合作社ニ之ヲ準用ス但シ定款ノ認可申請ニハ社員名簿ヲ添付スルヲ要セズ
 第五十八條 合作社ガ合併又ハ分割ヲ爲シタルトキハ定款ノ認可又ハ定款ノ變更ノ認可ヲ受ケタル日ヨリ三個月以内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ合併後存続スル合作社ニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ合併又ハ分割ニ因リテ消滅スル合作社ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ合併又ハ分割ニ因リテ設立スル合作社ニ付テハ設立ノ登記ヲ爲スベシ
 第五十九條 合作社ノ合併又ハ分割ハ合併後存続スル合作社又ハ合併前ニ於テ前條ノ登記ヲ爲スニ因リテ其ノ效力ヲ生ズ
 第六十條 合併後存続スル合作社又ハ合併ニ因リテ設立スル合作社ハ合併前ノ效力ヲ生ズ
 第六十一條 分割ニ因リテ設立スル合作社ハ分割前ノ效力ヲ生ズ
 第六十二條 第五十六條第二項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル範圍ニ於テ分割ニ因リテ消滅シタル合作社ノ權利義務ヲ承継ス
 第六十三條 合作社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一 合併
 二 分割
 三 解散
 四 社員ノ死亡
 五 主計官大臣ノ解散處分
 第六十四條 合作社解散シタルトキハ合併、分割又ハ破産ニ因リて消滅スル外清算ヲ爲スベシ
 第六十五條 清算人ハ主計官大臣ノ指定スル報應及手當ヲ支給スベシ
 第六十六條 清算人ハ其ノ職務ノ範圍内ニ於テ社長及理事長ト同一ノ權利ヲ有シ義務ヲ負フ
 第六十七條 民法第五十一條、第七十八條、第八十二條及第八十四條乃至第九十一條ノ規定ハ合作社ノ清算ニ之ヲ準用ス
 第六十八條 清算後ノ剩餘財産ハ中央會ニ歸屬ス
 第三章 聯合會
 第六十九條 聯合會ハ合作社ノ普及及發達ヲ圖リ會員相互間及會員ト中央會トノ間ノ連絡ヲ緊密ニシ會員ノ業務ノ進行ヲ圓滑通止ナラシムルヲ以テ目的トス
 第七十條 聯合會ノ區域ハ省ノ區域ニ依ル
 第七十一條 聯合會ノ區域内ノ合作社ハ聯合會ノ會員トス
 一 會員ノ選舉及便宜ノ供與ニ關スル業務
 二 會員ノ行フ業務ノ仲立又ハ取次ニ關スル業務
 三 中央會ノ行フ金融業務ノ代理ニ關スル業務
 四 會員ノ職員ノ訓練ニ關スル業務
 五 中央會ノ委託ヲ受ケタル業務
 六 前各條ノ外主計官大臣ノ認可ヲ受ケタル業務
 第七十二條 聯合會ニ會長、理事長、理事三人以内及監事二人以内ヲ選ブ
 會長ハ省長ノ職ニ在ル者ニ付主計官大臣之ヲ任命ス

第七十三條 第十四條乃至第十六條、第二十條乃至第二十六條、第二十九條、第三十三條第二項、第三十四條第二項乃至第四項、第四十五條乃至第四十九條、第五十一條乃至第六十七條ノ規定ハ聯合會ニ之ヲ準用ス但シ協同會ニ關シ社員代表トアルハ會員トス
 第七十四條 中央會
 第七十五條 中央會ハ合作社及聯合會ノ普及及發達ヲ圖リ會員相互間ノ連絡ヲ緊密ニシ其ノ業務ノ進行ヲ圓滑通止ナラシムルヲ以テ目的トス
 第七十六條 中央會ハ其ノ目的ヲ達成スル爲メ左ノ業務ヲ行フ
 一 會員ノ選舉及便宜ノ供與ニ關スル業務
 二 會員ノ行フ業務ノ仲立又ハ取次ニ關スル業務
 三 中央會ノ行フ金融業務ノ代理ニ關スル業務
 四 會員ノ職員ノ訓練ニ關スル業務
 五 中央會ノ委託ヲ受ケタル業務
 六 前各條ノ外主計官大臣ノ認可ヲ受ケタル業務
 第七十七條 中央會ハ主計官大臣ノ認可ヲ受ケ會員ニ非ザル者ヨリ預金ノ受入ヲ爲スコトヲ得
 第七十八條 中央會ハ會員ノ業務ヲ監査スルコトヲ得
 第七十九條 中央會ノ基本金ハ三千萬圓トシ政府之ヲ出捐ス
 第八十條 定款ニハ本法ニ規定スルモノノ外左ノ事項ヲ記載シ設立委員之ニ署名スベシ
 一 目的
 二 名稱
 三 基本金
 四 主事務所及分事務所ノ所在地
 五 業務ノ執行ニ關スル事項

第八十一條 設立委員定款ノ認可ヲ受ケタルトキハ三個月以内ニ主事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ
 前項ノ登記ニ在リテハ左ノ事項ヲ登記スベシ
 一 目的
 二 名稱
 三 基本金
 四 主事務所及分事務所
 五 定款認可ノ年月日
 第六十二條 副理事長、理事及監事ノ氏名及住所
 第六十三條 中央會ニ理事長、副理事長二人、理事六人以内及監事三人以内ヲ選キ國務總理大臣之ヲ任命ス
 理事長、副理事長及理事ノ任期ハ四年理事ノ任期ハ二年トス
 中央會ハ理事長、副理事長、理事及監事ニ對シ主計官大臣ノ指定スル報應及手當ヲ支給スベシ
 第六十四條 理事長ハ中央會ヲ代表シ其ノ業務ヲ經理ス
 理事長事故アルトキハ副理事長中ノ一人其ノ職務ヲ行ヒ理事長及副理事長共ニ事故アルトキハ理事中ノ一人理事長ノ職務ヲ行フ
 第六十五條 副理事長ハ理事長ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ依リ中央會ノ業務ヲ管理ス
 第六十六條 中央會ニ職員ヲ選ブ
 職員ハ理事長ノ諮問ニ應ジ中央會ノ重要事項ヲ審議ス
 職員ハ國務總理大臣ノ高擧官、協和會ノ職員及學識經驗アル者ノ中ヨリ國務總理大臣之ヲ任命又ハ委命ス
 第六十七條 中央會ニ協同會ヲ設ケ
 協同會ハ中央會ノ指定スル會員ヲ以テ組織シ理事長ノ必要ト認ムル事項ヲ審議ス
 第六十八條 中央會ハ左ノ方法ニ依リ外債積立ヲ運用スルコトヲ得ズ

諸法 農畜合作社法

一 貯蓄部又は主管部大臣ノ指定スル銀行ニ對スル預入... 二 國債其ノ他主管部大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ノ買入... 第八十七條 主管部大臣ハ理事長、副理事長、理事又ハ監事ノ行為ヲ法令定款若ハ本法ニ依リ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害ス...

第五節 罰則

第九十條 合作社ノ社長、理事長、理事、監事若ハ清算人、聯合會ノ會長、理事長、理事、監事若ハ清算人又ハ中央會ノ理事長、副理事長、理事若ハ監事何等ノ名義ヲ以テスルヲ同ハズ...

○無盡業法

(廣徳三年九月五日勅令第一四〇號)

改正 廣徳四年六月勅令第一四一號、十一月第三六三號... 第一條 本法ニ於テ無盡業ト稱スルハ一定ノ口數ト給付金額ト...

諸法 無盡業法

爲サズハ處罰ノ報告ヲ爲シ又ハ其ノ検査ヲ拒ミタルトキ... 第九十三條 本法ハ廣徳七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス...

第九十六條 前二條ノ規定ニ依リ解散シタル金融合作社、金融聯合會、金融合作社聯合會及金融聯合會ノ解散ノ登記ハ經濟部大臣ノ通知ニ依リ登記簿其ノ登記ヲ爲ス...

二 事業方法又ハ無盡業約款ヲ變更セントスルトキ... 第九十條 合作社ノ社長、理事長、理事、監事若ハ清算人、聯合會ノ會長、理事長、理事、監事若ハ清算人又ハ中央會ノ理事長...

第十條 無盡業社ハ其ノ營業年度毎ニ業務報告ヲ作成シテ之ヲ經濟部大臣ニ提出スベシ... 第二十四條 經濟部大臣ハ何時ニテモ當該官吏ニ命ジテ無盡業社ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査セシムルコトヲ得...

第二十六條 無盡業社が法令、定款若ハ經濟部大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ經濟部大臣ハ業務ノ停止若ハ取締役、監査役ノ改任ヲ命ジ又ハ營業ノ許可ヲ取消スコトヲ得

無盡業社ノ取締役、監査役又ハ支配人ガ法令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ經濟部大臣ハ之ガ改任ヲ命ズルコトヲ得

第二十七條 經濟部大臣ハ業務ノ停止ヲ命ゼラレタル無盡業社ニ對シテ其ノ整理ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ營業ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第二十八條 無盡業ノ廢止又ハ無盡業社ノ解散ノ決議ハ經濟部大臣ノ認可ヲ受ケタルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第二十九條 無盡業社ガ其ノ目的ヲ變更シ他ノ業務ヲ營ム會社トシテ存続スル場合ニ於テハ經濟部大臣ハ其ノ會社ガ債金者ニ對シテ債務ヲ完済スルニ至ル迄財産ノ提存ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得合併ニ因リ無盡業社ニ非ザル會社ガ無盡業社ノ債金者ニ對シテ債務ヲ承継シタル場合亦同ジ

第三十條 無盡業社ガ營業ノ許可ヲ取消シタルトキハ之ニ因リテ解散ス

第三十一條 無盡業社ノ清算人ハ經濟部大臣之ヲ任ズ

第三十二條 經濟部大臣ハ何時ニテモ該清算人ニ命ジテ無盡業社ノ清算事務及財産ノ狀況ヲ検査セシメ財産ノ提存ヲ命ジ其ノ他清算ノ監督ニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 無盡業社ノ清算終了シタルトキハ清算人ハ還滯ナク書面ヲ以テ其ノ期末ヲ經濟部大臣ニ報告スベシ

第三十四條 營業トシテ無盡業ノ管理ヲ爲スハ之ヲ無盡業ト看

第三十五條 許可ヲ受ケズシテ無盡業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第六條、第十條又ハ第十二條ノ規定ニ違反シタル者

二 第二十五條又ハ第二十六條第一項ノ規定ニ依リ業務停止命令ニ違反シタル者

三 定款ニ定ムル營業區域外ニ於テ營業ヲ爲シタル者

第三十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第八條、第九條、第十三條又ハ第十五條ノ規定ニ違反シタル者

二 第十七條、第十九條、第二十三條又ハ第三十三條ノ規定ニ依リ無盡業社ニ備ヘ置クベキ書類ノ備付又ハ經濟部大臣ニ提出スベキ書類ノ提出ヲ怠リ又ハ之ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不實ノ記載ヲ爲シタル者

三 第十八條ノ規定ニ依リ公告ヲ爲スベキ場合ニ於テ之ヲ怠リ又ハ虚偽ノ公告ヲ爲シタル者

四 第二十四條若ハ第三十二條ノ規定ニ依リ當該官吏ノ職務ノ執行ヲ阻礙シ又ハ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ答辯ヲ爲シタル者

五 前條第二號ノ外第二十五條又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ命令ニ違反シタル者

六 第二十九條又ハ第三十二條ノ規定ニ依リ命令ニ違反シタル者

第三十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十條ノ規定ニ違反シタル者

二 無盡業社ノ業務ニ關シ廣告其ノ他ノ方法ヲ以テ時大又ハ虚偽ノ宣傳ヲ爲シタル者

第三十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ過料ニ處ス

一 第五條第二項ノ規定ニ違反シタル者

二 正當ノ理由ナクテ第二十一條ノ規定ニ依リ説明書ノ交付ヲ拒ミ又ハ不實ノ説明書ヲ交付シタル者

第四十條 使用人其ノ他ノ従業員使用主ノ業務ニ關シ本法ノ規則ニ觸ルル行爲ヲ爲シタルトキハ該行爲者ヲ罰スルノ外使用主ヲモ處罰ス但シ使用主心神喪失者又ハ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス

第四十一條 法人ノ使用人其ノ他ノ従業員法人ノ業務ニ關シ本法ノ規則ニ觸ルル行爲ヲ爲シタルトキハ該行爲者ヲ罰スルノ外法人ノ業務ヲ執行スル職員又ハ社員ヲモ處罰ス法人ノ業務ヲ執行スル職員又ハ社員前項ノ行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ職員又ハ社員ヲ處罰ス

第四十二條 第四十條又ハ前條第一項ノ場合ニ於テ處罰ヲ受ケベキ使用主、法定代理人、職員又ハ社員當該違反行爲ヲ防止スルニ途ナカリシコトヲ證明シタルトキハ之ヲ罰セズ

附則

第四十三條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十四條 日本帝國領事官ノ認可ヲ受ケタル無盡業社ニテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ經濟部大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨届出ヲ爲シタルトキハ本法ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第四十四條ノ二 滿洲帝國駐劄大日本帝國特命全權大使ノ宛テ受ケテ廣徳四年十二月一日ニ於テ現ニ本法第一條ノ業務ヲ營ム者ハ廣徳四年十二月三十一日迄ハ經濟部大臣ノ定ム

ル所ニ依リ其ノ旨届出スベシ

第四十五條 前二條ノ無盡業社ハ其ノ營業上ノ資金運用ニ付第十條ノ規定ニ依リノ外確實ナル擔保アル貸付ヲ爲スコトヲ得

第四十六條 第四十四條ノ二ノ規定ニ依リ無盡業社ノ現ニ有スル無盡業加入者ニ非ザル者ノ預金ハ廣徳九年十二月三十一日迄ハ之ヲ整理スルコトヲ要ス

附則 (廣徳四年十一月三十日勅令第三六三號) 本法ハ廣徳四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

交通、通信

○鐵道營業法

(廣徳元年九月十一日)
勅令第一一三號
改正 廣徳二年一月勅令第一三〇號、四年五月第八八
刑事法ノ部收載

○自動車運輸事業法

(廣徳四年三月十一日)
勅令第二七號
刑事法ノ部收載

○河川航運業法

(大同二年六月二十一日)
勅令第四九號
改正 廣徳元年三月勅令第一一號
刑事法ノ部收載

○航空法

(廣徳四年五月二十七日)
勅令第一〇四號
改正 廣徳二年一月勅令第一三〇號、四年五月第八八
刑事法ノ部收載

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ航空機トハ飛行機、航空機、氣球、滑空機其ノ他航空ノ用ニ供スル機器ヲ謂フ

第二條 本法ニ於テ航空機ノ飛行目的トスル陸上又ハ水上ノ滑走ヲ、離陸又ハ着陸ハ離水又ハ着水ヲ包含ス

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ所有スル航空機ハ之ヲ滿洲航空機トス

一 滿洲國又ハ滿洲國ノ公共團體

二 滿洲航空株式會社

三 滿洲國人民

四 滿洲國法令ニ依リ設立シタル會社ニシテ左ニ掲グル者ガ滿洲國人民タルモノ

(イ) 合資會社ニ在リテハ社員ノ全員

(ロ) 株式會社ニ在リテハ取締役ノ三分ノ二以上及資本ノ三分ノ二以上ニ當ル株主

五 第二號及前號ニ掲グル法人以外ノ法人ニシテ滿洲國法令ニ依リ設立シ其ノ代表者ノ全員ガ滿洲國人民タルモノ

六 前各號ニ掲グル者ノ外主務部大臣ノ特ニ指定スル者

第三條 本法ハ前二條及第四條ノ規定ヲ除クノ外軍用航空機ノ適用セズ

第四條 航空機ニ付テハ第二十二條、第三十四條、第三十五條、第三十九條、第四十條及第四十四條ノ規定ニ關シ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

勅令ヲ以テ指定スル航空機ニ付テハ第二章乃至第四章ニ規定スル事項ニ關シ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第四條 航空機ノ構造又ハ之ニ準ズベキモノノ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第五條 主務部大臣ハ軍事上又ハ航海上必要アリト認ムルトキハ航空機ノ所有ヲ制限若ハ禁止シ又ハ必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

第二章 航空機ノ検査及登録

第六條 航空機ヲ製造スル者ハ其ノ製造ニ付、塔狀證明書ヲ航空機ノ所有者ハ其ノ航空機ニ付主務部大臣ノ検査ヲ受ケタル後航空機ニ之ヲ適用セズ

第七條 塔狀證明書ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

一 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

二 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

三 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

四 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

五 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

六 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

七 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

八 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

九 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

十 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

十一 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

十二 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

十三 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

十四 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

十五 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

十六 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

十七 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

十八 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

十九 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

二十 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

二十一 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

二十二 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

二十三 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

二十四 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

二十五 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

二十六 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

二十七 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

二十八 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

二十九 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

三十 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

三十一 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

三十二 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

三十三 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

三十四 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

三十五 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

三十六 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

三十七 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

三十八 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

三十九 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

四十 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

四十一 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

四十二 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

四十三 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

四十四 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

四十五 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

四十六 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

四十七 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

四十八 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

四十九 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

五十 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第十三條 第六條第一項及第十一條ノ規定ハ航空機ノ試験ノ爲メ勅令ヲ以テ定ムル場所ニ於テ航空機ノ航空機ニ關シテハ之ヲ適用セズ

第十四條 第六條、第八條、第九條及第十二條ノ規定アルモノノ外航空機ノ検査又ハ登録ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 主務部大臣ハ第十二條ノ検査ノ結果ニ基キ其ノ他航空機ノ現狀ニ因リ必要アルトキハ航空機ノ使用ヲ制限、停止又ハ禁止シタルコトヲ得

第十六條 航空機ノ構造又ハ之ニ準ズベキモノノ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第十七條 塔狀證明書ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

一 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

二 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

三 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

四 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

五 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

六 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

七 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

八 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

九 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

十 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

十一 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

十二 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

十三 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

十四 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

十五 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

十六 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

十七 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

十八 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

十九 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

二十 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

二十一 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

二十二 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

二十三 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

二十四 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

二十五 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

二十六 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

二十七 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

二十八 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

二十九 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

三十 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

三十一 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

三十二 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

三十三 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

三十四 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

三十五 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

三十六 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

三十七 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

三十八 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

三十九 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

四十 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

四十一 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

四十二 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

四十三 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

四十四 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

四十五 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

四十六 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

四十七 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

四十八 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

四十九 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

五十 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第十八條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第十九條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第二十條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第二十一條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第二十二條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第二十三條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第二十四條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第二十五條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第二十六條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第二十七條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第二十八條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第二十九條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第三十條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第三十一條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第三十二條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第三十三條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第三十四條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第三十五條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第三十六條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第三十七條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第三十八條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第三十九條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第四十條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第四十一條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第四十二條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第四十三條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第四十四條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第四十五條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第四十六條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第四十七條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第四十八條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第四十九條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

第五十條 塔狀證明書ニ記載シタル有効期間ヲ超過シタルトキ

財政部大臣及郵政大臣（郵政管内に在りてハ郵政大臣トシテ其ノ他ノ條項ニ付テハ交通郵政大臣トス）

第七條 罰則

第三十五條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ七年以下ノ徒刑ニ處ス

第三十六條第二項又ハ第三十六條ノ規定ニ依ルテ罰止メ又ハ禁止メ違反シタル者ハ五年以下ノ徒刑又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ三年以下ノ徒刑又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條ノ規定ニ依ルテ罰止メ又ハ禁止メ違反シタル者ハ三年以下ノ徒刑又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條若シテ第十二條ノ規定ニ適合セザル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ第十五條第一項ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第十條ノ規定ニ違反シテ國籍記號若シテ登記記號ヲ表示セザル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ虚偽ノ國籍記號若シテ登記記號ヲ表示シタル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者

第三十七條第一項ノ規定ニ違反シタル者又ハ第三十七條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十八條ノ規定ニ違反シタル者

第三十九條ノ規定ニ違反シタル者

第四十五條第二項又ハ第四十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

左ノ各條ノ一ニ該當スル者ハ二年以下ノ徒刑又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐術ヲ用テ第六條若シテ第十二條ノ規定ニ適合セザル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者

二 第三十四條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第四十六條ノ規定ニ依リ罰金ニ處スル者

定ニ依リ罰金ニ處スル者ハ一年以下ノ徒刑又ハ一千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條第一項ノ規定ニ違反シタル者又ハ第二十一條第一項ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第二十七條若シテ第二十八條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第四十三條第一項ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第三十一條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ準用セラルル第三十七條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第三十七條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第四十二條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第四十三條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第四十四條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第四十五條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第四十六條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第四十七條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第四十八條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第四十九條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第五十條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第五十一條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第五十二條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第五十三條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第五十四條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第五十五條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第五十六條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第五十七條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第五十八條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第五十九條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第六十條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第六十一條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第六十二條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第六十三條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第六十四條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第六十五條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第六十六條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第六十七條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第六十八條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第六十九條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

第七十條ノ規定ニ依リ主官部大臣ノ爲メ命令ニ違反シタル者

住所ヲ表示セザル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ虚偽ノ氏名名稱若シテ住所ヲ表示シタル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者

第十一條ノ規定ニ違反シタル者

第十八條ノ規定ニ違反シタル者

第二十四條ノ規定ニ違反シタル者

第三十二條ノ規定ニ依リ罰金ニ處スル者

第五十八條 使用人其ノ他ノ從業員本人ノ職務ニ關シテ第五十一條第一項若シテ第三項、第五十四條第七項、第五十三條第一項、第五十六條第一項、第三十三條若シテ第四項又ハ前條第一項、第二項若シテ第四項ノ規定ニ關シテ行爲ヲ爲シタルトキハ該行爲者ヲ罰スルノ外本人ヲモ處罰ス但シ本人心時喪失者又ハ精神ニ關シテ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス

第五十九條 法人ノ使用人其ノ他ノ從業員法人ノ職務ニ關シテ行爲ヲ爲シタルトキハ該行爲者ヲ罰スルノ外該法人ノ職務ヲ執行スル社員又ハ職員ヲモ處罰ス

第六十條 第五十八條又ハ前條第一項ノ場合ニ於テ本人若シテ法定代理人又ハ社員若シテ職員ガ該違反行爲ヲ防止スル能カラレトキハ該法人ノ役員若シテ社員若シテ職員ハ之ヲ罰ス

第六十一條 左ノ各條ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第六條第一項ノ規定ニ違反シタル者

二 第八條第三項又ハ第九條第三項ノ規定ニ依リ罰金ニ處スル者

○郵便法

（昭和三年十二月二十五日）
（勅令第一九三號）

第九條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ塔狀證明書又ハ登録證明書ノ交付ヲ受ケタル者

第二十一條第三項ノ規定ニ依リ航空機ノ運付ヲ受ケタル者

第四十四條第一項ノ規定ニ依リ出テ運付タル者

法人前項第一號乃至第三號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ業務ヲ執行スル社員又ハ職員ヲ處罰ス

第六十二條 本法ハ昭和四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十三條 本法施行ノ際正規ノ手續ヲ經テ航空機ノ用ニ供スル航空機ニ付テハ第六條及第十一條ノ規定ニ拘ラズ本法施行ノ日ヨリ六月以内ノ限リ仍舊前ノ例ニ依ル

第六十四條 本法施行ノ際正規ノ手續ヲ經テ航空機ノ運付タル者ニ付テハ第六條ノ規定ニ拘ラズ本法施行ノ日ヨリ六月以内ノ限リ仍舊前ノ例ニ依ル

第六十五條 本法施行ノ際正規ノ手續ヲ經テ航空機若シテ航空機ノ用ニ供スル場所ニ付テハ第六條ノ規定ニ拘ラズ本法施行ノ日ヨリ六月以内ノ限リ仍舊前ノ例ニ依ル

第六十六條 本法施行ノ際正規ノ手續ヲ經テ航空機ニ依リ運送其ノ他ノ事業ヲ營ム者ハ從前ノ條件ヲ以テ第四十二條ノ規定ニ依リ特許ヲ受ケタル者ト看做ス

第四十一條（一）ニ依リ參照府ノ附屬機關郵便法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第二條 郵便ハ政府ノ之ヲ管理ス

第三條 何人トモ郵便物トシテ情書ノ送達ヲ爲スコトヲ得ズ

第四條 郵便物ノ其ノ代表者又ハ代理人其ノ他ノ從業者ハ貨物ニ添附スル無封ノ添状又ハ添状ヲ除外ノ外其ノ送達方法ニ依リ他人ノ爲メ情書ノ送達ヲ爲スコトヲ得ズ但シ命令ヲ以テ定ムル地域ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 郵便物ノ送達ノ要求アルトキハ其ノ送達方法ニ依リ郵便物ノ送達ヲ拒ムコトヲ得ズ

第六條 郵便物ノ送達ノ要求アルトキハ其ノ送達方法ニ依リ郵便物ノ送達ヲ拒ムコトヲ得ズ

第七條 郵便物ノ送達ノ要求アルトキハ其ノ送達方法ニ依リ郵便物ノ送達ヲ拒ムコトヲ得ズ

第八條 郵便物ノ送達ノ要求アルトキハ其ノ送達方法ニ依リ郵便物ノ送達ヲ拒ムコトヲ得ズ

第九條 郵便物ノ送達ノ要求アルトキハ其ノ送達方法ニ依リ郵便物ノ送達ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十條 郵便物ノ送達ノ要求アルトキハ其ノ送達方法ニ依リ郵便物ノ送達ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十一條 郵便物ノ送達ノ要求アルトキハ其ノ送達方法ニ依リ郵便物ノ送達ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十二條 郵便物ノ送達ノ要求アルトキハ其ノ送達方法ニ依リ郵便物ノ送達ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十三條 郵便物ノ送達ノ要求アルトキハ其ノ送達方法ニ依リ郵便物ノ送達ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十四條 郵便物ノ送達ノ要求アルトキハ其ノ送達方法ニ依リ郵便物ノ送達ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十五條 郵便物ノ送達ノ要求アルトキハ其ノ送達方法ニ依リ郵便物ノ送達ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十六條 郵便物ノ送達ノ要求アルトキハ其ノ送達方法ニ依リ郵便物ノ送達ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十七條 郵便物ノ送達ノ要求アルトキハ其ノ送達方法ニ依リ郵便物ノ送達ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十八條 郵便物ノ送達ノ要求アルトキハ其ノ送達方法ニ依リ郵便物ノ送達ヲ拒ムコトヲ得ズ

第十九條 郵便物ノ送達ノ要求アルトキハ其ノ送達方法ニ依リ郵便物ノ送達ヲ拒ムコトヲ得ズ

第二十條 郵便物ノ送達ノ要求アルトキハ其ノ送達方法ニ依リ郵便物ノ送達ヲ拒ムコトヲ得ズ

車馬等ハ道路、橋梁、渡津、開門其ノ他ノ場所ニ於テ通常ノ人馬車馬ヨリ優先シテ通行スルコトヲ得且通行ノ支拂フコトヲ要セズ

職務執行中ノ郵便運送人及郵便集配人ハ何時モテモ法律ノ出給又ハ開門ノ開放ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合郵政官署ニ於テ必要アリト認ムルトキハ相當ノ報酬ヲ支給スベシ

第七條 郵便物ノ物件及現ニ郵便ノ用ニ供スル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ズ

第八條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第九條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第十條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第十一條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第十二條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第十三條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第十四條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第十五條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第十六條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第十七條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第十八條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第十九條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第二十條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第二十一條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第二十二條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第二十三條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第二十四條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第二十五條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第二十六條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第二十七條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第二十八條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第二十九條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第三十條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第三十一條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第三十二條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第三十三條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第三十四條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第三十五條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第三十六條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第三十七條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第三十八條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第三十九條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

第四十條 郵便物ノ物件ハ何等ノ賦課ヲ受タルコトヲ得ズ

○郵政爲替法

(庚辰四年三月十一日) 勅令第二十四號

朕組織法(第四十一條)ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ郵政爲替法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 郵政爲替トハ差出人ノ請求ニ因リ郵政官署ニ於テ金...

○郵政儲金法

(庚辰四年三月十一日) 勅令第二十五號

朕組織法(第四十一條)ニ依リ參議府ノ諮詢ヲ經テ郵政儲金法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 郵政儲金トハ郵政官署ニ於テ金銀ノ預入ヲ受ケ之...

○郵政爲替法

(庚辰四年三月十一日) 勅令第二十六號

三 前二條ニ依リ保管スル證券ヲ賣却スルコト
第十條 郵政爲替ニ關シ行爲無能力者又ハ制限行爲能力者ノ...

諸法 郵政爲替法

文官諸考試

○文官令

(昭和五年五月七日 勅令第九五號)

基本法ノ部收載

○文官考試規程

(昭和五年五月七日 勅令第九二號)

基本法ノ部收載

第七條 臨時委員ハ高等官又ハ學識豐富ナル者ノ中ヨリ國務總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ジ又ハ委任ス

第八條 委員會ハ委員長及委員ニテ組織ス

第九條 委員長ハ委員會ノ日ヨリ少クモ三日前ニ召集及會議事項ヲ委任委員及臨時委員ニ通知スレバ但シ緊急ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 委員會ハ臨時委員三人ヲ設ケ

第十一條 委員會ハ高等官ノ中ヨリ國務總理大臣之ヲ命ス

第十二條 委員會ハ高等官五人以内ヲ設ケ

第十三條 委員會ハ高等官ノ中ヨリ國務總理大臣之ヲ命ス

第十四條 委員會ハ高等官ノ中ヨリ國務總理大臣之ヲ命ス

第十五條 各委員ハ高等官ノ中ヨリ國務總理大臣之ヲ命ス

附法 文官令 第百十八條ノ規定ニ依ル現職者ノ特例ニ關スル件

○簡任文官銓衡委員會官制

(昭和五年五月七日 勅令第九六號)

陸海軍府ノ職務ヲ兼テ簡任文官銓衡委員會官制ヲ設ケ可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 簡任文官銓衡委員會ハ國務總理大臣ノ監督ニ屬シ簡任官任用ノ職務ヲ掌ルル事ヲ管掌ス

第二條 簡任文官銓衡委員會ハ委員長、副委員長及委員ニテ組織ス

第三條 委員長ハ國務總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 副委員長ハ國務總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 委員ハ十二人トシ國務總理大臣ノ中ヨリ國務總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

第六條 委員會ハ委員長及委員ニテ組織ス

第七條 委員會ハ臨時委員一人ヲ設ケ

第八條 委員會ハ高等官ノ中ヨリ國務總理大臣之ヲ命ス

第九條 委員會ハ高等官ノ中ヨリ國務總理大臣之ヲ命ス

第十條 委員會ハ高等官ノ中ヨリ國務總理大臣之ヲ命ス

○文官考試委員會官制

(昭和五年五月七日 勅令第九七號)

改正 昭和六年二月第一三號 七年一〇月勅令第二四八號 陸海軍府ノ職務ヲ兼テ文官考試委員會官制ヲ設ケ可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 文官考試委員會ハ國務總理大臣ノ監督ニ屬シ高等文官考試委員會及委任文官考試委員會トス

第二條 高等文官考試委員會ハ高等官考試ニ關スル事項ヲ管掌シ委任文官考試委員會ハ委任官考試ニ關スル事項ヲ管掌ス

第三條 高等文官考試委員會ハ委員長及委員ニテ組織ス

第四條 高等文官考試委員會ハ國務總理大臣ノ中ヨリ國務總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

第五條 委員長ハ國務總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 委員ハ國務總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ

第七條 委員會ハ臨時委員一人ヲ設ケ

第八條 委員會ハ高等官ノ中ヨリ國務總理大臣之ヲ命ス

第九條 委員會ハ高等官ノ中ヨリ國務總理大臣之ヲ命ス

第十條 委員會ハ高等官ノ中ヨリ國務總理大臣之ヲ命ス

○文官令第百十八條ノ規定ニ依ル現職者ノ特例ニ關スル件

(昭和五年九月二十二日 勅令第二三二號)

改正 昭和六年四月第八五號 七年一〇月勅令第二五二號 陸海軍府ノ職務ヲ兼テ文官令第百十八條ノ規定ニ依ル現職者ノ特例ニ關スル件ヲ設ケ可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 文官令施行ノ際ニ於テ國務總理大臣ハ委任官考試委員會ハ其ノ人物、能力、職務成績及服務ニ依リ行政官又ハ司法官高等官資格考試ニ及格シタルモノト認メスコトヲ得

第二條 文官令施行ノ際ニ於テ國務總理大臣ハ委任官考試委員會ハ其ノ人物、能力、職務成績及服務ニ依リ行政官又ハ司法官高等官資格考試ニ及格シタルモノト認メスコトヲ得

第三條 文官令施行ノ際ニ於テ國務總理大臣ハ委任官考試委員會ハ其ノ人物、能力、職務成績及服務ニ依リ行政官又ハ司法官高等官資格考試ニ及格シタルモノト認メスコトヲ得

第四條 文官令施行ノ際ニ於テ國務總理大臣ハ委任官考試委員會ハ其ノ人物、能力、職務成績及服務ニ依リ行政官又ハ司法官高等官資格考試ニ及格シタルモノト認メスコトヲ得

第五條 文官令施行ノ際ニ於テ國務總理大臣ハ委任官考試委員會ハ其ノ人物、能力、職務成績及服務ニ依リ行政官又ハ司法官高等官資格考試ニ及格シタルモノト認メスコトヲ得

第五條 文官令施行ノ際ニハ大國學院第一等ニ在學中ノ委任官ハ行政官又ハ司法官トシテ考選シテ之ヲ任用スルコトヲ得...

第六條 大國學院第一等ニ入學ヲ許シテ文官令施行ノ際ニハ...

第七條 文官令施行ノ際ニハ高等官採用考試若ハ司法官採用考試...

第七條 第七條又ハ第九條ノ規定ニ依リ甲種委任官補選考試...

第八條 文官令施行ノ際ニハ高等官タル者ニ付テハ文官令第八十一條...

第九條 文官令施行ノ際ニハ文官令第九十一條ノ規定ニ依リ...

Table with 7 columns and 7 rows, likely a classification or grade table.

○考試問題提出ノ範圍限定

(高等文官考試委員分)

文官考試問題第八條ニ依リ廣義八年度高等文官考試問題提出ノ範圍ニ於ケル最新考査ノ範圍科目中文ノ科目ニ付其ノ出題ノ範圍ヲ左ノ通ニ規定ス

- 一 東洋史
- 一 世界地理
- 一 經濟地理(日本、滿洲、支那)
- 一 經濟史
- 一 經濟史學、日本經濟史又ハ滿洲中國經濟史中一ヲ選擇セシム
- 一 經濟學(右範圍中一ヲ選擇スレバ足ル)
- 一 民法
- (イ) 民法第一編全部
- 但シ第一節第二款住所、第三款不在及失踪、第三章一節、第四章第四節抵換及取消、第五節條件及期限、第五章一節ヲ除ク
- (ロ) 民法第二編全部
- 但シ第六節地役權、第七章典權、第八章留置權、第九章第二節質權ヲ除ク
- (ハ) 民法第三編全部
- 但シ第一節第三節多數債權者ノ債權、第七節遺贈、第二章第二節繼承、第四章交換、第六節使用貸借、第八章贈與、第九章買賣、第十節租賃、第十一節委任、第十二節寄託、第十三節組合、第十四節終身定期金、第十五節和解、

第三章事務管理、第四章不當利得ヲ除ク
前以上ノ外民法全體ニ通スル法則論ニ關スル出題ヲ爲ス
コトアルベシ

- 一 民法
- (イ) 民法總論
- (ロ) 會社法
- (ハ) 手形法
- 一 刑法
- 一 刑罰論及附屬罪
- 一 行政法
- (イ) 行政行為論
- (ロ) 行政上ノ強制執行論
- (ハ) 我國ニ於ケル官治行政組織論及自治行政組織論
- 一 官廳法
- 一 警察行政作用論
- 一 公企業論
- 一 國庫公法
- (イ) 債約
- (ロ) 治外法權一校
- (ハ) 中立法論

○高等文官考試委員分科會

高等文官考試委員分科會名稱	高等文官考試委員分科會委員長官職名	分科會所管職員
高等文官考試委員分科會	參議府書記長	參議府職員
參議府分科會	參議府書記長	參議府職員
衆議府分科會	衆議府書記長	衆議府職員
總務廳分科會	總務廳次長	總務廳職員
外務局分科會	外務局長官	外務局職員、駐日大使館、駐哈爾濱領事館、駐滿公使館、駐重公使館、駐在中華民國總商代表部、駐在歐亞代表部各職員
興安局分科會	興安局長官	興安局職員
審計局分科會	審計局長官	審計局職員
農實局分科會	農實局長官	農實局職員
官廳局分科會	官廳局長官	官廳局職員
官廳局分科會	官廳局長官	官廳局職員
地籍整理局分科會	地籍整理局長官	地籍整理局職員
地籍整理局分科會	地籍整理局長官	地籍整理局職員
大體科學院分科會	大體科學院長官	大體科學院、馬場研究所、歐亞研究所、地質研究所(畜産技術處)各職員
大同學院分科會	大同學院院長官	大同學院職員
建國大學分科會	建國大學校長官	建國大學職員
治安部分科會	治安部次長	治安部警務司、中央警察學校、海上警察隊、保安局(馬場局國立賽馬場) 國立種馬場、國立種馬育成場各職員

司法科高等官通格考試

Table with columns for date, time, and exam details. Includes dates like 二月十八日 and 二月十九日.

及文官考試ノ附屬考試ニ及格シタル者ニ付テハ之ヲ免職ス... (四) 施行期日及日額... (五) 應見考査...

司法科高等官通格考試

應見考査ノ左記書類ヲ取揃ヘ... (一) 應見書類... (二) 應見書類... (三) 應見書類...

時間

Table with columns for date and time. Includes dates like 二月十八日 and 二月十九日.

應見考査ハ應見八年三月中旬新設ニ於テ之ヲ行フ... (一) 第一次及格者名表... (二) 第二次及格者名表...

高等官特別登格考試

高等官特別登格考試

應見考査ノ各考査及格者成績表ノ成績ニ基キ最優ノ及格者ヲ決定シ... (一) 應見書類... (二) 應見書類...

一 應得五年功令第二百三十二條「文官令第十八條ノ規定ニ依リ...

二 考試(普通)方法
(一) 應得資格者
(二) 應得資格者

一 應得資格者
(一) 應得資格者
(二) 應得資格者

○高等官(技術官) 資格考試

應得八年功令第二百三十二條「文官令第十八條ノ規定ニ依リ...

一 應得資格者
(一) 應得資格者
(二) 應得資格者

諸法 高等官資格考試

一 應得資格者
(一) 應得資格者
(二) 應得資格者

Table with columns for date, time, and exam type. Includes dates like 三月十一日 and 三月十二日.

一 應得資格者
(一) 應得資格者
(二) 應得資格者

○高等官(技術官) 資格考試

應得八年功令第二百三十二條「文官令第十八條ノ規定ニ依リ...

一 應得資格者
(一) 應得資格者
(二) 應得資格者

諸法 高等官資格考試

一 應得資格者
(一) 應得資格者
(二) 應得資格者

Table with columns for date, time, and exam type. Includes dates like 三月十二日 and 三月十三日.

一 應得資格者
(一) 應得資格者
(二) 應得資格者

○高等官(技術官) 資格考試

應得八年功令第二百三十二條「文官令第十八條ノ規定ニ依リ...

一 應得資格者
(一) 應得資格者
(二) 應得資格者

諸法 高等官資格考試

(一) 應試書 (本人署名ノモノ) 封入シテ
 (二) 應試書 (本人署名ノモノ) 封入シテ
 (三) 應試書 (本人署名ノモノ) 封入シテ

一 應試書 (本人署名ノモノ) 封入シテ
 二 應試書 (本人署名ノモノ) 封入シテ
 三 應試書 (本人署名ノモノ) 封入シテ

○文官考試應試書式

高等官資格考試應試書
 第一號書式ノ一(用紙表裏紙)

高等官資格考試應試書
 寫真 本 氏 年 月 日生 名
 貼附 現住所 氏 年 月 日生 名
 通知ヲ受クベキ場所 氏 年 月 日生 名
 一 必須科目
 一 選擇科目
 高等官資格考試應試書ニ付書類相添ヘ此段及
 出願候也
 年 月 日 氏 名
 高等文官考試委員會委員長 殿 名

一 必須科目「選擇科目」及「希望應試地」ノ記載例ヲ示セバ左ノ如シ
 (記載例)
 (一) 必須科目 (一) 基本法(又ハ日本憲法) (二) 民法(又ハ日本民法) (三) 經濟學 (四) 東洋史 (五) 西語
 一 選擇科目 (一) 社會學 (二) 民事訴訟法(又ハ日本民事訴訟法)
 一 希望應試地 東京

二 寫真ハ裏面上部ニシテ寫真貼附ニ貼附スベシ
 三 本籍、現住所、通知ヲ受クベキ場所又ハ氏名ニ付變更アリタルトキハ直ニ届出ツベシ其ノ他ノ事項ニ關スル變更ハ特別ノ事由ナキ限り之ヲ認メズ
 (第一號書式ノ二(用紙裏紙))

高等官採用考試應試書
 寫真 本 氏 年 月 日生 名
 貼附 現住所 氏 年 月 日生 名
 通知ヲ受クベキ場所 氏 年 月 日生 名
 一 高等官資格考試及格證書番號
 一 文官令第八十六條ノ規定適用ノ希望ノ有無
 高等官採用考試應試書ニ付書類相添ヘ此段及
 出願候也
 年 月 日 氏 名
 高等文官考試委員會委員長 殿 名

一 高等官資格考試及格證書番號ノ記載例ヲ示セバ左ノ如シ
 (記載例)
 一 應試書 (本人署名ノモノ) 封入シテ
 二 應試書 (本人署名ノモノ) 封入シテ
 三 應試書 (本人署名ノモノ) 封入シテ

記載スベシ

二 「文官令第八十六條ノ規定適用ノ希望ノ有無」記載ノ爲
 同規定ヲ準ジテ
 文官令第八十六條
 高等官採用考試又ハ委任官第一種採用考試者ニシテ之
 ニ及格セザルモ高等文官考試委員會又ハ委任文官考試
 委員會ニ於テ適當ト認メタル者ハ夫夫之ヲ委任文官ノ
 第一種又ハ第二種採用考試ニ及格シタル者ト看做スコ
 トナリ得

三 寫真ハ裏面上部ニシテ寫真貼附ニ貼附スベシ
 本籍、現住所、通知ヲ受クベキ場所又ハ氏名ニ付變更アリタルトキハ直ニ届出ツベシ其ノ他ノ事項ニ關スル變更ハ特別ノ事由ナキ限り之ヲ認メズ
 (第一號書式ノ二(用紙裏紙))

委任官採用考試應試書
 寫真 本 氏 年 月 日生 名
 貼附 現住所 氏 年 月 日生 名
 通知ヲ受クベキ場所 氏 年 月 日生 名
 一 考試ノ等級
 一 希望應試地 (一) 學術考査 (二) 人物考査
 一 文官令第八十六條ノ規定適用ノ希望ノ有無
 委任官採用考試應試書ニ付書類相添ヘ此段及
 出願候也
 年 月 日 氏 名

何官種委任文官考試委員會委員長 殿

一 「考試ノ等級」ハ委任官第一種採用考試又ハ委任官第二種採用考試ノ別ヲ記載スベシ
 (記載例)
 一 考試ノ等級 委任官第一種採用考試
 二 「希望應試地」ノ記載例ヲ示セバ左ノ如シ
 (記載例)
 一 希望應試地 (一) 學術考査 奉天 (二) 人物考査 新京
 三 「文官令第八十六條ノ規定適用ノ希望ノ有無」記載ノ爲
 同規定ヲ準ジテ
 文官令第八十六條
 高等官採用考試又ハ委任官第一種採用考試應試書者ニシ
 テ之ニ及格セザルモ高等文官考試委員會又ハ委任文官
 考試委員會ニ於テ適當ト認メタル者ハ夫夫之ヲ委任官
 ノ第一種又ハ第二種採用考試ニ及格シタル者ト看做スコ
 コトナリ得

高等官資格考試應試書
 寫真 本 氏 年 月 日生 名
 貼附 現住所 氏 年 月 日生 名
 通知ヲ受クベキ場所 氏 年 月 日生 名
 一 必須科目
 一 選擇科目
 高等官資格考試應試書ニ付書類相添ヘ此段及
 出願候也
 年 月 日 氏 名
 高等文官考試委員會委員長 殿 名

考試ノ分科

高等官採用考試ニ及格シタル年月日
 高等官試用ニ任用セラレタル年月日
 文官令第八十八條ノ規定適用ノ希望ノ有無
 何科高等官資格考試應試書ニ付書類相添ヘ此
 段及出願候也
 年 月 日 氏 名
 高等文官考試委員會委員長 殿 名

高等官採用考試應試書
 寫真 本 氏 年 月 日生 名
 貼附 現住所 氏 年 月 日生 名
 通知ヲ受クベキ場所 氏 年 月 日生 名
 一 高等官資格考試及格證書番號
 一 文官令第八十六條ノ規定適用ノ希望ノ有無
 高等官採用考試應試書ニ付書類相添ヘ此段及
 出願候也
 年 月 日 氏 名
 高等文官考試委員會委員長 殿 名

諸法 文官考試應試書式

其ノ應考者ニ及格シタル者ハ其ノ願ニ依リ之ヲ當該
 科委任官補格考試ニ及格シタル者ト看做スコトヲ得
 六 「所屬官署」何處應考者名之ヲ記載スベシ
 (記載例)
 所屬官署 興善郡大官署用人事務科
 七 官長ハ其面上部ニ補テ若ケ官長貼附ニ貼附スベシ
 八 應試書及其ノ附屬書類ハ高等文官考試委員會ノ各官
 署分科會宛送付スベシ
 九 本籍、現住所、所屬官署又ハ氏名ニ付變更アリタルト
 キハ直ニ届出アベシ其ノ他ノ事項ニ關スル變更ハ特別ノ
 事由ヲ以テ之ヲ得メズ
 第一應試書ノ五、六(用紙表裏紙)
 委任官補格考試應試書
 官長 本 氏 名
 現住所 氏 名
 貼附書類 所屬官署
 年 月 日 氏 名
 右 氏 名

何官署委任文官考試委員會委員長殿
 一 「考試ノ分科」ハ行政科又ハ司法科ノ別ヲ記載スベシ
 (記載例)
 一 「考試ノ分科」行政科
 二 「應試書」ノ記載例ヲ示サバ左ノ如シ
 (記載例)
 一 「應試書」 漢語
 二 「委任官採用考試ニ及格シタル年月日」ノ記載例ヲ示サ
 バ左ノ如シ
 (記載例)
 一 「委任官採用考試ニ及格シタル年月日」 廣徳七年十月
 十五日
 二 「文官令第八十九條ノ規定適用ノ有無」記載ノ爲
 同規定ヲ準グレバ
 文官令第八十九條
 委任官採用考試ニレテ各科委任官補格考試ニ及格セザルモ
 其ノ應考者ニ及格シタル者ハ其ノ願ニ依リ之ヲ當該
 科委任官第二種採用考試ニ及格シタル者ト看做スコト
 ヲ得
 六 「所屬官署」何處應考者名之ヲ記載スベシ
 (記載例)
 所屬官署 德島縣地方行政科
 七 官長ハ其面上部ニ補テ若ケ官長貼附ニ貼附スベシ

高等文官考試委員會委員長殿
 八 本籍、現住所、所屬官署又ハ氏名ニ付變更アリタルト
 キハ直ニ届出アベシ其ノ他ノ事項ニ關スル變更ハ特別ノ
 事由ヲ以テ之ヲ得メズ
 第一應試書ノ四(用紙表裏紙)
 高等文官補格考試應試書
 官長 本 氏 名
 現住所 氏 名
 貼附書類 所屬官署
 年 月 日 氏 名
 右 氏 名
 高等文官考試委員會委員長殿
 一 「考試ノ分科」ハ行政科又ハ司法科ノ別ヲ記載スベシ
 (記載例)
 一 「考試ノ分科」行政科
 二 「應試書」ノ記載例ヲ示サバ左ノ如シ
 (記載例)
 一 「應試書」 漢語
 一 「委任官採用考試ニ及格シタル年月日」ノ記載例ヲ示サ
 バ左ノ如シ
 (記載例)
 一 「委任官採用考試ニ及格シタル年月日」 廣徳八年閏月
 十五日
 二 「文官令第八十九條ノ規定適用ノ有無」記載ノ爲
 同規定ヲ準グレバ
 文官令第八十九條
 委任官採用考試ニレテ各科委任官補格考試ニ及格セザルモ
 其ノ應考者ニ及格シタル者ハ其ノ願ニ依リ之ヲ當該
 科委任官第二種採用考試ニ及格シタル者ト看做スコト
 ヲ得
 六 「所屬官署」何處應考者名之ヲ記載スベシ
 (記載例)
 所屬官署 德島縣地方行政科
 七 官長ハ其面上部ニ補テ若ケ官長貼附ニ貼附スベシ

(記載例) 一 「應試書」 漢語
 二 「委任官採用考試ニ及格シタル年月日」ノ記載例ヲ示サ
 バ左ノ如シ
 (記載例)
 一 「委任官採用考試ニ及格シタル年月日」 廣徳八年閏月
 十五日
 二 「文官令第八十九條ノ規定適用ノ有無」記載ノ爲
 同規定ヲ準グレバ
 文官令第八十九條
 委任官採用考試ニレテ各科委任官補格考試ニ及格セザルモ
 其ノ應考者ニ及格シタル者ハ其ノ願ニ依リ之ヲ當該
 科委任官第二種採用考試ニ及格シタル者ト看做スコト
 ヲ得
 六 「所屬官署」何處應考者名之ヲ記載スベシ
 (記載例)
 所屬官署 興善郡大官署用人事務科
 七 官長ハ其面上部ニ補テ若ケ官長貼附ニ貼附スベシ
 八 應試書及其ノ附屬書類ハ高等文官考試委員會ノ各官
 署分科會宛送付スベシ
 九 本籍、現住所、所屬官署又ハ氏名ニ付變更アリタルト
 キハ直ニ届出アベシ其ノ他ノ事項ニ關スル變更ハ特別ノ
 事由ヲ以テ之ヲ得メズ
 第二應試書(用紙表裏紙)

本 氏 名
 現住所 氏 名
 貼附書類 所屬官署
 年 月 日 氏 名
 右 氏 名
 高等文官補格考試應試書
 官長 本 氏 名
 現住所 氏 名
 貼附書類 所屬官署
 年 月 日 氏 名
 右 氏 名

諸法 文官考試應試書式

第三應試書(用紙表裏紙)
 本 氏 名
 現住所 氏 名
 貼附書類 所屬官署
 年 月 日 氏 名
 右 氏 名
 高等文官補格考試應試書
 官長 本 氏 名
 現住所 氏 名
 貼附書類 所屬官署
 年 月 日 氏 名
 右 氏 名

身長	胸圍	腕圍	視力	視聽
氏 名	氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
年 月 日 氏 名	年 月 日 氏 名	年 月 日 氏 名	年 月 日 氏 名	年 月 日 氏 名

第五應試書(用紙表裏紙)
 本 氏 名
 現住所 氏 名
 貼附書類 所屬官署
 年 月 日 氏 名
 右 氏 名
 高等文官補格考試應試書
 官長 本 氏 名
 現住所 氏 名
 貼附書類 所屬官署
 年 月 日 氏 名
 右 氏 名

官能	各部	備考
年 月 日 氏 名	年 月 日 氏 名	年 月 日 氏 名

○文官考試問題集 康徳六年度行政科高等官特別 登格考試學術考查問題

康徳六年度行政科高等官特別登格考試ニ於ケル學術考查ノ必
須科目ニ本法(註ニ選擇科目ノ各科目ニ付學術考查當日ハ
左記問題中ヨリ適宜出題スルモノトス

(一) 必讀科目

- 1. 皇朝ノ大體ヲ論ズ
- 2. 帝位繼承ノ範圍及順位ヲ説明スベシ
- 3. 參議府ノ組織上ノ地位ヲ論ズ
- 4. 國務總理大臣ノ地位ヲ論ジ各都大臣トノ關係ヲ明カセ
- 5. 人權保障ト其ノ制限ヲ論ズ
- 6. 憲法第二十四條ヲ解釋シ特ニ其ノ第二項ニ付キ立法上
ノ理由ヲ説明スベシ
- 7. 三權分立說ヲ論評セ
- 8. 法律ト命令トノ關係ヲ説明スベシ

「哲學的」ト「科學的」トノ異同

内界ト外界トノ邊

親子ノ愛ノ本質
人間ハ何故小宇宙ト呼バレルヤ
人格ノ擴大(自己ノ發展)

本ルチンスク(尼布楚)條約ノ始末ヲ略述スベシ
日露戰爭ノ原因及結果ヲ略述スベシ
阿片戰爭ノ原因ヲ略述スベシ
高句麗ノ興亡ヲ略述スベシ
孔孟ノ政治主義ヲ略述スベシ

滿洲帝國ト外交關係ノアル諸國ノ政治地理ニ付キ知ル所
ヲ略述セ

國民性ヲ規定スル諸條件ヲ列挙シ簡單ナル説明ヲ附スベシ

康徳六年度選舉ノ特徴ヲ論ズ
我國國號及地方官ヲ通ジ農民負擔ノ現狀ヲ論ズ
我國保稅制度ノ意義及效用ヲ論ズ
阿片專賣制度ノ意義ヲ論ズ
投資特別會計ヲ論ズ

現代プロウツク經濟ヲ論ズベシ
滿洲五箇年計畫ヲ論評スベシ
他國組合ノ本質ヲ論評スベシ
關稅ダンピングノ理論ヲ論評スベシ
關稅改革ノ方策ヲ論ズ
關稅支拂下ニ於ケル貯蓄運送ノ意義ヲ論ズ
平時經濟對策ト戰時經濟對策トノ異同ヲ論ズ
物價騰貴ノ原因ヲ論ジ統制經濟下ニ於ケル物價對策ニ論
及スベシ

康徳六年度司法科高等官特別登格考試學術考查問題
特別登格考試ニ於ケル學術考查ハ各科目(國學及常識ヲ除ク)
ニ付學術考查當日左記問題中ヨリ適宜出題スルモノトス

康徳六年度司法科高等官特別 登格考試學術考查問題

康徳六年度司法科高等官特別登格考試學術考查問題
特別登格考試ニ於ケル學術考查ハ各科目(國學及常識ヲ除ク)
ニ付學術考查當日左記問題中ヨリ適宜出題スルモノトス

- 一 皇朝ノ大體ヲ論ズ
- 二 參議府ノ組織上ノ地位ヲ論ズ
- 三 國務總理大臣ノ地位ヲ論ズ
- 四 各都大臣ノ地位及權限ヲ論ズ
- 五 人權保障ノ本質ヲ論ズ
- 六 憲法第二十四條ヲ解釋シ特ニ其ノ第二項ニ付キ立法上ノ理由ヲ論ズ
- 七 三權分立說ヲ論評セ
- 八 法律ト命令トノ關係ヲ説明スベシ

防衛令

滿洲帝國ノ幣制統一ト聯合石炭山ノ幣制統一
日本ニ於ケル度又ハ西洋中世ノ同盟組合ト類似ノ制度ヲ
滿洲國及中國ニ存在スルヤ否ヤ

行政官廳ニ付テハ
無權代理人ノ爲シタル法律行為ノ效力ヲ説明スベシ
法律行為ノ取消ノ原因及其ノ效果ヲ説明スベシ
各種擔保物權ノ性質ヲ比較シ其ノ異同ヲ説明スベシ
債權者ノ選擇ヲ説明スベシ
保證債務ノ性質及效力ヲ説明スベシ
代物擔保ノ性質ヲ論ズ

強盜罪ト恐嚇罪ノ區別
官吏ノ職務ヲ論ズ
我國地方制度ヲ論ズ
行政監督ニ就キ論ズ
地方團體ノ組織ニ就キ論ズ
行政法上ノ強制手段ヲ論ズ
我國地方自治ノ意義ヲ論ズ
警察權ノ範圍ヲ論ズ
鄉村行政ノ綜合的運營ニ就キ論ズ
地方行政ニ於ケル協和會活動ノ意義
行政官廳ノ組織及權限
國庫公債
國庫公法ノ拘束力ヲ論ズ
國家ノ自衛權ヲ論ズ
國際河川ノ性質ヲ論ズ
外交官及領事官ノ特權ヲ論ズ
日滿兩國ノ各立憲ヨリ九國條約否認ノ理論ヲ構成セ

一 民法第二條ヲ説明セ

二 土地所有權ニ關スル民法ノ規定ヲ説明セ

三 損害賠償請求權ノ發生原因ヲ説明セ

四 不當利益ノ效力ヲ説明セ

五 債權ノ效力ニ付テハ

六 債權ニ於ケル取消ノ意義及效力ヲ説明セ

七 民法ニ於ケル擔保規定ヲ説明セ

八 刑罰ノ效力

九 犯罪ノ重輕ニ依リテ

- 一 裁判ノ適用
- 二 裁判ノ執行
- 三 裁判ノ執行ノ手続
- 四 裁判ノ執行ノ手続ノ終結
- 五 裁判ノ執行ノ手続ノ終結ノ後ノ手続
- 六 裁判ノ執行ノ手続ノ終結ノ後ノ手続ノ手続
- 七 裁判ノ執行ノ手続ノ終結ノ後ノ手続ノ手続
- 八 裁判ノ執行ノ手続ノ終結ノ後ノ手続ノ手続
- 九 裁判ノ執行ノ手続ノ終結ノ後ノ手続ノ手続
- 十 裁判ノ執行ノ手続ノ終結ノ後ノ手続ノ手続

其外個人某ハ右公使ヲ相手取リ德國法院ニ損害賠償ノ訴ヲ提
起シタリ右事件ニ付德國法院ニ裁判アリヤ
康徳六年二月一日ノ第一回口頭審問期日ニ當テ被告方出頭
セズ同年三月十日ノ第二回口頭審問期日ニハ當テ被告方出頭
シテ辯論シタルモ同年四月二十日ノ第三回口頭審問期日ニハ
當テ被告方出頭セズ同年五月十日ノ第四回口頭審問期日ニ當
テ被告方出頭シ辯論ノ後法院ハ口頭審問ヲ終結シ同年五月十七
日ニ原告勝訴ノ判決ヲ宣讀シタルコト被告ハ之ニ對シ四月
二十日德國政府ニ對シ第一審判決ヲ取消ス被控人ノ請求ヲ棄
却ストノ判決ヲ求メタリ按テ被告法院ハ如何ニ措置スベキヤ
六 左ノ事項ヲ簡明ニ説明セヨ
(1) 原告勝訴ノ判決
(2) 被告勝訴ノ判決
(3) 原告被告ノ和解
七 共同訴訟ハ如何ナル場合ニ必要ナリヤ其ノ效果如何
八 甲乙ニ對シシテ被告五千人ノ損害アリトシテ之ヲ賠償シタリ
乙ハ所ル賠償ヲ會テ甲ニ對シ賠償シタルコトナシトシテ被告
不存在ニ對シテ法院ニ提議シタリ此ノ場合乙ニ於テ被告不
存在ヲ立証スベキモノナリヤ
九 若シ乙ニ於テ甲主要ノ債務ハ會テ負擔シタルモ既ニ清算シテ
損害存在セズトシテ不存在ニ對シテ請求ムル場合ノ立証責任如何
十 甲乙ニ對シテ被告請求ノ訴ヲ提起シタルトコト被告上訴
解除立シタルニ對シテ甲ハ右辯論ハ乙ノ提議ニ因リ爲サレタル
モノナレバ之ヲ取消シタリトシテ法院ニ對シ更正ニ右被告事件
ヲ引續キ審問アリタリトシテ期日指定ノ申請ヲ爲シタリ法院
ハ如何ニ措置スベキヤ

- 一 裁判ノ適用
- 二 裁判ノ執行
- 三 裁判ノ執行ノ手続
- 四 裁判ノ執行ノ手続ノ終結
- 五 裁判ノ執行ノ手続ノ終結ノ後ノ手続
- 六 裁判ノ執行ノ手続ノ終結ノ後ノ手続ノ手続
- 七 裁判ノ執行ノ手続ノ終結ノ後ノ手続ノ手続
- 八 裁判ノ執行ノ手続ノ終結ノ後ノ手続ノ手続
- 九 裁判ノ執行ノ手続ノ終結ノ後ノ手続ノ手続
- 十 裁判ノ執行ノ手続ノ終結ノ後ノ手続ノ手続
- 十一 裁判ノ執行ノ手続ノ終結ノ後ノ手続ノ手続
- 十二 裁判ノ執行ノ手続ノ終結ノ後ノ手続ノ手続

- 一 裁判ノ適用
- 二 裁判ノ執行
- 三 裁判ノ執行ノ手続
- 四 裁判ノ執行ノ手続ノ終結
- 五 裁判ノ執行ノ手続ノ終結ノ後ノ手続
- 六 裁判ノ執行ノ手続ノ終結ノ後ノ手続ノ手続
- 七 裁判ノ執行ノ手続ノ終結ノ後ノ手続ノ手続
- 八 裁判ノ執行ノ手続ノ終結ノ後ノ手続ノ手続
- 九 裁判ノ執行ノ手続ノ終結ノ後ノ手続ノ手続
- 十 裁判ノ執行ノ手続ノ終結ノ後ノ手続ノ手続

**康徳六年度高等官(行政科)採用考試
學術考査問題**
(康徳六年七月施行)

一 民法
一 債權ノ效力ヲ論ズ
二 日本民法ノ規定ニ對シテ
一 債權ノ效力ヲ論ズ
二 日本民法ノ規定ニ對シテ

二 民法
一 土地ノ所有權ノ成立
二 土地ノ所有權ノ消滅
三 土地ノ所有權ノ移轉
四 土地ノ所有權ノ負擔
五 土地ノ所有權ノ保護

三 民法
一 債權ノ消滅
二 債權ノ消滅ノ原因
三 債權ノ消滅ノ効果

四 民法
一 債權ノ消滅ノ原因
二 債權ノ消滅ノ効果

- 一 日本古代ノ氏族制度ト文化
- 二 明治維新ノ精神ト其ノ發展
- 三 清國時代ニ於ケル滿洲對策ノ始末ヲ略述セヨ
- 四 左ノ人名及ビ名稱ヲ釋スベシ
- 五 漢文ヲ釋ス
- 六 漢文ヲ釋ス
- 七 漢文ヲ釋ス
- 八 漢文ヲ釋ス
- 九 漢文ヲ釋ス
- 十 漢文ヲ釋ス
- 十一 漢文ヲ釋ス
- 十二 漢文ヲ釋ス

- 3 日本通商航海條約の要旨ヲ論ズ
- 4 左記十問中ヨリ五問ヲ選ビテ解答セヨ
- 1 我が國著名な院坑
- 2 人民團體法
- 3 我が國ヲ承認セル諸外國名
- 4 マヂノ條
- 5 地租法
- 6 地租法
- 7 地租法
- 8 地租法
- 9 地租法
- 10 不法行為

○康德七年度高等官(行政科)採用考試學術考查問題 (康德七年七月施行)

- 一 憲法ニ於テハ大體ヲ說明スベシ
- 二 國務總理大臣ト各部大臣トノ關係ヲ說明スベシ
- 三 日本憲法
- 四 帝國憲法第十一條及第十二條ノ大體ノ行使ト國務大臣ノ關係トノ關係ヲ明カニスベシ
- 五 帝國憲法第二章ノ規定スル臣民ノ義務ノ種類及ビ性質ヲ明カニスベシ
- 六 民法ニ於ケル土地使用權者所有者ヲ除ク保護ノ規定ヲ論ズベシ
- 七 民法ニ於ケル擔保債權請求權ノ發生原因ヲ論ズベシ
- 八 日本民法
- 九 契約自由ノ原則ノ現代ニ於ケル意義ヲ述ベヨ
- 十 地上權ノ性質及ビ種類ヲ述ベヨ
- 十一 地籍ノ意義
- 十二 地籍ノ種類
- 十三 地籍ノ種類
- 十四 地籍ノ種類
- 十五 地籍ノ種類

- 1 平安時代ニ於ケル日本ノ國風文化ノ發展
- 2 五德條約簽文ト明治新政府ノ精神トノ關係ヲ論ズ
- 3 ルマヂノ政治ノ推移ヲ明カニスベシ
- 4 日本史
- 5 第一問 左記二問中ヨリ一問ヲ選ビテ解答セヨ
- 6 1 今次(明治)等トシテ日本及滿洲國ノ立憲
- 7 2 滿洲國憲法トシテ日本及滿洲國ノ立憲
- 8 第二問 左記十問中ヨリ五問ヲ選ビテ解答セヨ
- 9 1 四國協約書
- 10 2 滿洲國特種勸業公社
- 11 3 フランクス
- 12 4 滿洲國十八省名
- 13 5 國兵法
- 14 6 切符制度
- 15 7 ナルヴィヤ
- 16 8 官定ノ身分保障
- 17 9 日本
- 18 10 憲法

- 一 北滿洲國及日本農村ノ更生ニ資スル爲メ、日滿兩國ノ勤勞青年ヲ勸導シ、滿洲國建設勤勞者仕職ヲ養成シ、農耕、土木其ノ他ノ生産事業ニ勤勞者仕職ヲ養成シ、之等實業ヲ滿洲國ノ理想ヲ把握シ與亞ノ大精神ヲ體得セシムト云フ
- 二 憲法ヲ解釋セヨ
- 三 軍隊教育の内容、不論如何の豐富、若し其の教育人材、也是無結果可以期待の。適當教育の軍官本身、若し其の精神、如何の高尚の必要、其教育不免徒勞形式而已。
- 四 左記十問中ヨリ五問ヲ選ビテ解答セヨ

- (リ) 社會
- 一 那件事當然是你辦萬不可推諉的雖然說顯下太忙左右般不開的事情若你早做去的好
- 二 他那個不憤就是從他高興裏出來的在他那正得意的時候兒朋友的好話那是聽不進去的感到爲上聽了聽起朋友的話來無發又太晚了
- 三 不論甚麼事情都聽不了他那是不錯的我也明知道他也了然這意思可是話不聽不這說說若真打聽他那可不容易的事
- 四 市公署當局爲謀市民幸福維持經濟計特令國務會館節市內之理髮洗衣燙髮等手續業者今後不准私自增漲工價故意囤積如有相違理由亦必須先期呈請該會核准後始能實行如敢故違者不貸云

- 1 小國物語
- 2 包圍
- 3 巧
- 4 巧
- 5 巧
- 6 巧
- 7 巧
- 8 巧
- 9 巧
- 10 巧

加除頁送付申込書

(最新考案加除式)

新制定

滿洲帝國六法加除頁

(日文)

册分

但康德八年八月以降分

追録未發行ノ年度ニハ加除申込者ニ限り當該年度新版ヲ特價提供スルコトアルベシ

右追録加除頁御發行ノ節ハ御送付被下度申込候也

官公署
 及住所
 省
 縣

姓名印

新京日本橋通リ七十六番地公報社内
 滿洲司法協會 御中

昭和十六年十一月二十五日
昭和十六年十一月二十五日
昭和十六年十一月二十五日
初版發行
初版發行
初版發行
改訂二版發行
改訂二版發行
改訂二版發行

日文新制定滿洲帝國六法

定價金參圓八拾錢

編纂者

滿洲司法協會
幹事 馬場

社

發行者

株式會社 巖波多野
東京市神田區神保町二丁目二番地

店

印刷者

東 幾太郎
大阪市西區奧美町五八番地

郎

著作
所著

發兌元

東京市神田區
神保町二丁目

巖波多野
株式會社
松堂書店

配給元

東京市神田區
淡路町二丁目

日本出版配給株式會社

電話九段四一三五番一四一三八番
振替口座東京一六五五番
會員登錄號第一〇六五五番

